

目 次

【前期】

時 間 割	【区分】	科目番号	
基礎統計学	【講義】	OD021007	1
細胞分子生物学実習Ⅰ(分子生物学実習)	【実習】	OD021010	3
医療倫理学	【講義】	OD021001	5
Practical English Ⅱ	【講義】	OD021011	7
系統解剖学Ⅱ	【講義】	OD021112	9
発生学・組織学演習Ⅰ	【演習】	OD021109	11
歯の解剖学	【演習】	OD021115	14
生理学Ⅱ	【講義】	OD021114	18
薬理学	【講義】	OD021104	20
生化学Ⅰ	【講義】	OD021102	23
細菌学	【講義】	OD021105	26
歯科理工学Ⅱ	【講義】	OD021113	29
歯科医療工学実習	【実習】	OD021111	31
衛生学	【講義】	OD021107	36
外科学	【講義】	OD021304	38
ドイツ語Ⅱ	【講義】	OD022001	41
中国語Ⅱ	【講義】	OD022002	43
ライフコースの社会学	【講義】	OD072008	45
比較文化論	【講義】	OD072011	47
福博の歴史と文化探訪	【講義】	OD072012	49

【後期】

時 間 割			
assertiveness training	【演習】	OD021013	52
Scientific English Ⅱ	【講義】	OD021012	54
系統解剖学Ⅲ	【講義】	OD021120	56
系統解剖学実習	【実習】	OD021116	58
発生学・組織学演習Ⅱ	【演習】	OD021121	61
生理学Ⅲ	【講義】	OD021122	63
口腔薬理学	【講義】	OD021117	65

	【区分】	科目番号	
生 化 学 II	【講義】	OD021123	・ ・ ・ ・ ・ 68
機能生物化学実習 I (化学・生化系)	【実習】	OD021110	・ ・ ・ ・ ・ 71
口 腔 細 菌 学	【講義】	OD021118	・ ・ ・ ・ ・ 73
基 礎 免 疫 学	【講義】	OD021119	・ ・ ・ ・ ・ 76
病 理 学	【講義】	OD021106	・ ・ ・ ・ ・ 79
歯 科 理 工 学 III	【講義】	OD021124	・ ・ ・ ・ ・ 82
口 腔 保 健 学 I	【講義】	OD021201	・ ・ ・ ・ ・ 85
生 命 倫 理 学	【講義】	OD021302	・ ・ ・ ・ ・ 87
医 療 ・ 臨 床 心 理 学	【講義】	OD021305	・ ・ ・ ・ ・ 89
美 学	【講義】	OD022003	・ ・ ・ ・ ・ 91

前 期

基礎統計学 【講義】

科目番号 0D021007

前期：15コマ

評価責任者：学生部長、谷口奈央

担当教員：工藤文彦

（一般目標）

単なる数学ではなく、医療従事者としての基礎的素養として、統計学の基本的事項を体得する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）

I-8

（教育方法）

主としてPCを用いた実習とする。必要に応じ、教材配布する場合がある。

（実習・演習）

（学習方法）

学習の基本的姿勢として、自らが積極的に丁寧に学習し、分からないものを放置しないことである。恥ずかしいのは、「分からぬ」ものを「分かる」と偽ることであり、患者様の生命をお預かりする将来の医療従事者として、真摯な態度で臨みたい。学習にあたって必要なことは随時指示する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評 価）

定期試験の代替として、講義最終回にて提出課題を課す。評価結果をポータルサイトに掲示する。

（教科書）

石村友二郎・劉晨(著)・石村貞夫(監修) 「Excelでやさしく学ぶ統計解析」 東京図書

（参考書）

特記事項なし

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/11	工藤	統計学を学ぶにあたり	高校までの数学の基本的内容を振り返りつつ、統計学とは何かについて理解する。	左記学習目標の達成を目指し、自覚を持って講義に参加し、その内容を論理的かつ合理的に説明できる。	I-8	左記ユニットに応じた学習範囲について、予め目を通しておくことが望ましい。	1.0
2	4/11	工藤	Excel演習	データベース形式の各種操作を学ぶ。	左記学習目標の達成を目指し、自覚を持って講義に参加し、その内容を論理的かつ合理的に説明できる。	I-8	左記ユニットに応じた学習範囲について、予め目を通しておくことが望ましい。	1.0
3	4/17	工藤	1変数のグラフ表現	棒グラフや円グラフなど、統計学で見られるグラフの種類と性質、描き方を学ぶ。	左記学習目標の達成を目指し、自覚を持って講義に参加し、その内容を論理的かつ合理的に説明できる。	I-8	左記ユニットに応じた学習範囲について、予め目を通しておくことが望ましい。	1.0
4	4/25	工藤	1変数の統計量	平均値や不偏分散、標準偏差などの基本統計量について学ぶ。	左記学習目標の達成を目指し、自覚を持って講義に参加し、その内容を論理的かつ合理的に説明できる。	I-8	左記ユニットに応じた学習範囲について、予め目を通しておくことが望ましい。	1.0
5	4/25	工藤	2変数のグラフ表現と統計量	2変数データ解析でよく見られる散布図を基に、相関係数などを学ぶ。	左記学習目標の達成を目指し、自覚を持って講義に参加し、その内容を論理的かつ合理的に説明できる。	I-8	左記ユニットに応じた学習範囲について、予め目を通しておくことが望ましい。	1.0
6	5/2	工藤	回帰直線とその予測	回帰直線の意味に触れ、直近の将来予測を行う。	左記学習目標の達成を目指し、自覚を持って講義に参加し、その内容を論理的かつ合理的に説明できる。	I-8	左記ユニットに応じた学習範囲について、予め目を通しておくことが望ましい。	1.0
7	5/9	工藤	時系列データと明日の予測	3項移動平均、5項移動平均、指数平滑化について触れ、直近の将来予測を行う。	左記学習目標の達成を目指し、自覚を持って講義に参加し、その内容を論理的かつ合理的に説明できる。	I-8	左記ユニットに応じた学習範囲について、予め目を通しておくことが望ましい。	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
8	5/16	工藤	度数分布表とヒストグラム	大量のデータから度数分布表を作成し、ヒストグラムからデータの傾向を読み取る。	左記学習目標の達成を目指し、自覚を持って講義に参加し、その内容を論理的かつ合理的に説明できる。	I-8	左記ユニットに応じた学習範囲について、予め目を通しておくことが望ましい。	1.0
9	5/23	工藤	様々な確率分布関数	標準正規分布、カイ2乗分布、t分布、F分布について学ぶ。	左記学習目標の達成を目指し、自覚を持って講義に参加し、その内容を論理的かつ合理的に説明できる。	I-8	左記ユニットに応じた学習範囲について、予め目を通しておくことが望ましい。	1.0
10	5/30	工藤	区間推定①	統計的推定とその方法について学ぶ。	左記学習目標の達成を目指し、自覚を持って講義に参加し、その内容を論理的かつ合理的に説明できる。	I-8	左記ユニットに応じた学習範囲について、予め目を通しておくことが望ましい。	1.0
11	6/6	工藤	区間推定②	統計的推定とその方法について学ぶ。	左記学習目標の達成を目指し、自覚を持って講義に参加し、その内容を論理的かつ合理的に説明できる。	I-8	左記ユニットに応じた学習範囲について、予め目を通しておくことが望ましい。	1.0
12	6/13	工藤	検定①	統計的推定とその方法について学ぶ。	左記学習目標の達成を目指し、自覚を持って講義に参加し、その内容を論理的かつ合理的に説明できる。	I-8	左記ユニットに応じた学習範囲について、予め目を通しておくことが望ましい。	1.0
13	6/20	工藤	検定②	統計的推定とその方法について学ぶ。	左記学習目標の達成を目指し、自覚を持って講義に参加し、その内容を論理的かつ合理的に説明できる。	I-8	左記ユニットに応じた学習範囲について、予め目を通しておくことが望ましい。	1.0
14	6/27	工藤	クロス集計と独立性の検定	アンケート結果からクロス集計表を作成し、独立性の検定について学ぶ。	左記学習目標の達成を目指し、自覚を持って講義に参加し、その内容を論理的かつ合理的に説明できる。	I-8	左記ユニットに応じた学習範囲について、予め目を通しておくことが望ましい。	1.0
15	7/4	工藤	総合演習	これまでの学習内容を総括し、Excelの各種機能を適切に用いて課題を解く。	左記学習目標の達成を目指し、自覚を持って講義に参加し、その内容を論理的かつ合理的に説明できる。	I-8	左記ユニットに応じた学習範囲について、予め目を通しておくことが望ましい。	1.0

細胞分子生物学実習 I (分子生物学実習) 【実習】

科目番号 0D021010

前期：21コマ
評価責任者：日高真純
日高真純
担当教員：藤兼亮輔
飯森真人

(一般目標)

DNAを取り扱う実験を通して

1. 細胞生物学の講義の理解を深める。
2. 実験計画のつくり方、実験の進め方、得られた結果の解析の仕方、論理的な考察の仕方を習得する。

(獲得できるディプロマ・ポリシー [DP])

I-7, I-8, III-1, III-2

(教育方法)

1. 前もって実験計画を作成させ、実験内容を理解したうえで実験を行わせる。
2. 実験結果解析とレポートの提出を義務付ける。

(実習・演習)

(学習方法)

レポートは、実験に先立ってテキストをよく読んで実験内容、実験手順を理解したうえで、前もって実験計画書として書いておくこと。実際に実験を行った際に変更があった部分は、色の違う鉛筆やボールペン等で加筆訂正を行う。実験終了後、結果と考察を書き込んでそのまま提出する。清書し直す必要はない。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 6.3 時間】

(評価)

1. 実習態度 20%
2. レポート 80%

レポート提出時に実習内容について口頭試問を行い、理解度の不足している部分を指摘し再考させる。

(教科書)

実習テキストを配布する。

(参考書)

B. Alberts他著、中村桂子他監訳「Essential 細胞生物学」、第5版、南江堂、2021

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (GIO)	行動目標 (SOs)	DP	予習の項目	必要時間
1	5/30	[1回] 日高 藤兼 飯森	ユニット1 大腸菌の抗生物質感受性・耐性を支配する因子	大腸菌の感受性・耐性を検定する。	マイクロビペットの使い方、培地への菌液の接種の方法を説明する。	I-7	[1回] 実習テキストの8～11頁 実験計画書の作成 Essential細胞生物学174～176頁	1] 0.9
2	5/30				抗生物質に感受性と耐性的大腸菌を培養する。	I-7		
3	5/30							
4	6/6	[4回] 日高 藤兼 飯森	ユニット2 大腸菌の抗生物質感受性・耐性を支配する因子	プラスミドDNAの抽出法を習得する。	プラスミドDNAの抽出の原理を説明する。	I-8	[4回] 実習テキストの12～15頁 実験計画書の作成 Essential細胞生物学332～333頁	4] 0.9
5	6/6				大腸菌よりプラスミドDNAの抽出を実験する。	I-8		
6	6/6							

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
7	6/13	[7回] 日高 藤兼 飯森	ユニット3 大腸菌の抗生物質感受性・耐性を支配する因子	アガロースゲル電気泳動の原理と方法を習得する。	電気泳動の原理を説明する。	I-7	[7回] 実習テキストの16～19頁 実験計画書の作成 Essential細胞生物学328頁	[7] 0.9
8	6/13				抽出したプラスミドDNAを電気泳動により分析する。	I-8		
9	6/13							
10	6/20	[10回] 日高 藤兼 飯森	ユニット4 大腸菌の抗生物質感受性・耐性を支配する因子	遺伝子工学の手法を理解する。	ユニット1～3の結果を考察する。	I-8	[10回] 実習テキストの20～21頁 実験計画書の作成 Essential細胞生物学327頁	[10] 0.9
11	6/20							
12	6/20		ユニット5 大腸菌に抗生物質耐性を与える因子の化学的自体	種々の酵素の基質特異性を理解する。	制限酵素の働きを説明する。	I-8		
					プラスミドDNAを制限酵素や各種酵素で処理する。	I-8		
13	6/27	[13回] 日高 藤兼 飯森	ユニット6 大腸菌に抗生物質耐性を与える因子の化学的自体	酵素処理した各プラスミドDNAの電気泳動による分析法を理解する。	酵素処理済みのDNAと未処理のDNAを電気泳動により分析する。	I-8	[13回] 実習テキストの22頁 実験計画書の作成 Essential細胞生物学328頁	[13] 0.9
14	6/27							
15	6/27							
16	7/3	[16回] 日高 藤兼 飯森	ユニット7 大腸菌に抗生物質耐性を与える因子の化学的自体	形質転換法の原理と手法を習得する。	形質転換について説明する。	Ⅲ-1	[16回] 実習テキストの23～25頁 実験計画書の作成 Essential細胞生物学332～333頁	[16] 0.9
17	7/3				大腸菌に抗生物質耐性を与える因子の化学的自体を調べる実験を行う。	Ⅲ-1		
18	7/3							
19	7/4	[19回] 日高 藤兼 飯森	ユニット8 大腸菌に抗生物質耐性を与える因子の化学的自体	DNAが遺伝物質であることを理解する。	ユニット4～7の結果を考察する。	Ⅲ-2	[19回] 実習テキストの25頁 実験計画書の作成 Essential細胞生物学174～176頁	[19] 0.9
20	7/4							
21	7/4							

医療倫理学 【講義】

科目番号 OD021001

前期：15コマ

評価責任者：永嶋哲也

担当教員：永嶋哲也

（一般目標）

教養ある歯科医師となるために、医療倫理学において問われているさまざまな倫理問題を学ぶことによって、医療者としての責任を自覚し、医療が抱える倫理的問題について洞察を深める。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

I-2, I-3, I-4, I-6, II-1, II-2, V-1

（教育方法）

板書中心の講義形式。

毎回、授業内をまとめた復習プリントをMoodleにて配布する。期間は1週間で、その間に必ず復習しておくことを必須とする。

（学習方法）

授業を集中して聴く。

教科書は指定しないので、予習は指定のキーワードについて内容をネット等で調べ参照しておく。 【単位修得に必要な授業外学習

（予習・復習）時間：15.0時間】

（評価）

定期試験（80%）

平常評価（20%）授業出席状況、受講態度および復習プリントの取り組み状況による。

総合評価をポータルサイトに掲示する。

（教科書）

使用せず。講義の中で、適宜プリントが詳細資料として配布される。

（参考書）

大井賢一、木阪昌知共著『歯科医療倫理 Q&A』太陽出版、2000

（Q & A形式でわかりやすい）

加藤尚武著『応用倫理学のすすめ』丸善ライブラリー、1994

（倫理学の応用を分かりやすい仕方で述べているやさしい入門書）

清水哲郎、伊坂青司『生命と人生の倫理』放送大学教育振興会、2005

（医療倫理とその周辺の問題が論理的に論じられている）

そのほか講義の中で適宜紹介される。

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/1	永嶋哲也	1 イントロダクション	医療倫理学とはどういう学問か理解する	医療倫理学の意味、それを学ぶ意義について理解する	II-1	キーワード「医療倫理学、生命倫理学」	1.0
2	4/8	永嶋哲也	2-1 医療倫理規範	医療における倫理規範の意味を理解する	医療専門職と倫理規範との関係について説明できる	II-1	キーワード「医療専門職」「ヒポクラテスの誓い」「ジュネーブ宣言」	1.0
				伝統的医療倫理規範について理解する	伝統的医療倫理規範を説明できる * ヒポクラテスの誓い	II-1		
3	4/11	永嶋哲也	2-1 医療倫理規範	伝統的医療倫理規範について理解する	伝統的医療倫理規範を説明できる * ジュネーブ宣言	I-4	キーワード「世界医師会、ジュネーブ宣言」	1.0
4	4/15	永嶋哲也	2-2 医療倫理規範 研究倫理	医学研究の倫理規範について説明できる	伝統的医療倫理規範を説明できる * ニュルベルク綱領、ヘルシンキ宣言	I-4	キーワード「ニュルンベルク裁判、人体実験、臨床研究」「ヘルシンキ宣言」	1.0
5	4/22	永嶋哲也	2-2 医療倫理規範 研究倫理	医学研究の倫理規範について説明できる	新しい医療倫理規範を説明できる * タスキギー事件、ヘルシンキ宣言改定	I-4	キーワード「タスキギー事件、国家研究法」「ヘルシンキ宣言の改定」	1.0
6	4/24	永嶋哲也	2-2 医療倫理規範 研究倫理	医学研究の倫理規範について説明できる	倫理審査の制度について説明できる * 研究倫理指針、IRB/REC、研究不正	I-4	キーワード「倫理審査委員会、研究倫理指針」「研究不正」	1.0
7	5/13	永嶋哲也	2-3 医療倫理規範 患者の権利	新しい医療倫理規範（患者の権利）について説明できる	新しい医療倫理規範を説明できる * 患者の権利、リスボン宣言	I-2	キーワード「公民権運動、患者の権利、リスボン宣言」	1.0
8	5/20	永嶋哲也	2-4 医療倫理規範の現状	医療における倫理規範の現状について理解する	日本の医療倫理規範を説明できる * 医師の倫理、医の倫理綱領、職業倫理指針	I-3	キーワード「ソウル宣言、マドリッド宣言」「医師の倫理、倫理綱領、職業倫理綱領」	1.0
					プロフェッショナリズムに関する倫理宣言を説明できる * マドリッド宣言、ソウル宣言	I-4		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
9	5/27	永嶋哲也	3 尊厳と人権	尊厳と人権について理解する	尊厳の意味について人権との関連から説明できる *世界人権宣言	I-6	キーワード「世界人権宣言、尊厳の意味」	1.0
10	6/3	永嶋哲也	4-1 自然死・尊厳死・安楽死	他国での自然死、尊厳死、安楽死の合法化状況について理解する	尊厳死、安楽死、自然死について説明できる *自己決定、不治かつ末期	I-3	キーワード「自然死、自殺補助、安楽死の意味」	1.0
11	6/10	永嶋哲也	4-1 自然死・尊厳死・安楽死	他国での自然死、尊厳死、安楽死の合法化状況について理解する	尊厳死について説明できる *自殺補助、囑託殺人（積極的安楽死）	II-2	キーワード「延命措置の差し控え・中止、終末期の本人意思の尊重」	1.0
12	6/17	永嶋哲也	4-2 終末期と意思決定	人生の最終段階と医療選択に関わる意思決定について理解する	終末期医療の意思決定プロセスについて説明できる *リビングウィル	I-4	キーワード「リビングウィル、ACP」	1.0
					対話重視型の患者意思決定支援について説明できる *ACP、NBM	II-2		
13	6/24	永嶋哲也	5-1 尊厳と高齢者	高齢者の尊厳について理解する	棄老伝説について内実と背景を理解する	V-1	キーワード「棄老、うば捨て山」「PPK」	1.0
					『檜山節考』で描かれる問題点について理解する	V-1		
14	7/1	永嶋哲也	5-2 高齢者と倫理	高齢者医療のあるべき姿について理解する	高齢者医療について尊厳・棄老伝説をふまえ議論できる	V-1	キーワード「高齢者への積極的医療介入、エイジズム」	1.0
15	7/8	永嶋哲也	5-2 高齢者と倫理	高齢者医療のあるべき姿について理解する	高齢者医療と終末期医療との類似点、相違点を説明できる	II-1	キーワード「平穏死、胃ろう、延命治療」	1.0

Practical English II 【講義】

科目番号 OD021011

前期：15コマ
 評価責任者：学生部長
 Wilson Huff
 担当教員：Nielsen P. Moelgaard
 Jay J. Palarino

（一般目標）

In face-to-face communication, students should be able to:
 -use appropriate expressions in each situation
 -understand "who, what, when, where" type questions and answer them correctly
 -understand simple questions and statements related to daily life and correspond to them
 -understand minimum courtesy on interpersonal communication

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

VI-4

（教育方法）

The method of instruction is a student-centered one with different speaking activities such as games, role plays, information gaps, dialogues, interview, etc. Occasionally quizzes and review exercises will be given.
 （グループワーク）

（学習方法）

Read out the sentences from the textbook many times, and memorize them before and after every class. 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：15.0 時間】

（評価）

Graded comprehensively from class performance, regular exam, etc.: notify the grades after the regular exam

（教科書）

New Connection Book 2 (SEIBIDO)
 This course book helps students to communicate confidently and fluently in English.

（参考書）

Japanese-English dictionary
 English-Japanese dictionary

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/2	Huff, Moelgaard, Palarino	Unit 1 Roommates	Learning, using and applying various English phrases (Unit1)	Describing personal qualities, asking about problems, etc.	VI-4	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0
2	4/2	Huff, Moelgaard, Palarino	Unit 2 Checking Out	Learning, using and applying various English phrases (Unit2)	Making suggestions, giving warnings, etc.	VI-4	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0
3	4/9	Huff, Moelgaard, Palarino	Unit 3 Get in Shape	Learning, using and applying various English phrases (Unit3)	Discussing health, etc.	VI-4	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0
4	4/16	Huff, Moelgaard, Palarino	Unit 4 Money Management	Learning, using and applying various English phrases (Unit4)	Describing financial situations, talking about your budget, etc.	VI-4	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0
5	4/23	Huff, Moelgaard, Palarino	Unit 5 Close Ties	Learning, using and applying various English phrases (Unit5)	Expressing surprise, talking about progress, etc.	VI-4	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0
6	4/30	Huff, Moelgaard, Palarino	Unit 6 Time to Celebrate	Learning, using and applying various English phrases (Unit6)	Making and responding to invitations, etc.	VI-4	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
7	5/7	Huff, Moelgaard, Palarino	Unit 7 Animals in Danger	Learning, using and applying various English phrases (Unit7)	Being frank and joking, showing understanding, etc.	VI-4	テキストの音読、語句や文 章の意味確認と暗唱、会話 練習	1.0
8	5/14	Huff, Moelgaard, Palarino	Unit 8 A Fine Art	Learning, using and applying various English phrases (Unit8)	Talking about natural talents, etc.	VI-4	テキストの音読、語句や文 章の意味確認と暗唱、会話 練習	1.0
9	5/21	Huff, Moelgaard, Palarino	Unit 9 Tune In	Learning, using and applying various English phrases (Unit9)	Relaxing, etc.	VI-4	テキストの音読、語句や文 章の意味確認と暗唱、会話 練習	1.0
10	5/28	Huff, Moelgaard, Palarino	Unit 10 Music to Our Ears	Learning, using and applying various English phrases (Unit10)	Discussing success, talking about influence, etc.	VI-4	テキストの音読、語句や文 章の意味確認と暗唱、会話 練習	1.0
11	6/4	Huff, Moelgaard, Palarino	Unit 11 Study Abroad	Learning, using and applying various English phrases (Unit11)	Talking about easy and difficult things, expressing worry, etc.	VI-4	テキストの音読、語句や文 章の意味確認と暗唱、会話 練習	1.0
12	6/11	Huff, Moelgaard, Palarino	Unit 12 Technology and You	Learning, using and applying various English phrases (Unit12)	Expressing function, discussing technology, etc.	VI-4	テキストの音読、語句や文 章の意味確認と暗唱、会話 練習	1.0
13	6/18	Huff, Moelgaard, Palarino	Unit 13 Right and Wrong	Learning, using and applying various English phrases (Unit13)	Sharing information, showing anger, etc.	VI-4	テキストの音読、語句や文 章の意味確認と暗唱、会話 練習	1.0
14	6/25	Huff, Moelgaard, Palarino	Unit 14 Your Career Starts Now	Learning, using and applying various English phrases (Unit14)	Giving encouragement, discussing possibility, etc.	VI-4	テキストの音読、語句や文 章の意味確認と暗唱、会話 練習	1.0
15	7/2	Huff, Moelgaard, Palarino	Review lessons, oral test	Doing review lessons and taking an oral test	Review, using and applying learned English phrases, etc.	VI-4	テキストの音読、語句や文 章の意味確認と暗唱、会話 練習	1.0

系統解剖学Ⅱ 【講義】

科目番号 0D021112

前期：15コマ

評価責任者：児玉 淳

担当教員：児玉 淳

（一般目標）

人体の構造と機能を理解する上で最も基礎となる解剖学を、系統解剖学的に基本となる筋学、関節学、脈管学、内臓学から修得し口腔医学を学ぶための基礎を認識する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-2

（教育方法）

講義はシラバスに沿った板書・配布資料等を中心とした口述で行う。

（学習方法）

教科書や配布されるプリントを中心として解剖学の基本を理解する。

講義に欠かさず出席（4/5以上）し、予習は教科書の該当箇所を精読およびまとめること。また復習は配布されたプリントおよびノートを再度読み直しまとめること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 30.0 時間】

（評 価）

定期試験により成績評価を行う。評価はポータルサイトに掲示する。

（教 科 書）

森 於菟 他著「分担解剖学 1・2・3 第11版」金原出版 1992；口腔医学を学ぶために必要な人体の構造をまとめている（1年から6年まで使用します）

口腔解剖学 第2版 医歯薬出版： 臨床歯科学を踏まえた解剖学の知識をまとめているため。

（参 考 書）

1：分担解剖学 「第 2・3 巻 第11版」金原出版 1992

2：イラスト解剖学 松村譲児 中外医学社

3：口腔の機能と解剖 田畑純, 角田佳折 南山堂 2021

4：人体解剖学 改訂42版 藤田恒太郎 南江堂

5：ネッター頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖学アトラス 原著第2版 医歯薬出版

6：口腔解剖学 第2版 医歯薬出版

7：人体解剖カラーアトラス（電子書籍付）原書第8版 佐藤達夫/秋田恵一 南江堂

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/2	児玉	1.筋学各論1) 体幹（背部） の筋	体幹（背部）の筋を理解する。	体幹（背部）の筋の構成と機能（起始・停止），支配神経を説明できる。	Ⅲ-2	分担解剖学1「筋学」264-278ページ，口腔解剖学第3章「筋学総論」18-30ページ	2.0
2	4/9	児玉	1.筋学各論2) 体幹（胸・腹部） の筋	体幹（胸・腹部）の筋を理解する。	体幹（胸・腹部）の筋の構成と機能（起始・停止），支配神経を説明できる。	Ⅲ-2	分担解剖学1「筋学」308-332ページ，口腔解剖学第3章「筋学総論」18-30ページ	2.0
3	4/9	児玉	1.筋学各論3) 上・下肢の筋	上・下肢の筋を理解する。	上・下肢の筋の構成と機能（起始・停止），支配神経を説明できる。	Ⅲ-2	分担解剖学1「筋学」333-377ページ，口腔解剖学第3章「筋学総論」18-30ページ	2.0
4	4/16	児玉	1.筋学各論4) 頭部（表情筋） の筋	表情筋（顔面筋・皮筋）を理解する。	表情筋の構成と機能（起始・停止），支配神経を説明できる。	Ⅲ-2	分担解剖学1「筋学」378-430ページ，口腔解剖学第3章「筋学総論」18-30ページ	2.0
5	4/16	児玉	1.筋学各論5) 頭部（四大咀嚼筋） の筋	四大咀嚼筋を理解する。	四大咀嚼筋（側頭筋，咬筋，内側翼突筋，外側翼突筋）の構成と機能（起始・停止），支配神経を説明できる。	Ⅲ-2	分担解剖学1「筋学」279-293ページ，口腔解剖学第11章「頭頸部の筋」121-126ページ	2.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
6	4/23	児玉	1. 筋学各論6) 頸部（前頸筋：舌骨上・下筋、外側頸筋、後頸筋）の筋	舌骨上・下筋を理解する。	舌骨上・下筋（顎二腹筋、顎舌骨筋、オトガイ舌骨筋、茎突舌骨筋、胸骨舌骨筋、肩甲舌骨筋、胸骨甲状筋、甲状舌骨筋）の構成と機能（起始・停止）、支配神経を説明できる。	Ⅲ-2	分担保解剖学1「筋学」294-307ページ、口腔解剖学第11章「頭頸部の筋」127-129ページ、分担保解剖学3「内臓学」169-176ページ、口腔解剖学第15章「頭頸部の内臓」184-187、192-193ページ	2.0
7	4/30	児玉	1. 筋学各論7) 頭・頸部（咽頭・喉頭）の筋	咽頭・喉頭の筋を理解する。	咽頭（咽頭の収縮筋、咽頭の挙筋）・喉頭（内・外喉頭筋）の筋の構成と機能（起始・停止）、支配神経を説明できる。	Ⅲ-2	分担保解剖学1「筋学」264-278ページ、口腔解剖学第17章「咀嚼と嚥下」208-211ページ	2.0
8	5/7	児玉	1. 筋学各論8) 下顎運動、摂食嚥下に関係する筋	下顎運動と摂食嚥下に関係する筋を理解する。	下顎運動、摂食嚥下に関係する筋の構成と機能（起始・停止）、支配神経を説明できる。	Ⅲ-2	分担保解剖学2「脈管学」1-32ページ、口腔解剖学第5章「脈管学総論」37-56ページ	2.0
9	5/14	児玉	2. 脈管学各論1) 体循環の構造と機能	体循環の構造と機能を理解する。	血液循環について説明できる。	Ⅲ-2	分担保解剖学2「脈管学」32-48ページ、口腔解剖学第13章「頭頸部の血管・リンパ系」133-144ページ	2.0
10	5/21	児玉	2. 脈管学各論2) 心臓の構造と機能	心臓の構造と機能を理解する。	ヒトの心臓について構造と機能を説明できる。	Ⅲ-2	分担保解剖学2「脈管学」110-124ページ、口腔解剖学第13章「頭頸部の血管・リンパ系」138-139ページ	2.0
11	5/28	児玉	2. 脈管学各論3) 頭・頸部動脈系	頭・頸部の動脈系について知る。	頭・頸部の動脈系について説明できる。	Ⅲ-2	分担保解剖学2「脈管学」43-109、124-130ページ、口腔解剖学第5章「脈管学総論」37-56ページ	2.0
12	6/4	児玉	2. 脈管学各論3) 頭・頸部動脈系（内・外頸動脈）	歯科口腔領域に分布する動脈系を知る	内・外頸動脈の走行（向）と枝について説明できる	Ⅲ-2	分担保解剖学2「脈管学」74-92ページ、口腔解剖学第5章「脈管学総論」37-56ページ	2.0
13	6/11	児玉	2. 脈管学各論4) 頭・頸部静脈系	頭・頸部の静脈系について知る。	頭・頸部の静脈系について説明できる。	Ⅲ-2	分担保解剖学2「脈管学」146-148ページ、口腔解剖学第5章「脈管学総論」52-53ページ	2.0
14	6/25	児玉	2. 脈管学各論5) 頭・頸部リンパ系	頭・頸部のリンパについて知る。	頭・頸部のリンパ系について説明できる。	Ⅲ-2	分担保解剖学2「脈管学」149-169ページ、口腔解剖学第5章「脈管学総論」53-56ページ	2.0
15	7/2	児玉	2. 脈管学各論6) 胸・腹部、上・下肢動・静脈系	胸・腹部、上・下肢の動・静脈系、胎児の血液循環について知る。	胸・腹部、上・下肢の動・静脈系、胎児の血液循環について説明できる。	Ⅲ-2	分担保解剖学2「脈管学」43-109ページ、124-148ページ、口腔解剖学第5章「脈管学総論」48-53ページ	2.0

発生学・組織学演習Ⅰ 【演習】

科目番号 OD021109

前期：19コマ

評価責任者：稲井哲一朗

担当教員：稲井哲一朗、児玉 淳、大谷崇仁、林 慶和、二階堂美咲、小倉綾乃

（一般目標）

人体の発生過程を学び、人体の構造、機能、発生異常との関連を理解する。また、人体を構成する4大組織の構造と機能ならびに組織間の相互作用を学ぶ。さらに、全身の器官・器官系について、器官特有の組織構造と機能発現との関連を理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-1, Ⅲ-2, Ⅲ-3

（教育方法）

講義は、教科書を中心に、板書、プリント、写真、スライド、e-learningシステム(Moodle)、人体組織学カラスライド・データベース（神戸大学）などを用いて行い、適宜Moodleでの小テストをPC受験させ正答率が低い問題について解説を行う。実習はPC, iPadまたはスマートフォンを使用して行う。実習が始まるまでに「各自のIDとパスワード」を確認してe-learningにアクセスできるように設定し、「実習のPDFファイル」をダウンロードしておくこと。専用のスケッチブック、色鉛筆、白衣を用意すること。「実習のPDFファイル」に従って各自実習を進めること。光学顕微鏡で組織切片を観察して、器官特有の細胞・組織構築を理解してスケッチするとともに、実習課題について解答する。スケッチブックは、前期実習終了後に実習室で提出すること。

（グループワーク）（実習・演習）

（学習方法）

実習については、スケッチ、レポート課題を含めて実習テーブルごとのグループで理解を深めるためにお互いに討論してもよい（グループ学習）。ただし、自分の席を離れたり、実習と関係のない私語は態度点から減点する。実習時間を有効に活用し、教員への質問やグループ討論を通して組織構築を理解すること。講義ノート、e-learning(Moodle)の資料や問題、教科書、参考書などを参考にし、試験に活用できるレベルにスケッチを完成すること。実習に欠かさず出席し、予習と特に復習に力を入れて学習すること。*実習中にe-learningの画像問題に必ずアクセスして、問題を解くこと。実習問題はこの問題を改変して出題する。総合学力試験の範囲は全授業の行動目標とする。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 7.0 時間】

（評価）

定期試験および実習評価（実習試験、実習態度、スケッチ）を合わせて100%で判定し、総合判定を掲示する。16回以上の出席が受験資格として必要である。

（教科書）

①安田峯生訳、「ラングマン 人体発生学 第11版」、メディカル・サイエンス・インターナショナル

②牛木辰男、「入門組織学 改訂第2版」、南江堂（3年生でも使用する）

③人体組織学カラスライド・データベース（神戸大学）

※参考サイト参照（<https://onl.bz/FS3e9EE>）

人体組織の豊富な画像が閲覧できるので、予習・復習に活用できる。

（参考書）

山田英智ほか、「機能を中心とした 図説組織学（第5版）」、医学書院

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/2	稲井	細胞学・組織学入門、上皮組織①（分類）	細胞の微細構造を知る。組織学研究法を知る。上皮組織の概念、分類、組織構造を知る。	細胞の微細構造、オルガネラを説明する。	Ⅲ-1	教科書②「第1章 細胞学と組織学」（1～2ページ）、「第2章 細胞」（3～28ページ）、「第3章 上皮組織」（29～44ページ）	0.5
					組織学の研究法を説明する（顕微鏡、染色法）。	Ⅲ-2		
					上皮組織の特徴を説明する。	Ⅲ-3		
					上皮組織の分類を説明する。	Ⅲ-1		
2	4/9	稲井	上皮組織②、腺	上皮細胞の特殊構造を知る。腺の概念、分類、組織構造を知る。	上皮細胞の特殊構造を説明する。	Ⅲ-1	教科書②「第3章 上皮組織」（29～44ページ）	0.5
					外分泌腺と内分泌腺の概念を説明する。	Ⅲ-2		
					外分泌腺の組織構造を説明する。	Ⅲ-2		
					外分泌腺の分類を説明する。	Ⅲ-2		
3	4/16	稲井	結合組織①（固有結合組織）	結合組織の概念、分類、組織構造を知る。特に、固有結合組織の組織構造を知る。 * 骨、軟骨は後期講義で扱う。	結合組織の特徴を説明する。	Ⅲ-2	教科書②「第4章 支持組織」（45～67ページ）	0.5
					結合組織の線維要素と細胞要素を説明する。	Ⅲ-2		
					結合組織の分類を説明する。	Ⅲ-2		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
4	4/23	稲井	結合組織②（血球、骨髄）	血液、骨髄の組織構造を知る。	血球を説明する。	Ⅲ-2	教科書②「第8章 血液と骨髄」（119～131ページ）	0.5
					骨髄の組織構造と造血を説明する。	Ⅲ-2		
5	4/24	稲井	筋組織	筋組織の概念、分類、組織構造を知る。	筋組織の概念を説明する。	Ⅲ-2	教科書②「第5章 筋組織」（69～82ページ）	0.5
					筋組織の分類を説明する。	Ⅲ-2		
					筋節と筋収縮を説明する。	Ⅲ-2		
6	4/30	稲井	神経組織	神経組織の概念、分類、組織構造を知る。	神経組織の概念を説明する。	Ⅲ-2	教科書②「第6章 神経組織」（83～101ページ）	0.5
					ニューロンの分類を説明する。	Ⅲ-2		
					神経膠細胞の分類を説明する。	Ⅲ-2		
7	5/2	稲井	循環系	循環系の組織構造を知る。	血管の組織構造を説明する。	Ⅲ-2	教科書②「第7章 脈管系」（103～118ページ）	0.5
					リンパ管の組織構造を説明する。	Ⅲ-2		
8	5/7	稲井	胎齢、染色体、細胞分裂	細胞分裂を知る。	胎齢を説明する。	Ⅲ-3	教科書①「第2章 生殖子形成」（17～36ページ）	0.5
					染色体を説明する。	Ⅲ-3		
					細胞周期を説明する。	Ⅲ-3		
					有糸分裂、減数分裂を説明する。	Ⅲ-3		
9	5/14	稲井	生殖子形成	精子形成を知る。卵子形成を知る。	男性生殖器を説明する。	Ⅲ-3	教科書①「第2章 生殖子形成」（17～36ページ）教科書②「第13章 男性生殖器」（227～243ページ）、「第14章 女性生殖器」（245～265ページ）	0.5
					精子形成・精子完成を説明する。	Ⅲ-3		
					女性生殖器を説明する。	Ⅲ-3		
					卵子形成と卵胞の発育を説明する。	Ⅲ-3		
					黄体、白体を説明する。	Ⅲ-3		
10	5/14	稲井	排卵から三胚葉形成まで	卵巣周期を知る。排卵、受精、分割、着床を知る。二層性胚盤、三層性胚盤を知る。三杯葉形成を知る。	卵巣周期を説明する。	Ⅲ-3	教科書①「第3章 発生第1週」（37～51ページ）、「第4章 発生第2週」（53～61ページ）、「第5章 発生第3週」（63～75ページ）、「第6章 発生第3週から第8週まで」（77～99ページ）	0.5
					排卵、受精、分割、着床を説明する。	Ⅲ-3		
					二層性胚盤を説明する。	Ⅲ-3		
					原腸形成による三胚葉形成と三層性胚盤を説明する。	Ⅲ-3		
					三胚葉と、それに由来する構造を説明する。	Ⅲ-3		
11	5/28	稲井	神経管、神経堤、中胚葉、胎盤	神経管、神経堤について知る。中胚葉について知る。体腔の形成について知る。絨毛、胎盤について知る。	脊索形成と神経管の形成を説明する。	Ⅲ-3	教科書①「第5章 発生第3週」（63～75ページ）、「第6章 発生第3週から第8週まで」（77～99ページ）、「第7章 腸管と体腔」（101～109ページ）、「第8章 発生第3か月から出産まで」（111～131ページ）	0.5
					神経堤と、それに由来する構造を説明する。	Ⅲ-3		
					体腔、中胚葉について説明する。	Ⅲ-3		
					脈管形成と血管新生について説明する。	Ⅲ-3		
					絨毛、胎盤について説明する。	Ⅲ-3		
12	6/4	[12回] 稲井 児玉	組織学総論実習（実習の説明）（上皮組織）	顕微鏡の使用法について知る。上皮組織の概念、分類、組織構造を知る。	標本、顕微鏡を確認する。	Ⅲ-2	[12回] 教科書②「第3章 上皮組織」（29～44ページ）	[12] 0.5
13	6/11	大谷 林 二階堂 小倉 [13回] 同上			顕微鏡の使い方を理解する。	Ⅲ-2	[13回] 同上	[13] 0.5
					組織標本の観察法、スケッチの方法を理解する。	Ⅲ-2		
					実習の進め方を理解する。	Ⅲ-2		
					単層上皮（扁平、立方、円柱上皮）を描き説明する。	Ⅲ-2		
					多列上皮、移行上皮を描き説明する。	Ⅲ-2		
					重層扁平上皮を描き説明する。	Ⅲ-2		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
14	6/11	[14回] 稲井 児玉 大谷 林 二 階堂 小倉 [15回] 同上	組織学総論実習（腺、結合組織、血液、循環系）	腺の概念、分類、組織構造を知る。結合組織の概念、分類、組織構造を知る。骨髄、血液、循環系の組織構造を知る。	顎下腺を描き説明する。	Ⅲ-2	[14回] 教科書②「第3章 上皮組織」（29～44ページ） [15回] 同上	[14] 0.5 [15] 0.5
15	6/18				結合組織を描き説明する。	Ⅲ-2		
					血球を描き説明する。	Ⅲ-2		
					血管を描き説明する。	Ⅲ-2		
16	6/18	[16回] 稲井 児玉 大谷 林 二 階堂 小倉 [17回] 同上	組織学総論実習（筋、神経）	筋組織の概念、分類、組織構造を知る。神経組織の概念、分類、組織構造を知る。	骨格筋、心筋、特殊心筋、平滑筋を描き説明する。	Ⅲ-2	[16回] 教科書②「第5章 筋組織」（69～82ページ） [17回] 同上	[16] 0.5 [17] 0.5
17	6/25				末梢神経を描き説明する。	Ⅲ-2		
					中枢神経（脊髄）を描き説明する。	Ⅲ-2		
18	6/25	[18回] 稲井 児玉 大谷 林 二 階堂 小倉 [19回] 同上	【実習試験①】2～7回の授業 【点検・清掃①】	学習の理解度の評価 器具点検、清掃、スケッチ、レポートの仕上げ	実習で学習した内容（スケッチ、レポート課題）について実習試験を行う。	Ⅲ-2		
19	7/2				顕微鏡、標本を点検する。	Ⅲ-2		
					実習のスケッチ、レポート課題を完成する。	Ⅲ-2		

歯の解剖学 【演習】

科目番号 OD021115

前期：16コマ

評価責任者：稲井哲一郎

担当教員：稲井哲一郎、児玉 淳、大谷崇仁、林慶和、二階堂美咲、小倉綾乃

（一般目標）

歯学を習得するために必要な歯の形態および歯の解剖用語を理解し、臨床歯学を学習するための基礎学力をつけることを目標とする。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-6

（教育方法）

教科書を中心にプリント、歯の模型、スライド等を用いて講義する。

（実習・演習）

（学習方法）

講義に欠かさず出席（4/5以上）し、予習と特に復習に力を入れて整理していくこと。

予習復習は教科書の「簡明 歯の解剖学」、参考書の「歯の解剖学 第22版」や「口腔・顎顔面解剖学」を熟読すること。また購入した歯の模型を持参し、授業中に参照すること。

2回目以降の講義から、前回の講義内容の小テストを行う。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 16.0 時間】

（評 価）

中間試験：永久歯の鑑別試験（10%）、定期試験（90%）の合計点で評価する。鑑別試験期日などの詳細は講義中に連絡する。小テストの試験終了後、直ちに内容について解説を行い、結果は次回の講義回までに講義教室へ掲示する。定期試験の解説・結果については試験終了後、公表可能な範囲で総評と合わせて行う。理解が不十分な項目は、オフィスアワー等を利用して各学生からの質問として補う。

（教 科 書）

三好作一郎編 影山幾男他著「簡明 歯の解剖学」医歯薬出版2009

（参 考 書）

藤田恒太郎 原著 桐野忠大、山下靖雄 改訂「歯の解剖学 第22版」 金原出版

全国歯科技工士教育協議会 編集 「口腔・顎顔面解剖学」 医歯薬出版 2016

（歯の特徴が詳しく記述されている。図・写真も豊富である。）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/3	二階堂	【ユニット1】 歯の解剖学・ 総論	歯の定義、形態、構造および解剖学用語を理解する。	歯の定義を説明できる。 歯の形態、歯種および機能を説明できる。 生歯について説明できる。 歯の記号を説明できる。 歯式（乳歯、永久歯）を説明できる。	Ⅲ-6 Ⅲ-6 Ⅲ-6 Ⅲ-6	教科書3-23ページ	1.0
2	4/10	二階堂	【ユニット1】 歯の解剖学・ 総論	歯の定義、形態、構造および解剖学用語を理解する。	歯の解剖用語、方向用語を説明できる。 歯の部位用語を説明できる。 Mühlreiter の三徴を説明できる。	Ⅲ-6 Ⅲ-6 Ⅲ-6	教科書3-23ページ	1.0
3	4/17	二階堂	【ユニット2】 永久歯 前歯 (上顎切歯)	上顎切歯を理解する。	上顎切歯の形態および特徴を理解する。 上顎切歯の歯根、根管、歯髄腔の形態を説明できる。 上顎切歯の形態用語を説明できる。（近心切縁、遠心切縁、中央唇側面隆線、中央舌側面隆線、中央舌側面副隆線、唇側面溝、唇側面隆線、切歯結節、基底結節、辺縁隆線、棘突起、舌側面窩） 上顎切歯の異常形態を説明できる。（舌側面小窩、盲孔、斜切痕、円錐歯、柱状歯、樽状歯、矮小歯）	Ⅲ-6 Ⅲ-6 Ⅲ-6 Ⅲ-6	教科書27-36ページ	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
4	4/24	二階堂	【ユニット2】 永久歯 前歯 （下顎切歯）	下顎切歯を理解する。	下顎切歯の形態および特徴を理解する。	Ⅲ-6	教科書27-36ページ	1.0
					下顎切歯の歯根、根管、歯髄腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6		
					下顎切歯の形態用語を説明できる。（近心切縁、遠心切縁、中央唇側面隆線、中央舌側面隆線、中央舌側面副隆線、唇側面溝、唇側面隆線、切歯結節、基底結節、辺縁隆線、棘突起、舌側面窩）	Ⅲ-6		
					下顎切歯の異常形態を説明できる。（癒合歯など）	Ⅲ-6		
5	5/1	二階堂	【ユニット3】 永久歯 前歯 （上・下顎犬歯）	上・下顎犬歯を理解する。	上・下顎犬歯の形態および特徴を理解する。	Ⅲ-6	教科書37-42ページ	1.0
					上・下顎犬歯の歯根、根管、歯髄腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6		
					上・下顎犬歯の形態用語を説明できる。（近心切縁、遠心切縁、中央唇側面隆線、中央舌側面隆線、中央舌側面副隆線、唇側面溝、唇側面隆線、切歯結節、基底結節、辺縁隆線、棘突起、舌側面窩）	Ⅲ-6		
					上・下顎犬歯の異常形態を説明できる。（犬歯結節など）	Ⅲ-6		
6	5/8	二階堂	【ユニット3】 永久歯 前歯 （まとめ）	上・下顎前歯を理解する。	上・下顎前歯の形態および特徴を理解する。	Ⅲ-6	教科書43-46ページ	1.0
					上・下顎前歯の歯根、根管、歯髄腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6		
					上・下顎前歯の形態用語を説明できる。（近心切縁、遠心切縁、中央唇側面隆線、中央舌側面隆線、中央舌側面副隆線、唇側面溝、唇側面隆線、切歯結節、基底結節、辺縁隆線、棘突起、舌側面窩）	Ⅲ-6		
					上・下顎前歯の異常形態を説明できる。	Ⅲ-6		
7	5/15	二階堂	【ユニット4】 永久歯 上顎 小臼歯	上顎第一・二小臼歯を理解する。	上顎第一・第二小臼歯の形態および特徴を説明できる。（咬合面の出現）	Ⅲ-6	教科書46-53ページ	1.0
					上顎小臼歯の歯根、根管、歯髄腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6		
					上顎小臼歯の形態用語を説明できる。	Ⅲ-6		
					上顎小臼歯の異常形態について説明できる。（介在結節、中心結節、横隆線など）	Ⅲ-6		
8	5/22	二階堂	【ユニット5】 永久歯 下顎 小臼歯	下顎第一・二小臼歯を理解する。	下顎第一・第二小臼歯の形態および特徴を説明できる。	Ⅲ-6	教科書54-62ページ	1.0
					下顎小臼歯の歯根、根管、歯髄腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6		
					下顎小臼歯の形態用語を説明できる。	Ⅲ-6		
					下顎小臼歯の異常形態について説明できる。（介在結節、中心結節、横隆線など）	Ⅲ-6		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
9	5/29	二階堂	【ユニット6】 永久歯 上顎 大臼歯	上顎第一・二・三大臼歯を 理解する。	上顎第一・二大臼歯の形態および 特徴を説明できる。	Ⅲ-6	教科書63-76ページ	1.0
					上顎第一・二大臼歯の歯根、根 管、歯髓腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6		
					上顎大臼歯の形態用語を説明でき る。	Ⅲ-6		
					上顎第一大臼歯の異常について説明 できる。（対角隆線：斜走隆線、 カラベリー結節、臼旁結節、臼後 結節など）	Ⅲ-6		
10	6/4	二階堂	【ユニット6】 永久歯 上顎 大臼歯	上顎第一・二・三大臼歯を 理解する。	上顎第一・二大臼歯の形態および 特徴を説明できる。	Ⅲ-6	教科書54-76ページ	1.0
					上顎第一・二大臼歯の歯根、根 管、歯髓腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6		
					上顎大臼歯の形態用語を説明でき る。	Ⅲ-6		
					上顎第一大臼歯の異常について説明 できる。（対角隆線：斜走隆線、 カラベリー結節、臼旁結節、臼後 結節など）	Ⅲ-6		
11	6/11	二階堂	【ユニット7】 永久歯 下顎 大臼歯	下顎第一・二・三大臼歯を 理解する。	下顎第一・二大臼歯の形態および 特徴を説明できる。	Ⅲ-6	教科書54-76ページ	1.0
					下顎第一・二大臼歯の歯根、根 管、歯髓腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6		
					下顎大臼歯の形態用語を説明でき る。（ドリオピテクスパターンな ど）	Ⅲ-6		
					下顎大臼歯の異常について説明で きる。（第6咬頭、第7咬頭、屈 曲隆線、頬側面小窩、プロトスタ イリッド：原錐茎状突起、槌状根 など）を説明できる。	Ⅲ-6		
					上・下顎第三大臼歯の特徴を説明 できる。	Ⅲ-6		
12	6/12	二階堂	【ユニット7】 永久歯 下顎 大臼歯	下顎第一・二・三大臼歯を 理解する。	下顎第一・二大臼歯の形態および 特徴を説明できる。	Ⅲ-6	教科書113-120ページ	1.0
					下顎第一・二大臼歯の歯根、根 管、歯髓腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6		
					下顎大臼歯の形態用語を説明でき る。（ドリオピテクスパターンな ど）	Ⅲ-6		
					下顎大臼歯の異常について説明で きる。（第6咬頭、第7咬頭、屈 曲隆線、頬側面小窩、プロトスタ イリッド：原錐茎状突起、槌状根 など）を説明できる。	Ⅲ-6		
					上・下顎第三大臼歯の特徴を説明 できる。	Ⅲ-6		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
13	6/18	児玉	【ユニット8】 乳歯 乳前歯	乳前歯を理解する。	上・下顎乳前歯の形態および特徴について説明できる。（歯帯など）	Ⅲ-6	教科書99-111ページ	1.0
					上・下顎乳前歯の歯根、根管、歯髓腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6		
					乳前歯と前歯の違いについて説明できる。	Ⅲ-6		
			【ユニット8】 乳歯 乳臼歯	乳臼歯を理解する。	上・下顎乳臼歯の形態および特徴について説明できる。（臼歯結節、トリゴニード切痕、遠心トリゴニード隆線）	Ⅲ-6		
					上・下顎乳臼歯の歯根、根管、歯髓腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6		
					乳臼歯と臼歯の違いについて説明できる。	Ⅲ-6		
14	6/19	児玉	【ユニット9】 歯の配列、歯列弓、咬合、歯の異常	歯列と咬合および歯の異常について理解する。	歯列弓について説明できる。（形、Speeの彎曲、Wilsonの彎曲、Bonwill三角など）	Ⅲ-6	教科書77-98ページ	1.0
					咬合について説明できる。（1歯対2歯の関係、オーバーバイト、オーバージェット、鉗状・切端・過蓋・屋根・離開・反対・後退咬合）	Ⅲ-6		
15	6/26	児玉	【ユニット9】 歯の配列、歯列弓、咬合、歯の異常	歯列と咬合および歯の異常について理解する。	上・下顎歯の位置関係について説明できる。（鼓形空隙、中心咬合時の対向関係）	Ⅲ-6	教科書77-98ページ	1.0
					歯の異常について説明できる。（歯数・形態・歯根・萌出・歯列・咬合異常）	Ⅲ-6		
16	7/3	稲井、児玉、大谷、林、二階堂、小倉	【ユニット10】乳歯・永久歯の鑑別試験	乳歯・永久歯の顎性、側性、歯種、順位を鑑別できる。	乳歯の歯種、順位を鑑別できる。	Ⅲ-6	教科書27-98ページ	1.0
					永久歯の歯種、順位を鑑別できる。	Ⅲ-6		

生理学Ⅱ 【講義】

科目番号 OD021114

前期：15コマ

評価責任者：藤田亜美

担当教員：藤田亜美、鍛冶屋 浩、進 正史

（一般目標）

人体は細胞から構成され、組織、器官、器官系、個体レベルで構造的・機能的に統合されており、生理学では細胞から個体レベルにおける正常な機能とそれらの統合メカニズムを解き明かそうとしている。生理学Ⅱでは、人体の各器官の機能に関する基本的な知識を身につけることを目的として、血液、循環系、呼吸系、消化系の基本的機能について学習し、理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-1, Ⅲ-2

（教育方法）

講義ユニット毎に配付する資料及び教科書に沿って行動目標に掲げた内容をスライドや板書等により解説する。

（学習方法）

授業前に教科書に目を通しておく。授業後は配布資料、講義ノート、教科書をもとに講義の内容を要約し、重要事項を理解する。理解が不十分な項目は教科書や参考書で復習すると共にチューデントアシスタントや教員への質疑を通じて確実に修得する。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：16.0 時間】

（評価）

中間試験30%、定期試験70%とする。中間試験および定期試験の成績は試験終了後、概ね2週間以内に通知する。

（教科書）

岩田幸一、井上富雄、船橋 誠、加藤隆史 編 「基礎歯科生理学 第7版」 医歯薬出版 2020

（全身から口腔領域にわたって生理学の基本的事項が簡潔かつ解りやすく記載されている。口腔医学を学ぶ上で有用なテキストである。1学年で履修する生理学Ⅰ、2学年後期で履修する生理学Ⅲ、さらに3学年で履修する口腔生理学も本書を教科書として使用するため、1学年から3学年で学んだ知識の統合に有用である。）

（参考書）

岡田泰伸 監訳 「ギャノン生理学 原書26版」 丸善出版 2022 （基礎から臨床生理学まで最新の知見も含め簡潔にまとめられている。口腔医学の知識を深める上で有用なテキストである。実習や演習の参考書としても活用できる。電子書籍版は、図版説明も詳しくなり、生体機能への理解をさらに深める工夫がなされている。）

多久和 典子 他 著 「なるほどなっとく！解剖生理学 改訂3版」 南山堂 2023

（人体の正常構造（解剖学）と機能（生理学）を関連付けて理解するための基本的事項が多彩なイラストによって簡潔に解りやすく記載されている。予習・復習に適したテキストである。）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/7	進	ユニット1 体液の区分、組成と機能	体液の構成と機能を理解する。	体液を区分し、量と組成を述べる。	Ⅲ-2	教科書のp51～p53、p57	1.0
					細胞内液と外液の構成成分の違いを述べる。	Ⅲ-2		
					浮腫の成因について説明する。	Ⅲ-2		
2	4/14	進	ユニット2 血液の組成と機能	血球の種類と機能及び血漿の成分と機能について理解する。	血液の成分を分類し、各々の機能を説明する。	Ⅲ-2	教科書のp51～p54	1.0
					造血器と造血因子について説明する。	Ⅲ-2		
3	4/21	進	ユニット2 血液の組成と機能	血球の種類と機能及び血漿の成分と機能について理解する。	ヘモグロビンの構造と機能及び代謝について述べる。	Ⅲ-1	教科書のp51～p54	1.0
					血液に関する正常値を列挙する。	Ⅲ-2		
4	4/25	進	ユニット2 血液の組成と機能	血球の種類と機能及び血漿の成分と機能について理解する。	止血に関わる因子と機序を述べる。	Ⅲ-2	教科書のp55～p57	1.0
					凝固系及び線溶系の機序を説明する。	Ⅲ-2		
					凝固促進因子と抑制因の作用を説明する。	Ⅲ-2		
					出血時間と凝固時間の異常と原因を説明する。	Ⅲ-2		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
5	4/28	進	ユニット2 血液の組成と機能	血球の種類と機能及び血漿の成分と機能について理解する。	ABO式とRh式血液型の判定方法を述べる。	Ⅲ-2	教科書のp53～p54	1.0
					交差適合試験による輸血の可否を説明する。	Ⅲ-2		
					血液型不適合妊娠について説明する。	Ⅲ-2		
6	5/12	藤田	ユニット3 循環器系の構成と機能	心臓の構造と機能および血圧とその調節について説明できる。	心臓の構造を説明できる。	Ⅲ-2	教科書のp76～p81	1.0
					心筋の性質と興奮収縮連関について説明できる。	Ⅲ-1		
7	5/19	藤田	ユニット3 循環器系の構成と機能	心臓の構造と機能および血圧とその調節について説明できる。	心臓の神経性調節について説明できる。	Ⅲ-2	教科書のp81～p87	1.0
					心周期を説明できる。	Ⅲ-2		
8	5/26	藤田、鍛冶屋、進	中間試験	-	-	Ⅲ-2	1回～7回までの講義で配付した資料とノート及び教科書	2.0
9	6/2	藤田	ユニット3 循環器系の構成と機能	心臓の構造と機能および血圧とその調節について説明できる。	心音を説明できる。	Ⅲ-2	教科書のp85～p90	1.0
					心臓の興奮と心電図を関係づけることができる。	Ⅲ-2		
10	6/9	藤田	ユニット3 循環器系の構成と機能	心臓の構造と機能および血圧とその調節について説明できる。	血圧について説明できる。	Ⅲ-2	教科書のp90～p94	1.0
					血液の分布を説明できる。	Ⅲ-2		
					血圧の調節について説明できる。	Ⅲ-2		
11	6/16	藤田	ユニット3 循環器系の構成と機能	心臓の構造と機能および血圧とその調節について説明できる。	リンパ管系について説明できる。	Ⅲ-2	教科書のp94～p102	1.0
					微小循環について説明できる。	Ⅲ-2		
12	6/23	鍛冶屋	ユニット4 呼吸系の構成と機能及び呼吸調節	呼吸器の構造、呼吸運動、ガス交換及び呼吸調節について理解する。	呼吸器の構造と呼吸運動の様式について述べる。	Ⅲ-2	教科書のp103～p110	1.0
					肺気量の区分とそれらの病的変動について述べる。	Ⅲ-2		
13	6/30	鍛冶屋	ユニット4 呼吸系の構成と機能及び呼吸調節	呼吸器の構造、呼吸運動、ガス交換及び呼吸調節について理解する。	内呼吸と外呼吸及び血液ガスの運搬機序について説明する。	Ⅲ-2	教科書のp110～p122	1.0
					ヘモグロビンの酸素解離曲線とボーア効果について説明する。	Ⅲ-1		
					呼吸調節における動脈化学受容器及び中枢性化学受容器の役割を述べる。	Ⅲ-2		
					呼吸に影響する諸因子を挙げ、呼吸変化を起こす機序を説明する。	Ⅲ-2		
14	7/7	鍛冶屋	ユニット5 消化管の構造と機能	消化管の構成と消化吸収機能について理解する。	消化管の構成を説明する。	Ⅲ-2	教科書のp157～p167	1.0
					消化液の組成と機能を説明する。	Ⅲ-2		
					消化液の分泌調節について説明する。	Ⅲ-2		
15	7/7	鍛冶屋	ユニット5 消化管の構造と機能	消化管の構成と消化吸収機能について理解する。	消化管運動の種類と自律神経による運動調節について説明する。	Ⅲ-2	教科書のp168～p179	1.0
					三大栄養素・電解質・水の吸収機序を説明する。	Ⅲ-2		
					肝臓の構造、機能及び胆汁の分泌経路を説明する。	Ⅲ-2		

薬理学 【講義】

科目番号 OD021104

前期：20コマ

評価責任者：八田光世

担当教員：八田光世、長岡良礼

（一般目標）

薬物による疾患治療を理解する基盤として、薬理学的な思考法（すなわち薬物と生体間の相互作用としての考え方）を身につける。薬力学及び薬物動態学の基本的知識、自律神経系・中枢神経系に作用する薬物に関する知識を修得する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-1, Ⅲ-2, Ⅲ-20

（教育方法）

教科書、配布資料を利用したパワーポイントによる講義を行う。

（実習・演習）

（学習方法）

【予習方法】授業前に教科書の該当箇所を読むこと。

【復習方法】授業後に教科書、配布資料、学習ノートを用いて講義内容を復習する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 16.0 時間】

（評価）

【評価方法】

中間試験（25%）：ユニット1-5を範囲とする。

定期試験（75%）：ユニット1-5を範囲とする。

各ユニットでの小テストやレポート（他提出物）に対しての配点は上記の試験点数に含める。また、授業態度や出欠状況についても考慮に入れる。

【学生へのフィードバックの時期と方法】

各試験終了後に成績を通知する。

（教科書）

鈴木 邦明監修 「現代歯科薬理学」第7版 医歯薬出版 2024年

（薬理学に関する基本的事項及び歯科医療における標準的な薬物治療に必要な知識についてわかりやすく解説している。）

（参考書）

大浦 清ら編 「ポイントがよくわかるシンプル歯科薬理学 第3版」 永末書店 2023年

（理解しやすいように内容が簡潔にまとめられている。覚えるべき重要事項や薬物が示されており、理解度を図るための練習問題も設けられている。）

田中 千賀子ら編 「NEW薬理学 改訂第7版」南江堂 2017年

（作用メカニズム、分子薬理学などを中心に充実している。）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/7	八田	ユニット1 薬物と薬理作用	薬物と生体間の相互作用として薬理作用、薬物の用量と薬理作用との関係（用量-反応関係）を理解する。	薬物と医療、薬理学について説明できる。 薬物療法の種類（原因療法、対症療法など）を説明できる。 薬理作用の基本形式および分類（主作用・副作用、全身作用・局所作用など）を説明できる。 薬物併用の効果（協力作用、拮抗作用）を説明できる。	Ⅲ-20 Ⅲ-20 Ⅲ-20 Ⅲ-20	教科書 p. 2-6, 36-41を読む。	0.5
2	4/14	八田	ユニット1 薬物と薬理作用	薬物と生体間の相互作用として薬理作用、薬物の用量と薬理作用との関係（用量-反応関係）を理解する。	用量-反応関係および用量-反応関係曲線を説明できる。 用量を表す用語（有効量、中毒量、致死量など）を説明できる。 50%有効量、50%致死量、治療係数（安全域）を説明できる。	Ⅲ-20 Ⅲ-20 Ⅲ-20	教科書 p. 7-10を読む。	0.5
3	4/14	八田	ユニット2 薬理作用の機序	薬物の作用点と薬理作用が発現する機序について理解する。	薬物が標的にする分子を説明できる。 薬物の受容体結合と薬理作用についての概念（薬物受容体理論）を理解する。	Ⅲ-20 Ⅲ-20	教科書 p. 72-74を読む。	0.5

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
4	4/21	八田	ユニット2 薬理作用の機序	薬物の作用点と薬理作用が発現する機序について理解する。	作動薬（完全作動薬、部分作動薬）、拮抗薬（競合的拮抗薬、非競合的拮抗薬）および逆作動薬の特徴を説明できる。	Ⅲ-20	教科書 p. 75-84を読む。	0.5
					受容体の種類（Gタンパク質共役型受容体、イオンチャネル内蔵型受容体、酵素共役型受容体、細胞質および核内受容体）を説明できる。	Ⅲ-20		
5	4/23	長岡	ユニット3 自律神経作用薬物	自律神経系に作用する薬物の分類、作用機序、薬理作用、副作用および臨床応用について理解する。	自律神経系（交感神経・副交感神経）の機能を説明できる。	Ⅲ-2	教科書 p. 116-123を読む。	0.5
					自律神経系における神経伝達物質と受容体を説明できる。	Ⅲ-2		
6	4/28	長岡	ユニット3 自律神経作用薬物	自律神経系に作用する薬物の分類、作用機序、薬理作用、副作用および臨床応用について理解する。	アセチルコリン受容体の種類（ムスカリン受容体・ニコチン受容体）と機能を説明できる。	Ⅲ-1	教科書 p. 128-131を読む。	0.5
					ムスカリン受容体作動薬とその薬理作用・副作用を説明できる。	Ⅲ-20		
					ムスカリン受容体拮抗薬とその薬理作用・副作用を説明できる。	Ⅲ-20		
7	4/28	長岡	ユニット3 自律神経作用薬物	自律神経系に作用する薬物の分類、作用機序、薬理作用、副作用および臨床応用について理解する。	アドレナリン受容体の種類（ α 受容体・ β 受容体）と機能を説明できる。	Ⅲ-1	教科書 p. 123-128を読む。	0.5
					アドレナリン受容体作動薬とその薬理作用・副作用を説明できる。	Ⅲ-20		
					アドレナリン受容体拮抗薬とその薬理作用・副作用を説明できる。	Ⅲ-20		
8	5/7	長岡	ユニット3 自律神経作用薬物	自律神経系に作用する薬物の分類、作用機序、薬理作用、副作用および臨床応用について理解する。	アドレナリン作動性神経終末に作用する薬物を説明できる。	Ⅲ-20	教科書 p. 126, 128, 130-131を読む。	0.5
					自律神経節のニコチン受容体に作用する薬物を説明できる。	Ⅲ-20		
					コリンエステラーゼ阻害薬とその薬理作用・副作用を説明できる。	Ⅲ-20		
9	5/12	八田	ユニット4 投与方法と薬物動態	薬物の投与方法と薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）について理解する。	生体膜通過様式（受動拡散、濾過、促進拡散、能動輸送など）を説明できる。	Ⅲ-1	教科書 p. 11-14を読む。	0.5
					薬物の投与方法（経口投与、注射投与など）とその特徴を説明できる。	Ⅲ-20		
					血中濃度-時間曲線、AUC、生物学的半減期を説明できる。	Ⅲ-20		
10	5/19	八田	ユニット4 投与方法と薬物動態	薬物の投与方法と薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）について理解する。	吸収過程について理解する。	Ⅲ-20	教科書 p. 15-19を読む。	0.5
					バイオアベイラビリティ、初回通過効果を説明できる。	Ⅲ-20		
					分布過程について理解する。	Ⅲ-20		
					血中での存在様式（遊離型・結合型）、分布容積、血液脳関門を説明できる。	Ⅲ-20		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
11	5/26	八田	ユニット4 投与方法と薬物動態	薬物の投与方法と薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）について理解する。	代謝過程について理解する。 肝臓における薬物代謝反応およびシトクロムP-450を説明できる。 排泄過程について理解する。 腎臓からの尿中排泄（糸球体濾過、尿管分泌・再吸収）を説明できる。 肝臓からの胆汁排泄と腸肝循環、その他の排泄経路を説明できる。	Ⅲ-20 Ⅲ-2 Ⅲ-20 Ⅲ-2 Ⅲ-20	教科書 p.20-23を読む。	0.5
12	6/2	八田	ユニット4 投与方法と薬物動態	薬物の投与方法と薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）について理解する。	薬物動態過程における薬物相互作用を説明できる。 加齢による薬物動態の変化、TDM（治療薬物モニタリング）、コンパートメントモデルを説明できる。	Ⅲ-20 Ⅲ-20	教科書 p.19, 23-24, 54-55を読む。	0.5
13	6/9	八田	ユニット5 中枢神経作用薬物	中枢神経系に作用する薬物の分類、作用機序、薬理作用、副作用および臨床応用について理解する。	中枢神経における主な神経伝達物質（GABA、グルタミン酸、ドパミン、セロトニンなど）と薬物の作用機序を関連づける。 催眠薬・鎮静薬、抗不安薬の分類、作用機序、薬理作用・副作用を説明できる。 抗てんかん薬の分類、作用機序、薬理作用・副作用を説明できる。	Ⅲ-1 Ⅲ-20 Ⅲ-20	教科書 p.83-90, 155-165を読む。	0.5
14	6/16	八田	ユニット5 中枢神経作用薬物	中枢神経系に作用する薬物の分類、作用機序、薬理作用、副作用および臨床応用について理解する。	麻薬性鎮痛薬と関連薬の作用機序、薬理作用・副作用を説明できる。 パーキンソン病治療薬の分類、作用機序、薬理作用・副作用を説明できる。 抗うつ薬の分類、作用機序、薬理作用・副作用を説明できる。	Ⅲ-20 Ⅲ-20 Ⅲ-20	教科書 p.148-155, 172-173, 168-169を読む。	0.5
15	6/18	八田	ユニット5 中枢神経作用薬物	中枢神経系に作用する薬物の分類、作用機序、薬理作用、副作用および臨床応用について理解する。	統合失調症治療薬（抗精神病薬）の分類、作用機序、薬理作用・副作用を説明できる。 中枢神経興奮薬、認知症治療薬の分類、作用機序、薬理作用・副作用を説明できる。	Ⅲ-20 Ⅲ-20	教科書 p.165-168, 170-171, 174を読む。	0.5
16	6/23	八田	まとめ授業1	ユニット1,2の内容について知識・理解を深める。	ユニット1,2について演習課題を達成する。	Ⅲ-20	ユニット1,2を復習する。	1.5
17	6/23	長岡	まとめ授業2	ユニット3の内容について知識・理解を深める。	ユニット3について演習課題を達成する。	Ⅲ-20	ユニット3を復習する。	2.0
18	6/30	八田	まとめ授業3	ユニット4の内容について知識・理解を深める。	ユニット4について演習課題を達成する。	Ⅲ-20	ユニット4を復習する。	1.5
19	7/2	八田	まとめ授業4	ユニット5の内容について知識・理解を深める。	ユニット5について演習課題を達成する。	Ⅲ-20	ユニット5を復習する。	2.0
20	7/7	八田	中間試験	—	中間試験にて学習目標の達成度を評価する。	Ⅲ-20	薬理学（ユニット1-5）の復習する。	1.5

生化学 I 【講義】

科目番号 OD021102

前期：19コマ

評価責任者：梅津桂子

担当教員：梅津桂子、林 道夫、橋口一成

（一般目標）

生体を構成する代表的な成分の構造や機能とともに、その代謝の仕組みや調節について理解する。細胞や器官の生化学的成り立ちを理解し、その異常と疾患の関係について認識する。

各ユニットで扱う生体構成分子の構造については、第1学年「細胞化学」の講義内容についても参照すること。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-1, Ⅲ-2

（教育方法）

教科書の内容にそって講義を行う。講義方法はユニットによって若干異なるが、プリント・スライド・板書を中心に用いて進める。講義には必ず教科書を持参すること。

（ディスカッション・ディベート）（実習・演習）

（学習方法）

講義の前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。講義後は、講義中に指定した教科書の項目や図を中心に、講義内容を復習すること。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：7.0 時間】

（評価）

中間試験（試験範囲：ユニット1-3）および定期試験（試験範囲：ユニット4-7）を実施する。各試験の点数は試験範囲のコマ数に応じて比例配分し、総合して最終的な評点とする。講義の出欠状況についても考慮に入れる。総合評価をポータルサイトに掲示する。

（教科書）

ユニット1-7：林典夫・廣野治子 監修 『シンプル生化学』改訂第7版 南江堂

ユニット1、2：中村桂子・松原謙一 監訳 『Essential 細胞生物学』原書第5版 南江堂

（参考書）

入村達郎・岡山博人・清水孝雄 監訳 『ストライヤー生化学』第8版 東京化学同人

川崎敏祐 監修 『レーニンジャーの新生化学』第7版 廣川書店

荒川俊哉、池尾隆 他編 『スタンダード生化学・口腔生化学』第4版 学建書院

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/7	梅津	ユニット1・序論	歯科学の中での生化学の位置付けや意義を理解する	医療と生化学の関連を述べる 生化学講義で理解すべき内容の全体像を把握する 臨床医学・臨床歯学と生化学の関連について具体的に列挙できる	Ⅲ-2 Ⅲ-2 Ⅲ-1	『シンプル生化学』1「序論」p1-6 / 『Essential細胞生物学』9章「遺伝子とゲノムの進化」：ヒトゲノムの解説	0.3
2	4/7	梅津	ユニット2・生体の構成分子	生体の構成分子や生化学的反応の基本を理解する	生体の構成分子を列挙する 生体高分子と単量体サブユニットを関連づけ、異化と同化を説明する	Ⅲ-1 Ⅲ-1	『シンプル生化学』1「序論」p1-6 / 18「ミネラルの代謝」/ 『Essential細胞生物学』2章「細胞の化学成分」	0.3
3	4/14	橋口	ユニット3・酵素（1）	〔酵素の性質〕酵素の一般的性質と酵素反応の熱力学を理解する	酵素の特異性を述べる 酵素の構造の観点から活性中心と補酵素について説明する 酵素反応の進行を熱力学的に説明する	Ⅲ-1 Ⅲ-1 Ⅲ-1	『シンプル生化学』6「酵素」p73-78	0.4
4	4/21	橋口	ユニット3・酵素（2）	〔酵素の反応速度論1〕酵素の基質と反応速度の関係を理解する	酵素活性に対する影響因子を挙げ、反応速度との関係を説明する ミカエリス・メンテンの式を説明し、ラインウィーバー・バークの式との関係を図示できる ミカエリス定数と最大反応速度の生物学的意義を述べる	Ⅲ-1 Ⅲ-1 Ⅲ-1	『シンプル生化学』6「酵素」p78-80	0.4

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
5	4/21	橋口	ユニット3・ 酵素（3）	〔酵素の反応速度論2〕 酵素反応の阻害について反応速度論を理解する	酵素の阻害様式を挙げる	Ⅲ-1	『シンプル生化学』6「酵素」p80-84	0.4
					可逆阻害の様式を区別する	Ⅲ-1		
					競合阻害、不競合阻害、非競合阻害について反応速度論を説明し、図示できる	Ⅲ-1		
6	4/28	橋口	ユニット3・ 酵素（4）	〔酵素の活性調節1〕 酵素反応の調節機構を理解する	アロステリック制御を説明する	Ⅲ-1	『シンプル生化学』6「酵素」p84-86	0.4
					アロステリック制御とフィードバック阻害やS字曲線との関係を述べる	Ⅲ-1		
7	4/30	橋口	ユニット3・ 酵素（5）	〔酵素の活性調節2〕 細胞内における酵素の調節機構を理解する	酵素タンパク質の共有結合性修飾による活性調節を説明する	Ⅲ-1	『シンプル生化学』6「酵素」p86-88	0.4
					酵素前駆体のタンパク質分解酵素の切断による活性調節を説明する	Ⅲ-1		
					酵素の臨床診断への利用を述べる	Ⅲ-2		
8	5/12	梅津 林 橋口	中間試験					
9	5/19	橋口	ユニット4・ 糖質代謝Ⅰ（1）	〔解糖とエネルギー代謝〕 生体エネルギー獲得の全体像を理解し、その端緒となる解糖系を位置付ける	生体エネルギー獲得の全体像を述べる	Ⅲ-2	『シンプル生化学』1「序論」p6-8 / 2「糖質」p19-31 / 9「消化と吸収」p126-127 / 10「糖質の代謝」p133 / 25「栄養の生化学」p419-424	0.4
					基礎代謝と食事摂取基準を関係づける	Ⅲ-2		
					糖の消化・吸収について具体的に述べる	Ⅲ-1		
					解糖系の重要性を説明し、各段階を列挙する	Ⅲ-1		
10	5/26	橋口	ユニット4・ 糖質代謝Ⅰ（2）	〔グリコーゲン代謝〕 エネルギー代謝の観点から糖新生系と解糖系を対比し、グリコーゲン代謝を位置付ける	糖新生系を解糖系と対比して理解し、その意義を説明する	Ⅲ-1	『シンプル生化学』10「糖質の代謝」p133-140 / 19「情報伝達とホルモン」p287-290	0.4
					エネルギー代謝における位置づけからグリコーゲン代謝を詳述する	Ⅲ-1		
					アドレナリン、グルカゴン、インスリンによる血糖値の調節機構を説明する	Ⅲ-2		
11	6/2	橋口	ユニット4・ 糖質代謝Ⅰ（3）	〔TCA回路〕 エネルギー代謝の中でTCA回路を位置づけ、解糖系、電子伝達系との関連を理解する	解糖系とTCA回路の関連を説明する	Ⅲ-1	『シンプル生化学』10「糖質の代謝」p141-148	0.4
					TCA回路の各段階の意義を詳述する	Ⅲ-1		
					エネルギー代謝の中でTCA回路がもつ意味を説明する	Ⅲ-1		
					糖質代謝に関与する補酵素を分類し、その性質を詳述する	Ⅲ-1		
12	6/2	橋口	ユニット4・ 糖質代謝Ⅰ（4）	〔エネルギー代謝と生体酸化還元〕 生体エネルギー論におけるATPの役割と酸化還元電位を理解する	生体エネルギー論を説明する	Ⅲ-2	『シンプル生化学』15「生体と酸素」p227-236 / 16「エネルギー代謝」p241-244	0.4
					高エネルギー化合物を比較し、ATPと高エネルギーリン酸結合を説明する	Ⅲ-1		
					生体における酸化還元電位を理解し、反応を類別する	Ⅲ-1		
13	6/9	橋口	ユニット5・ 糖質代謝Ⅱ（1）	〔電子伝達系〕 ミトコンドリア内膜における酸化的リン酸化反応を理解し、その反応にたずさわるシトクローム系および酵素複合体を知る	酵素とシトクローム系からなる複合体による電子伝達系を詳述する	Ⅲ-1	『シンプル生化学』15「エネルギー代謝」p244-253	0.4
					シトクロームおよびFe-Sタンパク質による電子伝達の仕組みを説明する	Ⅲ-1		
					ATPシンターゼによるATP合成機構を詳述する	Ⅲ-1		
					解糖系から始まり、電子伝達系に終わるエネルギー代謝の全体を要約し、収支を勘定する	Ⅲ-1		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
14	6/16	橋口	ユニット５・糖質代謝Ⅱ（２）	〔ペントースリン酸回路〕糖質代謝の中でペントースリン酸回路が果たす役割を理解する	ペントースリン酸回路における単糖の相互変換のもつ意味を説明する	Ⅲ-1	『シンブル生化学』10「糖質の代謝」p148-150	0.4
					近接した糖代謝系との相互関係を述べる	Ⅲ-1		
					脂質代謝、ヌクレオチド代謝との連携と代謝調節について説明する	Ⅲ-1		
15	6/16	橋口	ユニット５・糖質代謝Ⅱ（３）	〔グルクロン酸経路〕糖質代謝の中でグルクロン酸経路が果たす役割を理解する	グルクロン酸経路と近接する糖代謝系との関わりを説明する	Ⅲ-1	『シンブル生化学』10「糖質の代謝」p152-159	0.4
					グルクロン酸抱合による解毒機構の過程と意味を述べる	Ⅲ-2		
					動物によって異なるアスコルビン酸合成経路の生物学的意義を解釈する	Ⅲ-2		
16	6/23	橋口	ユニット６・アミノ酸代謝（１）	〔アミノ基の代謝〕アミノ酸のアミノ基部分の代謝を理解し、アンモニア代謝の意義を考察する	アミノ基転移反応と脱アミノ反応について述べる	Ⅲ-1	『シンブル生化学』4「タンパク質」p49-51 / 9「消化と吸収」p124-126 / 12「アミノ酸の代謝」p189-193, p210	0.4
					脱アミノ反応で生じたアンモニアの処理を説明する	Ⅲ-1		
					グルコース・アラニン回路の意義を述べる	Ⅲ-2		
					尿素の生成（尿素回路）とその意義を説明する	Ⅲ-2		
17	6/30	橋口	ユニット６・アミノ酸代謝（２）	〔炭素骨格の代謝〕アミノ酸の炭素骨格部分の代謝を理解し、糖質代謝および脂質代謝との関わりを知る	炭素骨格の代謝の概要を説明する	Ⅲ-1	『シンブル生化学』12「アミノ酸の代謝」p193-202	0.4
					糖原性アミノ酸と糖質代謝の関係を述べる	Ⅲ-1		
					ケトン性アミノ酸と脂質代謝の関係を述べる	Ⅲ-1		
18	6/30	橋口	ユニット６・アミノ酸代謝（３）	〔アミノ酸と生体アミンの生合成〕アミノ酸の合成、および、アミノ酸から合成されるタンパク質以外の生体成分について理解する	アミノ酸の生合成と糖質代謝の関係を述べる	Ⅲ-1	『シンブル生化学』12「アミノ酸の代謝」p202-209 / 5「核酸」p65-68	0.4
					必須アミノ酸と非必須アミノ酸について述べる	Ⅲ-1		
					アミノ酸から合成される代表的な生体成分を列挙する	Ⅲ-1		
			ユニット７・ヌクレオチド代謝	〔ヌクレオチドの代謝〕ヌクレオチドの合成、分解およびその調節を理解する	ヌクレオチドの合成と分解過程を説明する	Ⅲ-1		
19	7/7	橋口	ユニット７・ヌクレオチド代謝	〔ヌクレオチドの代謝〕ヌクレオチドの合成、分解およびその調節を理解する	糖質代謝やアミノ酸代謝とヌクレオチド代謝との関係を説明する	Ⅲ-1	『シンブル生化学』5「核酸」p65-68 / 13「モノヌクレオチドの代謝」p211-218	0.4
					痛風やADA欠損症について説明する	Ⅲ-2		

細菌学 【講義】

科目番号 OD021105

前期：25コマ

評価責任者：田中芳彦

担当教員：田中芳彦、永尾潤一、岸川咲吏、豊永憲司

（一般目標）

感染症における感染の成立は、原因となる病原体の病原因子と宿主の生体防御能のバランスによることを理解しなければならない。そのために、病原微生物の一般性状および病原性、さらに宿主の防御能の基礎を理解し、感染成立の機序や感染予防に関する知識を修得する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）

I-7, III-4

（教育方法）

講義は、教科書を中心に、板書、プリント、スライド、動画、インターネットなどを用いて行う。

（学習方法）

講義の前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、講義の前後に下記教科書や参考書の該当箇所を読むこと。講義中には使用するパワーポイント、ビデオ、インターネットなどの内容を理解することに努める。プリントを配布することがあるので、その内容を講義中に理解し、講義の後に復習すること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 40.0 時間】

（評価）

【評価の割合】中間試験および定期試験 95%、授業態度（質疑応答、出席等を含む）5%。

【フィードバックの時期と方法】フィードバックの時期：試験終了後、概ね二週間。フィードバックの方法：中間試験：e-valueに揭示。定期試験：総合判定をポータルサイトに提示。

（教科書）

石原和幸ほか 編集 『口腔微生物学 ―感染と免疫―』第8版 学建書院、2024.

（参考書）

川端重忠ほか 編集 『口腔微生物学・免疫学』第5版 医歯薬出版、2021.

選定理由：簡潔に編集されており、復習時などの学習に使いやすい。

吉田眞一ほか 編集 『戸田新細菌学』改訂34版 南山堂、2013.

選定理由：非常に詳しい権威ある専門書で、参考書として利用しやすい。

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/3	田中	ユニット1 感染論概論	生体防御における微生物、免疫学、感染症の位置付けを身につける。	生物界における微生物の位置付けを解釈する。	Ⅲ-4	教科書【口腔微生物学―感染と免疫―第8版_学建書院】p.1-11. p.210.	1.6
					宿主の防御機構の位置付けを解釈する。	Ⅲ-4		
					感染の位置付けを解釈する。	Ⅲ-4		
2	4/3	田中	ユニット2 微生物の概念	生物界における微生物の位置付けを身につける。	生物進化の中での微生物の位置付けを解釈する。	Ⅲ-4	教科書p.12-14.	1.6
					微生物の種類を説明する。＊細菌、真菌、ウイルス、原虫	Ⅲ-4		
3	4/10	[3回] 田中	ユニット3 細菌の形態と構造	細菌の細胞形態と構造を知る。	細菌細胞の形態の名称を説明する。	Ⅲ-4	[3回] 教科書p.16-29.	[3] 1.6
4	4/10	[4回] 田中			細菌細胞の構造名と感染における役割を説明する。	Ⅲ-4	[4回] 教科書p.16-29.	[4] 1.6
					グラム染色法の原理を説明する。	Ⅲ-4		
5	4/17	永尾	ユニット4 細菌の生理と生化学	細菌の増殖と代謝を知る。	細菌の増殖と培養を説明する。	Ⅲ-4	教科書p.30-40.	1.6
					細菌の代謝を説明する。	Ⅲ-4		
6	4/17	永尾	ユニット5 感染と発症	感染と発症の定義を知る。	感染と発症の定義を説明する。	Ⅲ-4	教科書p.48-49. p.56-61. p.67-68.	1.6
					感染症対策における感染症の分類を説明する。	Ⅲ-4		
					正常細菌叢を説明する。	Ⅲ-4		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
7	4/24	[7回] 永尾	ユニット6 感染経路	感染経路の定義および感染症の定義を知る。	内因感染、外因感染、直接感染、間接感染、日和見感染を説明する。	Ⅲ-4	[7回] 教科書p. 48-52. p. 65-68. p. 67-68. [8回] 教科書p. 48-52. p. 65-68. p. 67-68.	7] 1.6 8] 1.6
8	5/1	[8回] 永尾			菌血症、敗血症、院内感染、菌交代症、病巣感染を説明する。	Ⅲ-4		
					輸入感染症、新興・再興感染症を説明する。	Ⅲ-4		
9	5/8	[9回] 永尾	ユニット7 細菌の病原因子	細菌の病原因子を知る。	菌体の付着因子を説明する。	Ⅲ-4	[9回] 教科書p. 52-57. [10回] 教科書p. 52-57.	9] 1.6 10] 1.6
10	5/9	[10回] 永尾			細菌性毒素の種類、構造、作用を説明する。	Ⅲ-4		
					食細胞抵抗因子を説明する。	Ⅲ-4		
					酵素産生性を説明する。	Ⅲ-4		
11	5/15	永尾	ユニット8 マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、原虫の特徴を理解する。	マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、原虫の特徴を理解する。	リケッチア、クラミジアの特徴を説明する。	Ⅲ-4	教科書p. 14. p. 138-146. p. 208-214.	1.6
					マイコプラズマの特徴を説明する。	Ⅲ-4		
					原虫の特徴を説明する。	Ⅲ-4		
12	5/16	田中	中間試験	1-11回までの講義内容を復習し、学習理解度を試験により評価する。	学習内容を整理して系統立てる。	I-7	1回から11回までの講義内容	1.6
					中間試験により理解の達成度を評価する。	I-7		
13	5/22	豊永	ユニット9 真菌概論	真菌の一般性状を理解する。	真菌の形態と構造を説明する。	Ⅲ-4	教科書p. 13-14. p. 197-207.	1.6
					真菌による主な感染症を説明する。	Ⅲ-4		
14	5/23	[14回] 岸川	ユニット10 滅菌と消毒	滅菌と消毒を理解する。	滅菌の定義と方法を説明する。	Ⅲ-4	[14回] 教科書p. 364-376. [15回] 教科書p. 364-376.	14] 1.6 15] 1.6
15	5/29	[15回] 岸川			消毒の定義と方法を説明する。	Ⅲ-4		
16	5/30	[16回] 永尾	ユニット11 化学療法	化学療法の特性を理解する。	化学療法の目的と原理を説明する。	Ⅲ-4	[16回] 教科書p. 377-411. [17回] 教科書p. 377-411. [18回] 教科書p. 377-411.	16] 1.6 17] 1.6 18] 1.6
17	6/5	[17回] 永尾			代表的な抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬を列挙する。	Ⅲ-4		
18	6/6	[18回] 永尾			代表的な抗菌薬の作用機序を説明する。	Ⅲ-4		
					代表的な化学療法薬の副作用を説明する。	Ⅲ-4		
					薬剤耐性菌について説明する。	Ⅲ-4		
					薬剤耐性機構について説明する。	Ⅲ-4		
					薬剤耐性遺伝子の伝達について説明する。	Ⅲ-4		
19	6/12	[19回] 田中	ユニット12 ウイルス概論	ウイルスの一般性状を理解する。	ウイルスの特徴を説明する。	Ⅲ-4	[19回] 教科書p. 147-152. [20回] 教科書p. 153-158. [21回] 教科書p. 158-163. p. 407-411.	19] 1.6 20] 1.6 21] 1.6
20	6/13	[20回] 田中			ウイルスの培養・増殖を説明する。	Ⅲ-4		
21	6/19	[21回] 田中			ウイルスの病原性、感染様式と宿主の免疫応答を説明する。	Ⅲ-4		
					ウイルス感染症の治療と予防を説明する。	Ⅲ-4		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
22	6/20	[22回] 田中	ユニット13 宿主防御機構	微生物に対する宿主の防御機構を理解する。	微生物に対する宿主の防御機構を解釈する。	Ⅲ-4	[22回] 教科書p. 70-71. p. 210.	22] 1. 6
23	6/26	[23回] 田中			感染防御機構の全体像を述べる。	Ⅲ-4	[23回] 教科書p. 72-73. p. 210-221. p. 222-226.	23] 1. 6
24	6/27	[24回] 田中			自然免疫を述べる。	Ⅲ-4	[24回] 教科書p. 73-74. p. 210-221. p. 227-257.	24] 1. 6
25	7/4	[25回] 田中			獲得免疫を述べる。	Ⅲ-4	[25回] 教科書p. 73-74. p. 210-221. p. 227-257.	25] 1. 6
					感染と炎症反応を説明する。	Ⅲ-4		
					抗原提示機能を説明する。	Ⅲ-4		
					免疫寛容を説明する。	Ⅲ-4		

歯科理工学Ⅱ 【講義】

科目番号 OD021113

前期：15コマ
評価責任者：都留寛治
都留寛治
丸田道人
担当教員：梶本 昇
佐藤 平

（一般目標）

歯科治療で使用される材料や器械の正しい選択と取扱いができるために、歯科材料の基本性質（物理的性質、化学的性質、生物学的性質）とその使用法に基づいて分類し、その組成、硬化反応、基本的な性質を理解し必要な特性を発現させるための基盤的知識を身につける。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-21

（教育方法）

指定教科書の解説を中心に、補助学習のプリントの配布とe-Learningを行う。

【資源】

講義には教科書「スタンダード歯科理工学」を持参すること。

（実習・演習）

（学習方法）

【予習方法】

授業前にスタンダード歯科理工学の該当箇所を通読し、理解できない語句を調べてノートにまとめておくこと。

【復習方法】

授業実施時に配布するプリントを用いて、スタンダード歯科理工学の該当箇所を復習する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

【評価の割合】

定期試験による評価（100%）

【フィードバックの時期と方法】

フィードバックの時期：試験終了後

フィードバックの方法：試験結果に基づき、追加学習すべき項目を掲示する。

*試験に関する案内は、8F歯科医療工学講座生体工学分野の掲示板を用いて行うので試験前には必ず確認すること。

*授業を欠席した場合は配布プリントを各自で受け取りに来ること。

（教科書）

中嶋 裕 他 監修『スタンダード歯科理工学第8版』：学建書院：2024

（参考書）

歯科理工学会編：歯科理工学教育用語集 第3版、医歯薬出版、2018.

（歯科理工学の専門用語を解説したもので、歯科理工学を学ぶ時の辞書として有用である。）

宮崎隆他編：臨床歯科理工学、医歯薬出版、2006.

（歯科における疾患別に利用される歯科材料が豊富なカラー写真や図とともに解説されており、臨床治療と歯科材料とも関わりが理解しやすい。）

日比野靖著：「歯科理工学サイドリーダー第6版、学建書院2008.

（歯科材料の特徴および物性を簡潔にまとめているので歯科材料全体の把握に便利である。後半部には演習形式の設問や歯科医師国家試験の過去問の解説があり知識の整理に役立つ。）

小倉英夫他編：コア歯科理工学、医歯薬出版、2008.

（臨床実習に必要な歯科理工学関連の知識について初学者を対象として多くの図表を用い平易に解説している。）

中村正明他編：目で見える歯科理工学、医歯薬出版、1992

（イラストを豊富に使用し、歯科臨床的視点からの記述が多いため、歯科臨床との関係を理解する一助となる。）

矢谷博文他編「クラウンブリッジ補綴学第5版」、医歯薬出版、2014.

（本学の冠橋義歯学の講義で使用されている。）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/1	[1回] 都留	歯科用金属材料	歯科用合金を主たる成分で分類し、それぞれの状態図・組成・接合法を理解することで適切な鑄造操作と熱処理により必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	歯科用合金の状態図を説明できる。	Ⅲ-21	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくこと。	1] 1.0
2	4/8	[2回] 都留			歯科用合金の加工を説明できる。	Ⅲ-21		2] 1.0
3	4/11	[3回] 丸田			歯科用合金の熱処理を説明できる。	Ⅲ-21		3] 1.0
4	4/15	[4回] 丸田			歯科用合金に求められる所要性質を説明できる。	Ⅲ-21		4] 1.0
					歯科用合金の分類を列挙できる。	Ⅲ-21		
					貴金属合金の組成を列挙できる。	Ⅲ-21		
					貴金属合金の性質を列挙できる。	Ⅲ-21		
					非貴金属合金の組成を列挙できる。	Ⅲ-21		
					非貴金属合金の性質を列挙できる。	Ⅲ-21		
					歯科用合金の接合法を説明できる。	Ⅲ-21		
5	4/22	[5回] 丸田	歯冠用セラミックス	歯冠用セラミックスを分類し、それぞれの用途、成分・組成、特性、製作法を理解することにより必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	歯冠修復物に求められる所要性質を説明できる。	Ⅲ-21	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくこと。	5] 1.0
6	4/25	[6回] 丸田			歯冠用セラミックスの分類を列挙できる。	Ⅲ-21		6] 1.0
7	5/2	[7回] 丸田			歯冠用セラミックスの成分・組成を列挙できる。	Ⅲ-21		7] 1.0
					歯冠用セラミックスの製作法を説明できる。	Ⅲ-21		
					歯冠用セラミックスの特性を説明できる。	Ⅲ-21		
8	5/13	[8回] 都留	歯冠補綴用レジン	歯冠補綴用レジン进行分类し、それぞれの用途、成分・組成、特性、製作法を理解することにより必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	歯冠補綴用レジンの分類を列挙できる。	Ⅲ-21	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくこと。	8] 1.0
9	5/20	[9回] 都留			歯冠補綴用レジンの成分・組成を列挙できる。	Ⅲ-21		9] 1.0
					歯冠補綴用レジンの製作法を説明できる。	Ⅲ-21		
					歯冠補綴用レジンの特性を説明できる。	Ⅲ-21		
10	5/27	[10回] 梶本	歯内療法関連材料	歯内療法で使用する材料を分類し、それぞれの組成・特性、操作方法を理解することにより必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	仮封材、裏層材、覆随材、根管充填材の所要性質を説明できる。	Ⅲ-21	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくこと。	10] 1.0
11	6/3	[11回] 梶本			仮封材の種類、特性、操作方法を説明できる。	Ⅲ-21		11] 1.0
					裏層材の種類、特性、操作方法を説明できる。	Ⅲ-21		
					覆随材の種類、特性、操作方法を説明できる。	Ⅲ-21		
					根管充填材の種類、特性、操作方法を説明できる。	Ⅲ-21		
					歯台築造用材料の種類と用途が説明できる。	Ⅲ-21		
12	6/10	[12回] 都留	接着・合着用材料	合着や接着に使用される材料を主たる成分で分類し、それぞれの用途、成分・組成、特性、操作方法、接着前処理を理解することで必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	合着材・接着材を主たる組成により分類できる。	Ⅲ-21	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくこと。	12] 1.0
13	6/17	[13回] 都留			合着材・接着材の硬化反応を説明できる。	Ⅲ-21		13] 1.0
14	6/24	[14回] 都留			合着材・接着材の特性および操作方法を説明できる。	Ⅲ-21		14] 1.0
15	7/1	[15回] 都留			各種歯科材料に合った接着前処理を説明できる。	Ⅲ-21		15] 1.0

歯科医療工学実習 【実習】

科目番号 0D021111

前期：33コマ

評価責任者：都留寛治

担当教員：都留寛治、丸田道人、梶本 昇、佐藤 平

（一般目標）

歯科治療で使用する材料や器械の取り扱いができるために、基礎的な化学系および物理系実験を実施し、歯科生体材料の組成、硬化反応、物性、技工用器械の構造、性能を理解し、それらの取り扱い方を修得する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー〔DP〕）

Ⅲ-21

（教育方法）

グループに分かれて各実習を行う。

（実習・演習）

（学習方法）

実習において使用する器材、歯科材料についての知識を下記にあげている参考書の該当箇所をよく読み修得する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 26.4 時間】

（評 価）

レポート (80%)

実習試験 (10%)

出席 (10%)

各ユニット終了時にフィードバックを掲示する。

（教科書）

福岡歯科大学歯科医療工学講座編集「歯科医療工学実習書」

（実習内容・方法をまとめた実習書である。各実習内容の最初の頁に予習のための参考書の該当箇所を明記しており、予習に取り組みやすくしているため。）

（参考書）

中嶋 裕 他 監修『スタンダード歯科理工学第8版』、学建書院、2024.

（1年次の医療工学、歯科理工学Ⅰ、2年次の歯科理工学ⅡおよびⅢで使用している教科書であり、反復学習になるため。）

歯科理工学会編：歯科理工学教育用語集 第3版、医歯薬出版、2018.

（歯科理工学の専門用語を解説したもので、歯科理工学を学ぶ時の辞書として有用である。）

矢谷博文他編「クラウンブリッジ補綴学第5版」、医歯薬出版、2014.

（本学の冠橋義歯学の講義で使用されている。）

細井紀雄他編「コンプリートデンチャーテクニク第6版」、医歯薬出版、2011.

（本学の有床義歯補綴学の講義で使用されている。）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/8	全員	ガイダンス	実習内容とそれらに関連する歯科生体材料の組成、硬化反応、物性、技工用器械の構造、性能に関する知識を関連づける。	実習に参加できる。	Ⅲ-21	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	2.4
					実習に必要な基礎的な知識を確認する。	Ⅲ-21		
			ユニット1 歯牙の切削と充填・修復物の研磨	エアータービンを用いた歯牙の切削、コンボジットレジン充填、マイクロモーターを用いた研磨のための実験原理・方法について理解し、歯牙の切削・充填・修復物の研磨を体験することで、エアータービン、マイクロモーターの操作方法、切削・研磨工具の取り扱い方を習得する。	実習の目的を説明できる。	Ⅲ-21		
					実習の方法を説明できる。	Ⅲ-21		
					班員と協調して実習に参加できる。	Ⅲ-21		
					エアータービンの構造を説明できる。	Ⅲ-21		
					マイクロモーターの構造を説明できる。	Ⅲ-21		
					切削の定義を説明できる。	Ⅲ-21		
					研削の定義を説明できる。	Ⅲ-21		
					研磨の定義を説明できる。	Ⅲ-21		
					ポイントとパーの違いを説明できる。	Ⅲ-21		
					切削効率を説明できる。	Ⅲ-21		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
2	4/15	[2回] 全員	ユニット2 歯科材料の弾性係数	歯科用合金の弾性率を測定するための実験原理・方法について理解し、歯科用合金の弾性率データを評価することで歯科用合金の機械的性質について考察する。	実習の目的を説明できる。	Ⅲ-21	[2回] スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。 [3回] スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。 [4回] スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	2] 2. 4 3] 2. 4 4] 2. 4
3	4/22	[3回] 全員			実習の方法を説明できる。	Ⅲ-21		
4	5/13				班員と協調して実習に参加できる。	Ⅲ-21		
	歯科用合金の弾性率を測定できる。				Ⅲ-21			
	実験で得られたデータを整理できる。				Ⅲ-21			
	平均弾性率を計算できる。				Ⅲ-21			
	誤差を計算できる。				Ⅲ-21			
	応力 - ひずみ曲線における比例限を説明できる。				Ⅲ-21			
	応力 - ひずみ曲線における弾性限を説明できる。				Ⅲ-21			
	応力 - ひずみ曲線におけるレジリエンスを説明できる。				Ⅲ-21			
	応力 - ひずみ曲線における耐力を説明できる。				Ⅲ-21			
		ユニット3 石膏の硬化時間			歯科用石膏の練和法、硬化時間の測定原理・方法について理解し、硬化時間測定の実習を通じて、歯科用石膏の組成、硬化反応、基礎的性質(混水比・硬化促進(遅延)剤)について考察する。	実習の目的を説明できる。		
		実習の方法を説明できる。	Ⅲ-21					
		班員と協調して実習に参加できる。	Ⅲ-21					
		歯科用石膏の硬化時間を測定できる。	Ⅲ-21					
		印象材の永久ひずみを測定できる。	Ⅲ-21					
		発熱曲線を描き、曲線から硬化時間を求めることができる。	Ⅲ-21					
		歯科用石膏の硬化反応を説明できる。	Ⅲ-21					
		実験結果を解釈し、混水比と硬化時間の関係を説明できる。	Ⅲ-21					
		実験結果を解釈し、硬化時間に影響する因子を説明できる。	Ⅲ-21					
		ユニット4 印象材のひずみと硬化時間	印象材の弾性ひずみ・永久ひずみ、硬化時間を測定するための実験原理・方法について理解し、印象材の弾性ひずみ・永久ひずみ、硬化時間を測定しデータを評価することで印象材の硬化特性、粘弾性挙動について考察する。	実習の目的を説明できる。		Ⅲ-21		
		実習の方法を説明できる。		Ⅲ-21				
		班員と協調して実習に参加できる。		Ⅲ-21				
		印象材の弾性ひずみを測定できる。		Ⅲ-21				
		印象材の永久ひずみを測定できる。		Ⅲ-21				
		レオメータを用いて印象材の硬化時間を測定できる。		Ⅲ-21				
		実験で得られたデータを整理できる。		Ⅲ-21				
		弾性印象材を説明できる。		Ⅲ-21				
		非弾性印象材を説明できる。		Ⅲ-21				
		アルジネート印象材の組成を列挙できる。		Ⅲ-21				
		アルジネート印象材の硬化反応を説明できる。		Ⅲ-21				
		シリコーンゴム印象材の組成を列挙できる。		Ⅲ-21				
		シリコーンゴム印象材の硬化反応を説明できる。		Ⅲ-21				
		弾性ひずみを説明できる。		Ⅲ-21				
		永久ひずみを説明できる。		Ⅲ-21				

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
5	5/20	[5回] 全員	ユニット5 埋没材の硬化膨張	埋没材の練和法、硬化膨張の測定原理・方法について理解し、硬化膨張測定の実習を通じて、埋没材の組成、硬化反応、基礎的性質（混水比・硬化促進（遅延）剤・硬化膨張・吸水膨張）について考察する。	実習の目的を説明できる。	Ⅲ-21	[5回] スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。 [6回] スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。 [7回] スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	5] 2.4 6] 2.4 7] 2.4
6	5/27				実習の方法を説明できる。	Ⅲ-21		
7	6/3	[6回] 全員 [7回] 全員			班員と協調して実習に参加できる。	Ⅲ-21		
					埋没材の硬化膨張を測定できる。	Ⅲ-21		
					実験で得られたデータを整理できる。	Ⅲ-21		
					膨張率曲線を描き、曲線から硬化膨張率を求めることができる。	Ⅲ-21		
					石膏系埋没材を説明できる。	Ⅲ-21		
					リン酸塩系埋没材を説明できる。	Ⅲ-21		
					硬化膨張を説明できる。	Ⅲ-21		
					吸水膨張を説明できる。	Ⅲ-21		
					実験結果を解釈し、埋没材の種類と硬化膨張率の関係を説明できる。	Ⅲ-21		
					実験結果を解釈し、混水比と硬化膨張率の関係を説明できる。	Ⅲ-21		
					実験結果を解釈し、硬化促進剤と硬化膨張率の関係を説明できる。	Ⅲ-21		
					実験結果を解釈し、硬化遅延剤と硬化膨張率の関係を説明できる。	Ⅲ-21		
					実験結果を解釈し、専用液濃度と硬化膨張率の関係を説明できる。	Ⅲ-21		
	ユニット6 歯科用セメント	歯科用セメントの硬化時間、引張強度、液のpHを測定するための実験原理・方法について理解し、歯科用セメントの硬化時間、引張強度、液のpHを測定しデータを評価することで歯科用セメントの組成、硬化反応、基礎的性質（強度、液のpH）について考察する。	実習の目的を説明できる。	Ⅲ-21				
	実習の方法を説明できる。		Ⅲ-21					
	班員と協調して実習に参加できる。		Ⅲ-21					
	歯科用セメントの硬化時間を測定できる。		Ⅲ-21					
	歯科用セメント液のpHを測定できる。		Ⅲ-21					
	歯科用セメントの引張強度を測定できる。		Ⅲ-21					
	実験で得られたデータを整理できる。		Ⅲ-21					
	平均引張強度を計算できる。		Ⅲ-21					
	誤差を計算できる。		Ⅲ-21					
	実験結果を解釈し、硬化時間の違いを説明できる。		Ⅲ-21					
	実験結果を解釈し、引張強度の違いを説明できる。		Ⅲ-21					
	リン酸亜鉛セメントの組成を列挙できる。		Ⅲ-21					
	リン酸亜鉛セメントの硬化反応を説明できる。		Ⅲ-21					
	ポリカルボキシレートセメントの組成を列挙できる。		Ⅲ-21					
	ポリカルボキシレートセメントの硬化反応を説明できる。		Ⅲ-21					
	ガラスアイオノマーセメントの組成を列挙できる。		Ⅲ-21					
	従来型ガラスアイオノマーセメントの硬化反応を説明できる。		Ⅲ-21					
	レジン添加型ガラスアイオノマーセメントの硬化反応を説明できる。		Ⅲ-21					

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
			ユニット7 歯科用合金の 機械的性質	歯科用合金の引張強さを測定するための実験原理・方法について理解し、歯科用合金の引張強さを測定しデータを評価することで歯科用合金の機械的性質について考察する。	実習の目的を説明できる。 実習の方法を説明できる。 班員と協調して実習に参加できる。 歯科用合金の引張強度を測定できる。 実験で得られたデータを整理できる。 平均引張強さを計算できる。 誤差を計算できる。 実験結果を解釈し、歯科用合金間の引張強度の違いを説明できる。 応力 - ひずみ曲線における降伏点を説明できる。 応力 - ひずみ曲線における引張強さを説明できる。 応力 - ひずみ曲線における靱性を説明できる。 塑性ひずみを説明できる。	III-21 III-21 III-21 III-21 III-21 III-21 III-21 III-21 III-21 III-21 III-21		
8 9 10	6/10 6/17 6/24	[8回] 全員 [9回] 全員 [10回] 全員	ユニット8 接着	接着の前処理として用いられるメタルプライマー（金属接着面）、セラミックプライマー（セラミックス接着面）処理を施した試料の接着強さを測定するための実験原理・方法について理解し、接着強さを測定しデータを評価することで、接着処理法、接着処理が接着強さに及ぼす影響について考察する。	実習の目的を説明できる。 実習の方法を説明できる。 班員と協調して実習に参加できる。 接着強さを測定できる。 実験で得られたデータを整理できる。 平均接着強さを計算できる。 誤差を計算できる。 接着性モノマーを列挙できる。 メタルプライマーを説明できる。 セラミックプライマーを説明できる。 実験結果を解釈し、接着強さに影響する因子を説明できる。	III-21 III-21 III-21 III-21 III-21 III-21 III-21 III-21 III-21 III-21	[8回] スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。 [9回] スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。 [10回] スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	[8] 2.4 [9] 2.4 [10] 2.4

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
			ユニット9 コンポジット レジン	コンポジットレジンの重合収縮率を測定するための実験原理・方法について理解し、フィラー含有量を変えた重合収縮率を測定しデータを評価することでコンポジットレジンの組成、重合反応、フィラーの役割について考察する。	実習の目的を説明できる。	Ⅲ-21		
					実習の方法を説明できる。	Ⅲ-21		
					班員と協調して実習に参加できる。	Ⅲ-21		
					重合収縮率を測定できる。	Ⅲ-21		
					実験で得られたデータを整理できる。	Ⅲ-21		
					平均重合収縮率を計算できる。	Ⅲ-21		
					誤差を計算できる。	Ⅲ-21		
					ベースモノマーを列挙できる。	Ⅲ-21		
					フィラーの種類・粒径と配合量を説明できる。	Ⅲ-21		
					フィラーの表面処理法を説明できる。	Ⅲ-21		
					化学重合型コンポジットレジンの硬化反応を説明できる。	Ⅲ-21		
					光重合型コンポジットレジンの硬化反応を説明できる。	Ⅲ-21		
					実験結果を解釈し、フィラー含有率と重合収縮率の関係を説明できる。	Ⅲ-21		
			ユニット10 アクリルレジン の重合	加熱重合、常温重合アクリルレジン の重合時温度測定のための実験原理・方法について理解し、重合時温度変化を測定しデータを評価することで加熱重合、常温重合アクリルレジン の組成、重合反応について考察し、重合操作を修得する。	実習の目的を説明できる。	Ⅲ-21		
					実習の方法を説明できる。	Ⅲ-21		
					班員と協調して実習に参加できる。	Ⅲ-21		
					常温重合アクリルレジン の重合時温度を測定できる。	Ⅲ-21		
					加熱重合アクリルレジン の重合時温度を測定できる。	Ⅲ-21		
					実験で得られたデータを整理できる。	Ⅲ-21		
					実験結果を解釈し、重合槽の温度の違いによる加熱重合アクリルレジン の重合時の温度変化を説明できる。	Ⅲ-21		
					常温重合アクリルレジン の組成を列挙できる。	Ⅲ-21		
					常温重合アクリルレジン の重合反応を説明できる。	Ⅲ-21		
					加熱重合アクリルレジン の組成を列挙できる。	Ⅲ-21		
					加熱重合アクリルレジン の重合反応を説明できる。	Ⅲ-21		
11	7/1	全員	実習試験	実習内容およびそれらに関連する歯科生体材料の組成、硬化反応、物性、技工用器械の構造、性能に関する知識を身につける。	実習に参加できる。	Ⅲ-21	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	2.4
				実習の基礎的な知識を列記できる。	Ⅲ-21			

衛生学 【講義】

科目番号 0D021107

前期：15コマ

評価責任者：谷口奈央

担当教員：谷口奈央、島津 篤、藤本暁江、内藤麻利江

（一般目標）

自然および社会的環境が人の健康に与えるさまざまな要因を理解し、環境と健康の関係について考察する。また、衛生学・公衆衛生学的視点から、健康の保持・増進を図るための方策を学習する。それを通じて、環境の保全、持続可能な地球未来の構築、そして人の健康増進の意義について深く考察する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-22, Ⅲ-23

（教育方法）

教科書と配布資料を利用した講義を中心に行う。

（学習方法）

授業前後に下記予習の項目について教科書や参考書の該当箇所を読むこと 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：15.0 時間】

（評価）

各授業毎に受講態度および必要に応じたレポート評価のフィードバック（10%）ならびに定期試験（90%）による評価を行う。中間試験を実施する場合は定期試験と按分する。

（教科書）

1. 安井利一、尾崎哲則、埴岡 隆、森田 学、山下喜久、岸 光男、嶋崎義浩編、「新編 衛生学・公衆衛生学」、医歯薬出版、2024

（参考書）

1. 小山 洋 監修、辻 一郎、上島通浩 編集、「シンプル 衛生公衆衛生学」、南江堂、2023

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/2	谷口奈央	ユニット1 保健統計（衛生学・公衆衛生学の意義と目的）	衛生学・公衆衛生学の意義と目的を理解する。	衛生学・公衆衛生学の意義と目的を説明することができる。	Ⅲ-22	衛生学・公衆衛生学の意義と目的	1.0
2	4/9	島津 篤	ユニット1 保健統計（集団の特徴）	集団の特徴について理解する。	国民の健康状態の変化について説明できる。 人口静態統計・動態統計・生命表について説明できる。	Ⅲ-23 Ⅲ-23	人口静態統計・動態統計	1.0
3	4/16	島津 篤	ユニット1 保健統計（集団の変化）	集団の変化について理解する。	社会環境の変化について説明できる。 歯科保健医療情報について説明できる。	Ⅲ-22 Ⅲ-23	生命表および国民の健康状態の変化、歯科保健医療情報	1.0
4	4/23	藤本暁江	ユニット2 環境保健（地球環境と対策）	地球環境と健康との関わりと対策について理解する。	地球環境の変化と健康への影響について説明できる。	Ⅲ-22	地球環境の変化と健康	1.0
5	4/30	藤本暁江	ユニット2 環境保健（大気と対策）	大気と対策について理解する。	大気と対策について説明できる。	Ⅲ-22	大気と健康	1.0
6	5/7	藤本暁江	ユニット2 環境保健（公害と対策）	公害と対策について理解する。	公害汚染について説明できる。 公害の対策について説明できる。	Ⅲ-22 Ⅲ-22	公害と健康	1.0
7	5/14	谷口奈央、島津 篤、藤本暁江	ユニット2 中間試験	保健統計と環境保健を理解する。	保健統計と環境保健について説明できる。	Ⅲ-22	これまでの講義内容	1.0
8	5/21	藤本暁江	ユニット2 環境保健（水質と対策）	水質と対策について理解する。	水質の健康への影響について説明できる。 水質の対策について説明できる。	Ⅲ-22 Ⅲ-22	水質と健康	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
9	5/21	藤本暁江	ユニット3 環境保健（温熱環境と対策）	温熱環境と対策について理解する。	温熱環境の健康への影響について説明できる。	Ⅲ-22	温熱環境と健康	1.0
					温熱環境と対策について説明できる。	Ⅲ-22		
10	5/21	谷口奈央	ユニット3 口腔と衛生（食生活と健康）	食生活と健康について理解する。	食生活の現状と対策について説明できる。	Ⅲ-23	食生活の現状と対策	1.0
11	5/28	谷口奈央	ユニット3 口腔と衛生（食品保健）	食品保健について理解する。	食品保健・食中毒について説明できる。	Ⅲ-22	食品保健・食中毒	1.0
12	5/28	谷口奈央	ユニット3 口腔と衛生（生活習慣病）	生活習慣病を理解する。	生活習慣病の予防と健康増進について説明できる。	Ⅲ-22	生活習慣病の予防と健康増進	1.0
13	6/4	谷口奈央	ユニット3 口腔と衛生（生活習慣病対策）	生活習慣病対策を理解する。	健康日本2 1（第三次）を説明できる。	Ⅲ-22	健康日本2 1（第三次）	1.0
14	6/25	藤本暁江	ユニット2 口腔と衛生（感染症）	感染症について理解する。	感染症の基礎と流行について説明できる。	Ⅲ-22	感染症と健康	1.0
					感染症の対策と人権について説明できる。	Ⅲ-22		
15	7/2	藤本暁江	ユニット2 口腔と衛生（廃棄物処理）	廃棄物処理について理解する。	廃棄物の分類と処理について説明できる。	Ⅲ-22	感染性廃棄物	1.0

外科学 【講義】

科目番号 0D021304

前期：15コマ
評価責任者：園田 英人
担当教員：園田英人、泉琢磨、外科・内視鏡センター教員
松本拓也（福岡東医療センター）

（一般目標）
全身の視野に立って口腔・顎顔面領域の診療を行うために、医学（外科学）の歴史、医の倫理、インフォームドコンセント、医科診断法、滅菌・消毒、ショック、輸血、体液・栄養管理、腫瘍を中心とした血液疾患や消化器疾患などの臨床医学の基本知識と考え方を習得し、歯科学の学習と診療に適用する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）
Ⅰ-4, Ⅱ-2, Ⅲ-5, Ⅲ-14, Ⅲ-17, Ⅳ-4, Ⅳ-15

（教育方法）
プリント、参考書による講義、スライドを用いた説明
（ディスカッション・ディベート）（実習・演習）

（学習方法）
教科書、参考図書（下記）にて予習を行う。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）
定期試験（記述および多肢選択 95%）、授業態度（質疑応答を含む 5%）
総合評価をポータルサイトに掲示する。

（教科書）
「標準外科学」医学書院

（参考書）
「消化器疾患ビジュアルブック」学研、「わかりやすい外科学」・「わかりやすい内科学」文光堂、「みんなの血液内科学」中外医学社、「やさしい腫瘍学」南江堂

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/3	園田 他	外科学の概念 (1)	外科の歴史を知り外科医の倫理を身に着ける。インフォームドコンセントの重要性を認識し、その具体的方法を理解する。医療事故が発生する要因を認識し、その予防について理解する	外科学史において重要な事項を述べる 史実から先人の教えを感じる インフォームドコンセントの定義と方法を説明する がん患者への説明、安楽死や尊厳死について討論する 医療事故と医療過誤を識別する 医療事故報告システムについて説明する	Ⅰ-4 Ⅰ-4 Ⅳ-15 Ⅰ-4 Ⅳ-15 Ⅳ-15	「標準外科学」p3-9 外科の歴史と外科医の医療への貢献 p251-259 外科とリスクマネジメント	1.0
2	4/10	園田 他	消毒と滅菌	滅菌・消毒の意義と重要性を認識し、その具体的方法を理解する。	滅菌と消毒の定義を述べる 代表的な滅菌法と消毒法を説明する 至適滅菌法あるいは消毒法を選択する	Ⅳ-15 Ⅳ-15 Ⅳ-15	「標準外科学」p51-57 無菌法	1.0
3	4/17	園田 他	外科診断法	病歴の聴取法、身体所見の取り方、必要な臨床検査の選択を理解する。水・電解質異常および酸塩基平衡以上に関する知識を身に着け体液管理の実際を理解する	病歴の聴取法を説明する 身体所見と病歴を関連付ける 適切な検査法を選択する 体液の分布とその調節機構を説明する 水・ナトリウム代謝異常の病態生理・診断・治療について述べる カリウム代謝異常の病態生理・診断・治療について述べる 酸塩基平衡の調節機序を理解し、その異常を述べる 輸液の基礎と臨床応用を説明する	Ⅱ-2 Ⅱ-2 Ⅱ-2 Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	「標準外科学」p28-50 外科的診断法	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
4	4/24	園田 他	外科と栄養	栄養評価法・NSTの活動内容、各種栄養法を理解する	栄養評価法を列挙する	Ⅲ-14	「消化器疾患ビジュアルブック」 p 370-376 栄養療法とケア	1.0
					必要カロリー計算法と栄養素のバランスを述べる	Ⅲ-14		
					NSTの意義を述べる。IVHと経腸栄養の利点・欠点を列挙する	Ⅲ-14		
					PEGの方法を調べる	Ⅲ-14		
					PEGの適応を述べ、合併症を列挙する	Ⅲ-14		
5	5/1	園田 他	外科学の概念 (2)	外科基本手技とその重要性を理解する	一時的および永久的止血法について述べる	Ⅲ-17	「標準外科学」p58-84 基本的外科手術手技 p 87-94 出血、止血、輸血	1.0
					皮膚切開法、縫合法について述べる	Ⅲ-5		
					ドレナージの方法と意義を述べる	Ⅲ-17		
					縫合糸の種類とそれぞれの長所、短所を述べる	Ⅲ-5		
6	5/8	園田 他	貧血など血液疾患・輸血	貧血の病態と成因を理解する。輸血の適応・輸血の種類を理解する。輸血の副作用を理解し事故を予防する	発生機序からみた貧血の分類を述べる	Ⅲ-17	「わかりやすい内科学」p 909-970 「標準外科学」p87-100 出血、止血、輸血	1.0
					貧血の鑑別診断を説明する	Ⅲ-17		
					輸血の適応を述べる	Ⅲ-5		
					輸血の種類を述べる	Ⅲ-5		
					輸血の副作用を列挙する	Ⅲ-5		
					不適合輸血の原因、症状、対処法を理解する	Ⅲ-5		
7	5/15	園田 他	腫瘍の定義と分類 (1)	腫瘍の定義と分類を理解する	腫瘍の定義を述べる	Ⅳ-4	「標準外科学」p146-169 腫瘍	1.0
					上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍を識別する	Ⅳ-4		
					良性腫瘍と悪性腫瘍を識別する	Ⅳ-4		
8	5/22	園田 他	白血球・リンパ球系の異常、出血と止血、血小板減少と血小板機能不全	白血病と悪性リンパ腫の病態と治療を理解する 止血のメカニズムおよび止血機構の異常を理解する 血小板機能と血小板異常の病態を理解する	白血球の種類と機能を述べる	Ⅲ-17	「わかりやすい内科学」p 909-970 「みんなの血液内科学」p 112-135 「標準外科学」p87-100 出血、止血、輸血	1.0
					白血病、悪性リンパ腫の代表的分類を述べる	Ⅲ-17		
					白血病の遺伝子異常と分子標的治療について説明する	Ⅲ-17		
					止血機構と凝固反応を説明する	Ⅲ-17		
					凝固障害による出血性疾患の鑑別を説明する	Ⅲ-17		
					血小板の機能を述べる	Ⅲ-17		
					血小板機能異常の病態を説明する	Ⅲ-17		
					血小板減少の分類を述べる	Ⅲ-17		
					血小板減異常の症状と徴候を説明する	Ⅲ-17		
9	5/29	園田 他	腫瘍の定義と分類 (2)	腫瘍の基本的病態、特に悪性腫瘍の病態を理解する 細胞のがん化と増殖のメカニズムを理解する	腫瘍の形態と発育形式から良性と悪性を識別する	Ⅲ-5	「標準外科学」p146-169 腫瘍 「やさしい腫瘍学」p57-90 「やさしい腫瘍学」p100-118	1.0
					転移の種類と発生臓器について説明する	Ⅲ-5		
					細胞のがん化メカニズムを説明する	Ⅲ-5		
					がん遺伝子とがん抑制遺伝子の働きを述べる	Ⅲ-5		
					発癌因子を列挙する	Ⅲ-5		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
10	6/5	園田 他	消化器の解剖	消化器の解剖とその機能を理解する	消化器の解剖、機能を説明する 腸内細菌とその作用について述べる 排便の仕組み、便秘について説明する	Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	「標準外科学」p159-169 腫瘍-診断・治療	1.0
11	6/5	園田 他	腫瘍の診断と治療（1）	腫瘍診断のための検査の必要性を認識し各種検査法を理解する 消化管癌の検査、治療を理解する	各種画像診断法を列記する 適切な画像診断法を選択する 消化管腫瘍の検査、治療について説明する	Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	「標準外科学」p159-169腫瘍-診断・治療，p454-464食道腫瘍，p504-527胃腫瘍，p543-551小腸・大腸腫瘍	1.0
12	5/16	松本 他	循環不全・ショック	ショックの病態を理解する	循環不全・ショックの定義と要因 循環不全・ショックの病態と対応を述べる	Ⅲ-17 Ⅲ-17	「標準外科学」p22-33 ショック	1.0
13	6/19	園田 他	口腔内病変に関連した消化器疾患	炎症性腸疾患の病態を理解する 口腔癌と上部消化管腫瘍の合併について理解する 食道異物の検査、治療について理解する	炎症性腸疾患の病態と治療について述べる 口腔癌に合併しうる消化管悪性腫瘍について述べる 肝硬変症の周辺症状としての肝性口臭について述べる 消化管ポリポースの分類について説明する	Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	「標準外科学」p532-537 炎症性腸疾患 「消化器疾患ビジュアルブック」p176-182 消化管ポリポース	1.0
14	6/26	園田 他	乳腺悪性腫瘍・骨粗鬆症	乳癌の病態と治療を理解する 乳癌術後補助療法（ホルモン療法、化学療法、放射線療法、分子標的治療）を理解する 骨粗鬆症の病態と治療を理解する	乳癌の診断、治療について説明する 乳癌のサブタイプについて述べる 乳癌術後補助療法について説明する ホルモン療法の副作用としての骨粗鬆症について説明する 骨粗鬆症治療について述べる	Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	「標準外科学」p294-309 乳腺 「わかりやすい外科学」p232-240 乳腺外科 骨粗鬆症、BP製剤に関してインターネットで調べる	1.0
15	7/3	園田 他	腫瘍の診断と治療（2）	腫瘍診断のための検査の必要性を認識し各種検査法を理解する 肝臓癌の検査、治療を理解する	各種画像診断法を列記する 適切な画像診断法を選択する 腫瘍マーカーの適応と限界を述べる	Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	「標準外科学」p159-169 腫瘍-診断・治療	1.0

ドイツ語Ⅱ 【講義】

科目番号 0D022001

前期：15コマ

評価責任者：学生部長、岡島勇太

担当教員：池田奈央

（一般目標）

ドイツ語は語彙や文法の点で英語と似た点があり、不定詞句という文章の基本の形においてその語順には日本語と似た部分がある。その一方で、当然のことながら名詞に性があったり人称変化したりするなど、両言語と異なる部分も多々ある。この類似点や相違点を知ることは、これまで身に付けてきた英語や日本語に新たな光を当てる機会となる。本授業では、ドイツ語の文法を学ぶことは当然として、この学習を通して言語を学ぶことについて新たな視点や気づきを得ることを目標とする。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

VI-1

（教育方法）

教科書を補助的に用い、ドイツ語の文法を学んでいく。ドイツ語の発音に関しては、ドイツ語の詩や歌を教材とする。また、ドイツ語の語彙の暗記より、都度辞書を引くことを推奨する。ドイツ語の文章を正しく発音できるようになることと、辞書があれば簡単な文章が訳せるようになることを最終的な目標とする。授業で学んだことが身になるように定期的に小テストを実施するか、宿題を課す。小テスト・定期試験時、教科書など文法書の持ち込みは不可だが、辞書の持ち込みは許可する。

（プレゼンテーション）

（学習方法）

主に教員の用意した練習問題を解く。授業中は独和辞典を使うので、必ず持参すること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

授業中の小テスト、中間テスト、定期テストの総合点で成績を評価する。定期試験の範囲は後学期学習全範囲とする。出席点は成績に含まれない。授業内容の復習のために授業中、練習課題を与える。授業時間内に終わらなかったときは宿題となる。この課題に関して、授業中に発言・回答を求めることがあるが、ここでの間違いは成績に影響しないため積極的な姿勢を求める。授業中に長時間席を外したときは、出席を取り消す。授業態度は成績につけないが、他の学生の迷惑になる行為があった際は教室からの退室を求め、その日の出席を取り消す場合がある。

（教科書）

1年次に使った教科書を使用する。失くした人は再度購入すること。
 <必ず購入>根本道也編『ドイツってどんな国?』、同学社
 <必ず購入>根本道也、他編著、『アポロン独和辞典』第4版、同学社

（参考書）

1年次に使った辞書を使用する。失くした人は再度購入すること。

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/7	池田	オリエンテーション、発音の復習	詩の朗読。	発音を復習することで、ドイツ語の語感を掴む。	VI-1	都度指示する	1.0
2	4/14	池田	文法の復習	ドイツ語の翻訳。	独和辞書を用いて、和文の翻訳を行う。	VI-1	1年次の復習	1.0
3	4/21	池田	前置詞	前置詞の格支配、それぞれの格ごとの前置詞の種類を学ぶ。	前置詞に合わせて名詞を変化させられるようになる。	VI-1	都度指示する	1.0
4	4/28	池田	前置詞	3・4格支配の前置詞について用法、種類を学ぶ。前置詞と定冠詞や人称代名詞、疑問代名詞の縮小形を学ぶ。	前置詞に合わせて名詞を変化させられるようになる。	VI-1	都度指示する	1.0
5	5/12	池田	話法の助動詞	話法の助動詞の意味、用法、人称変化を学ぶ。	日本語に合わせて適切な話法の助動詞を選択できるようになる。話法の助動詞のある不定詞句を作れるようになる。また、その不定詩句を平叙文の形にできるようになる。	VI-1	都度指示する	1.0
6	5/19	池田	話法の助動詞	話法の助動詞の意味、用法、人称変化を学ぶ。	日本語に合わせて適切な話法の助動詞を選択できるようになる。話法の助動詞のある不定詞句を作れるようになる。また、その不定詩句を平叙文の形にできるようになる。	VI-1	都度指示する	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
7	5/19	池田	接続詞・副文	接続詞の種類、主文と副文の関係、語順について学ぶ。	日本語に合わせて適した接続詞を選択できるようになる。接続詞の種類、主文と副文の前後によって語順が変化することを学び、適切な配置に並べられるようになる。	VI-1	都度指示する	1.0
8	5/26	池田	接続詞・副文	接続詞の種類、主文と副文の関係、語順について学ぶ。	日本語に合わせて適した接続詞を選択できるようになる。接続詞の種類、主文と副文の前後によって語順が変化することを学び、適切な配置に並べられるようになる。	VI-1	都度指示する	1.0
9	5/26	池田	中間復習	独和辞書を用いて、課題を解く。	主にドイツ語の文章を和文へと翻訳する。その際、いかに独和辞書を使いこなしているか、文法が身についているかを見る。	VI-1	それまでの内容	1.0
10	6/2	池田	分離動詞と不分離動詞	分離動詞と不分離動詞の事例、語順への影響、辞書の表記など学ぶ。	辞書において分離動詞・不分離動詞がどのように記載されているのか見る。不定詞句を平叙文にする練習を行う。	VI-1	都度指示する	1.0
11	6/9	池田	分離動詞と不分離動詞	分離動詞と不分離動詞の事例、語順への影響、辞書の表記など学ぶ。	辞書において分離動詞・不分離動詞がどのように記載されているのか見る。不定詞句を平叙文にする練習を行う。	VI-1	都度指示する	1.0
12	6/16	池田	過去形と現在完了形	ドイツ語の過去形と現在完了形の用法、違い、人称変化を学ぶ。	過去形・現在完了形の不定詞句をつくれるようになる。現在形の不定詞句を過去形・現在完了形の平叙文の形にできるようになる。	VI-1	都度指示する	1.0
13	6/23	池田	受動表現	受動表現の種類、用法を学ぶ。	受動態の不定詞句をつくれるようになる。不定詞句の形から平叙文へ変化させられるようになる。	VI-1	都度指示する	1.0
14	6/30	池田	時制・受動の復習	ドイツ語の時制と受動態について復習する。	適切な不定詞句をつくれるようになり、それを平叙文に変化させられるようになる。	VI-1	都度指示する	1.0
15	7/7	池田	総括	独和辞書を用いて、課題を解く。	主にドイツ語の文章を和文へと翻訳する。その際、いかに独和辞書を使いこなしているか、文法が身についているかを見る。（定期試験に備えた課題をこなす）において分離動詞・不分離動詞がどのように記載されているのか見る。不定詞句を平叙文にする練習を行う。	VI-1	これまでの総括	1.0

中国語Ⅱ 【講義】

科目番号 0D022002

前期：15コマ

評価責任者：学生部長、岡島勇太

担当教員：矢羽田朋子

（一般目標）

①本授業では、中国語の入門程度の文法を学習済の学生を対象に指定の教科書を用いて学んでいきます。「聞く・話す・読む・書く・訳す」という技能トレーニングに重点を置き、実践的なコミュニケーション能力を向上させることを目標とします。②現代はグローバル化の時代で、多文化共生の時代でもあります。異文化間のコミュニケーションというのは、言葉だけでは成立しません。相手の文化についても知ろうとする必要があります。本授業では中国語だけではなく、中国人の生活習慣や考え方、中国文化等についても理解を深めることが出来るよう視聴覚教材等も取り入れていきたいと考えています。本授業をきっかけにして、中国に対する理解が深まれば幸いです。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

VI-1

（教育方法）

指定の教科書を中心に講義を進めます。共同学習をすることにより、コミュニケーション力や協同する力も身につけます。また視聴覚教材等を用いて、置換練習や短い会話文の音読、練習問題に取り組み、「聞く・話す・読む・書く・訳す」といった能力を着実に身につけていきます。また実力を測る為に、定期試験の他、適宜小テストを行います。（プレゼンテーション等が含まれます。）
（プレゼンテーション）

（学習方法）

授業前の学習としては、単元ごとに設けられている単語や文法のポイントをサポートサイトにて確認しておくことが望ましいです。授業後の学習としては、課文を暗唱できるぐらいまで繰り返し読むことにより、学習内容を定着させることが望ましいです。発音については音読アプリのOndoku Chineseを活用すると良いでしょう。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

定期試験50%、課題及び小テスト等50%で評価します。出席は評価点に含まれませんが、無断欠席した回の小テストは0点評価にします。（※公欠は配慮します。）授業に対して積極的に参加する姿勢を求めます。総合評価はポータルサイトに掲示します。

（教科書）

芦田久美子・永野善寛・王牧『グッと入門中国語（改訂版）』[2023年]（金星堂）

（参考書）

授業の中で適宜紹介します。

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/7	矢羽田	ガイダンス・第6課「食堂は図書館の向かいにあります。」	①新出単語の発音・意味・簡体字を覚える。②文法（場所代名詞・方位詞・所在を表す言い方）を理解する。③決まり文句・課文の内容を理解する。	①語句や課文の発音を練習し、発音・意味・簡体字を理解する。②文法の用法を理解し、練習問題を解いて確認する。	VI-1	4 2～4 5 頁	1.0
2	4/14	矢羽田	第6課「食堂は図書館の向かいにあります。」第7課「私は夜11時に寝ます。」	①新出単語の発音・意味・簡体字を覚える。②文法（場所代名詞・方位詞・所在を表す言い方・時刻・好きなものの言い方）を理解する。③決まり文句・課文の内容を理解する。	①語句や課文の発音を練習し、発音・意味・簡体字を理解する。②文法の用法を理解し、練習問題を解いて確認する。	VI-1	4 2～4 9 頁	1.0
3	4/21	矢羽田	第7課「私は夜11時に寝ます。」	①新出単語の発音・意味・簡体字を覚える。②文法（時刻・時刻の位置・好きなものの言い方）を理解する。③決まり文句・課文の内容を理解する。	①語句や課文の発音を練習し、発音・意味・簡体字を理解する。②文法の用法を理解し、練習問題を解いて確認する。	VI-1	4 6～4 9 頁	1.0
4	4/28	矢羽田	その他：実際の音源で中国語に触れる	テキストの音声と教員の発音以外の中国語に触れ、実際の中国語の音に親しむ。	今まで学習した内容でどれくらい実際の中国語の会話が聞き取れるのか確認する。	VI-1	特に指定なし	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
5 6	5/12 5/19	[5回] 矢羽田 [6回] 矢羽田	第8課「私は中日辞典を1冊買いに行きたい。」	①新出単語の発音・意味・簡体字を覚える。②文法（助動詞・連動文・量詞）を理解する。③決まり文句・課文の内容を理解する。	①語句や課文の発音を練習し、発音・意味・簡体字を理解する。②文法の用法を理解し、練習問題を解いて確認する。	VI-1	[5回] 50～53頁 [6回] 50～53頁	5] 1.0 6] 1.0
7	5/19	矢羽田	復習テスト①	今まで学習した内容で苦手な箇所を把握する。	今まで学習した内容で苦手な箇所を把握し、対処出来るようにする。	VI-1	最初～53頁	1.0
8	5/26	矢羽田	その他：実際の音源で中国語に触れる	テキストの音声と教員の発音以外の中国語に触れ、実際の中国語の音に親しむ。	今まで学習した内容でどれくらい実際の中国語の会話が聞き取れるのか確認する。	VI-1	特に指定なし	1.0
9 10	5/26 6/2	[9回] 矢羽田 [10回] 矢羽田	第9課「私は本屋でアルバイトをしています。」	①新出単語の発音・意味・簡体字を覚える。②文法（介詞①・介詞②）を理解する。③決まり文句・課文の内容を理解する。	①語句や課文の発音を練習し、発音・意味・簡体字を理解する。②文法の用法を理解し、練習問題を解いて確認する。	VI-1	[9回] 54～57頁 [10回] 54～57頁	9] 1.0 10] 1.0
11 12	6/9 6/16	[11回] 矢羽田 [12回] 矢羽田	第10課「冬休みあなたはどこに行きましたか？」	①新出単語の発音・意味・簡体字を覚える。②文法（経験・完了・時間量）を理解する。③決まり文句・課文の内容を理解する。	①語句や課文の発音を練習し、発音・意味・簡体字を理解する。②文法の用法を理解し、練習問題を解いて確認する。	VI-1	[11回] 58～61頁 [12回] 58～61頁	11] 1.0 12] 1.0
13	6/23	矢羽田	発音・ピンインの復習	基本的な中国語を聞き取り、発音表記方法で表記できるか確認する。	基本的な中国語の発音と表記方法をマスターする。	VI-1	7～21頁	1.0
14	6/30	矢羽田	復習テスト②	今まで学習した内容で苦手な箇所を把握する。	今まで学習した内容で苦手な箇所を把握し、対処出来るようにする。	VI-1	最初～61頁	1.0
15	7/7	矢羽田	総復習	簡単な中国語を使って言いたいことが言える、書ける。	今まで学習した内容で簡単な中国語の受け答えを出来るようになる。	VI-1	最初～61頁の苦手な箇所	1.0

ライフコースの社会学 【講義】

科目番号 OD072008

前期：15コマ

評価責任者：学生部長、谷口 奈央

担当教員：友枝 敏雄

（一般目標）

人間は社会的な存在だと言われる。人間が社会を作り、その社会によって人間が作られる。医療従事者は人と接する上で、医療的な技術だけでなく、人とのコミュニケーション能力が求められている。この授業では、コミュニケーション能力の向上を、他者理解という観点から考えていく。ミクロレベルの社会およびマクロレベルの社会における他者理解の方法とはいかなるものであるのか、他者理解によって、社会における人々の関係が円滑になり、幸せな社会にするにはどうしたらよいのかについて、学びながら、医療従事者として社会に貢献していく意欲を醸成していく。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）

Ⅲ-16

（教育方法）

資料配布と講義

（学習方法）

事前学習としては、講義資料および教科書を予習し、事前に内容を把握しておくこと。授業ではコメントの提出が求められるため、授業時間内にコメントを書けるようにしておくこと。また、事後学習としては、授業で理解できなかった点を文献などを使って復習しておくこと。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評 価）

基本的にはレポートのみ（100%）。ただし、授業内で提出されるコメントは、次の授業で紹介された頻度に応じて、レポート評価に加算される可能性がある。
総合評価をポータルサイトに掲示する。

（教 科 書）

友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵著『社会学のエッセンス（新版補訂版）』2017年、有斐閣。

（参 考 書）

友枝敏雄・山田真茂留編『Do！ソシオロジー（改訂版）』2013年、有斐閣

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	5/8	友枝	社会科学のなかの社会学	社会科学の一分野である社会学を理解する。	大学の学問分野を紹介し、社会学は社会科学の一分野であることを説明する。	Ⅲ-16	講義資料を事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
2	5/15	友枝	「社会」の発見と社会学の誕生	19世紀にフランスで社会学が誕生したことを理解する。	西欧近代において「社会」が発見され、「社会」を探究する学問として社会学が誕生したことを説明する。	Ⅲ-16	講義資料を事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
3	5/15	友枝	社会学とは	社会学の定義について理解する。	社会学という学問の特色を、経済学、政治学、心理学、文化人類学などの学問と比較しながら説明する。	Ⅲ-16	講義資料を事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
4	5/22	友枝	社会の4つの領域と近代化の趨勢	社会の4つの領域について理解する。	社会の4つの領域の活動の担い手および4つの領域の変動の趨勢について説明する。	Ⅲ-16	教科書・講義資料を事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
5	5/22	友枝	社会現象を客観的に捉えることはできるのか	社会現象を自然現象のように客観的に捉えることができるかどうかについて理解する。	社会現象を理解する際に、文化による違いがある場合とない場合とについて説明する。	Ⅲ-16	教科書・講義資料を事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
6	5/29	友枝	行為と意味（相互主観性）	人間の日々の活動の要素である行為と意味について理解する。	人間の日々の活動の要素である行為と意味について説明する。	Ⅲ-16	講義資料を事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
7	5/29	友枝	アイデンティティ	自己を捉える際の中核的な概念であるアイデンティティを理解する。	自己を理解する、もしくは社会のなかの個人を的確に捉える概念としてのアイデンティティについて説明する。	Ⅲ-16	講義資料を事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
8	6/5	友枝	スティグマ	自己および他者を捉える概念としてのスティグマを理解する。	自己および他者を捉える概念としてのスティグマについて説明する。	Ⅲ-16	教科書・講義資料を事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
9	6/5	友枝	正常と異常	社会で発生する正常な出来事と異常な出来事を理解する。	社会で発生する正常な出来事と異常な出来事を説明する。	Ⅲ-16	教科書・講義資料を事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
10	6/12	友枝	ジェンダー	社会現象を捉える際の重要な概念であるジェンダーを理解する。	社会現象を捉える際の重要な概念であるジェンダーについて説明する。	Ⅲ-16	教科書・講義資料を事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
11	6/12	友枝	規範と制度	人間と社会を成り立たせている規範と制度を理解する。	人間と社会に秩序をもたらしている規範と制度について説明する。	Ⅲ-16	教科書・講義資料を事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
12	6/19	友枝	不平等と正義	社会における不平等と正義を理解する。	社会において何が不平等であり、何が正義であるのかについて、数値データを用いて説明する。	Ⅲ-16	教科書・講義資料を事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
13	6/19	友枝	共同体	社会の一部分をなす共同体を理解する。	社会の一部分をなす共同体がどのようなものであり、私たちにどのような影響を与えているかについて説明する。	Ⅲ-16	教科書・講義資料を事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
14	6/26	友枝	国家と市民社会	現代の人間に大きな影響を与える国家と市民社会を理解する。	現代の人間に大きな影響を与える国家と市民社会について説明する。	Ⅲ-16	教科書・講義資料を事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
15	6/26	友枝	まとめ	社会的動物としての特性を総合的に再確認する。	これまでの授業内容をふまえて、あらためて、人間と社会のあり方および私たちにとって幸せに暮らせる社会の可能性を説明する。	Ⅲ-16	講義資料を事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0

比較文化論 【講義】

科目番号 0D072011

前期： 15コマ
 評価責任者： 岡島 勇太
 担当教員： 岡島 勇太
 西谷 郁

（一般目標）

今日の医療従事者には、医療技術を支え、医療コミュニケーションを円滑にし、医療従事者自身のQOLを高めるための広範な知識や考え方が求められている。それらを遂行するためのひとつの切り口として、比較論的な視点を持つことがあげられる。この視点は、医療環境の国際化、医療の国際協力など、国際的な視点を養い、他国の文化についての見識を高めることにも繋がるが、さらに、異領域相互の比較を行うことで、諸問題の本質的理解力が増すことにもなる。この授業ではそのような視点から、現代文化の比較にとどまらず、歴史的な文化背景（神話や伝説なども含めて）の比較や異領域比較をも講義の対象として、多くの実例を参照しながら、視野を広げ、自ら文化間の諸問題を探し出し、自己学習によってそれを考察し解決する力を身につけることを目標とする。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

VI-1

（教育方法）

講義のほか、比較文化の理解を深める目的でDVD、CD、文芸作品等を適宜使用する。
 既習事項の理解度を確認する小テストやレポートを課す。
 （グループワーク）

（学習方法）

授業前後に、自国文化と他国文化の類似点・相違点を考え、疑問点があれば各自で調べること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

レポート提出、出席、授業態度等により総合的に評価する：最終レポート採点后に成績通知

（教科書）

プリントを配布する。

（参考書）

青木保『多文化理解』岩波新書、2003年。
 久保田信之『ここが違う東西比較文化論』学分社、2006。
 三苦民雄『人びとのかたちー比較文化論』ふくろう出版、2011。

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	5/8	西谷	ユニット1 記録と文学の比較：伝染病と記憶	人類の歴史において文字テキスト情報は目的により内容が異なる。文字の役割と意義を考える。	文字テキスト情報を比較分析することで目的と意義を分析し自身の考えを述べる。	VI-1	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
2	5/15	西谷	ユニット2 オリエンタリズムとは何か	ダイバーシティとはなにか、それを実践するためにはどうすべきか実践の重要性を認識する。	自文化と多文化をどう比較するのか、多様性を評価する意義と向き合い方を考察する。	VI-1	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
3	5/15	西谷	ユニット3 麦の伝播と宮崎駿の創造性	麦の伝播を表現するためにチベットの民話を宮崎駿は『シュナの旅』になぜ翻訳したか。比較分析する。	テキストの形式は読者層を的確に見定めることにより決定づけられる。食物の大切さを啓蒙する意義を比較考察する。	VI-1	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
4	5/22	西谷	ユニット4 アレクサンドロスと中村哲先生の文明共存	古代のアレクサンドロスと中村哲先生の実践例から文明共存の実例を比較考察する。	困難な社会状況において相互理解と協力の実践がいかに可能か比較考察する	VI-1	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
5	5/22	西谷	ユニット5 東アジアの文化交流：金印・沖ノ島・鴻臚館	福岡は異文化交流をどのように可能にしたのか、地域に残る社会経済の足跡を比較分析する。	文化は社会経済や政治など様々な分野と競合し構造化する、その実践例を比較考察する。	VI-1	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
6	5/29	西谷	ユニット6 遣唐使と医療	中国唐王朝と日本は、仏教を通じた医食同源の思想を定着させた。その過程を比較分析する。	医療の実践を行うために仏教がいかに有効に機能したのか比較考察する。	VI-1	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
7	5/29	西谷	ユニット7 歴史小説と観光行動：シルクロードとモンゴル帝国のイメージ形成	文化のイメージが形式化され一般に定着する過程を、歴史小説や観光行動の実例から比較分析する。	歴史小説やゲームで醸成したイメージが観光行動に直結しうることか比較考察する。	VI-1	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
8	6/5	岡島	ユニット8 欧米文化と日本文化を比較する（1）	「文化を比較する」ということの意味について考える。	文化を比較することの意義を述べる	VI-1	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
9	6/5	岡島	ユニット9 欧米文化と日本文化を比較する（2）	言語に表れる文化の差異について理解する。（1）	外国文化と自国文化の背景にある相違点や類似点を考察し理解を深める	VI-1	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
10	6/12	岡島	ユニット10 欧米文化と日本文化を比較する（3）	言語に表れる文化の差異について理解する。（2）	外国文化と自国文化の背景にある相違点や類似点を考察し理解を深める	VI-1	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
11	6/12	岡島	ユニット11 欧米文化と日本文化を比較する（4）	言語に表れる文化の差異について理解する。（3）	外国文化と自国文化の背景にある相違点や類似点を考察し理解を深める	VI-1	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
12	6/19	岡島	ユニット12 欧米文化と日本文化を比較する（5）	欧米文化や日本文化の背景について理解する。	文化を比較することの意義を述べる	VI-1	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
13	6/19	岡島	ユニット13 欧米文化と日本文化を比較する（6）	英語圏文化の特色について理解する。	自国や他国の文化の特徴を比較する	VI-1	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
14	6/26	岡島	ユニット14 欧米文化と日本文化を比較する（7）	社会生活とマナーについて比較し相違を理解する。	自国や他国の文化の特徴を比較する	VI-1	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
15	6/26	岡島	ユニット15 欧米文化と日本文化を比較する（8）	欧米文化や日本文化の相違を振り返り今後の国際性の意義を理解する。	自国や他国の文化の特徴を比較する	VI-1	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0

福博の歴史と文化探訪 【講義】

科目番号 OD072012

前期：15コマ

評価責任者：藤田 亜美

藤田 亜美

志村 宗恭（裏千家茶道教室教授）、

高山 英朗（福岡市博物館学芸課）、

担当教員：本田 浩二郎（福岡市経済観光文化局文化財部鴻臚館跡整備係長）、

原田 昌行（原田織物社長）、

平山 道宜（紅葉八幡宮禰宜）、

鬼束 芽依（西南学院大学博物館学芸研究員）

（一般目標）

福岡・博多の歴史と文化、自然などをさまざまな角度から学び、地域について考えることを目的とした地域志向科目である。福博の地域の成り立ちに関わる歴史的背景や社会環境の特性を理解し、革新をもたらし、伝統を守ってきた先人の地域貢献への努力を学び、われわれが社会人としてどのような社会貢献をしていくかを考える姿勢を身につける。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

I-8, II-4, V-2

（教育方法）

受講定員は20名程度で、講義に加えて現地見学を行う。4回ある現地見学のうち、3回参加することを単位修得の必須条件とする。当該科目では将来の医療人としてふさわしい節度ある行動をすることを重視するため、講師への敬意をもった態度をとることはもちろん、無断欠席や遅刻をしないなど、一般常識に則った行動を求める。

（フィールドワーク）

（学習方法）

各回の予習の項目について、インターネットや刊行物、図書などで調べておく。特に、現地見学では対象施設に各自で直接集合するので、集合時間に遅れないようにアクセスについても事前に調べておくこと。また、現地見学の最中に様々な指示があるので、指示を聞き漏らさないように常に注意しておくこと。なお、毎回の講義および現地見学の後には、レポートを作成して提出することが必須である。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

出席点（30%）およびレポート（70%）の合計で評価する。

出席点には遅刻や受講態度などによる減点がある。また、毎回の授業と現地見学の後にはレポートの提出が必須であり、提出がなければ該当する出席点を減点する。なお、出席しなかった講義や現地見学に対するレポートは提出しても評価の対象としない。すべての授業と現地見学が終了した後、成績を発表する。

（教科書）

対面実施の際には特に指定しない。図書館やインターネット等を活用し、事前の調査や予習が必要。

代替授業の際には、あらかじめURLを通知する。

（参考書）

特に指定しない。

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/25	志村・藤田	ユニット1 福岡博多の歴史と文化に触れてみよう	福岡博多の歴史と文化探訪の概要を遺跡・記念館・博物館などの資料にもとづいて理解する。	福岡博多の歴史と文化、自然などをさまざまな角度から考える。	I-8	博多・福岡の歴史や文化のキーワードを5つ選ぶとしたら何か、書き出しておく。	1.25

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
2	5/10	[2回] 本田・藤田	ユニット2 福岡博多の歴史と文化を 探訪する：現地見学（1）	古代から現代にかけての福岡博多の文化や歴史について、現地見学で得た知識や体験にもとづいて理解する。	鴻臚館や福岡城の歴史について説明できる。	V-2	[2回] 鴻臚館跡遺跡展示館への交通（道順、利用交通機関、所要時間）を福岡市街地図、地理アプリなどを用いて調べる。	[2] 0.8
3	5/10	[3回] 本田・藤田			歴史・文化の研究法（材料と方法）について説明できる。	V-2	[3回] 遺跡から発見される遺物をもとにして人々の生活を復元するための研究方法について調べる。	[3] 0.5
4	5/10	[4回] 高山・藤田						[4] 0.8
5	5/10	[5回] 高山・藤田			現地見学先で節度ある行動をとり、真摯な学びの姿勢で臨む。	II-4	[5回] 福岡市博物館の展示品で最も注目を集めているのは何か調べてみる。	[5] 0.5
6	5/12	志村・藤田	ユニット3 福岡博多の歴史と茶の文化（1）	「茶」の文化を通じて福岡博多の歴史を理解する。	福岡博多における「茶」の歴史を学ぶ。	I-8	お茶の木や抹茶の製法はいつ頃どのようにして日本に伝えられたか調べる。	0.8
7	5/17	[7回] 藤田	ユニット4 福岡博多の歴史と文化を 探訪する：現地見学（2）	弥生時代の生活やアジアの玄関口としての文化について、現地見学で得た知識や体験にもとづいて理解する。	弥生時代の人々の環濠集落での生活について説明できる。	V-2	[7回] 板付遺跡弥生館への交通（道順、利用交通機関、所要時間）を福岡市街地図、地理アプリなどを用いて調べる。	[7] 0.5
8	5/17	[8回] 藤田			アジアの玄関口としての福岡博多の文化について説明できる。	V-2	[8回] 板付遺跡の環濠集落に住んでいた人々がどのような生活をしていたのかについて調べる。	[8] 0.8
9	5/17	[9回] 藤田						[9] 0.5
10	5/17	[10回] 藤田			現地見学先で節度ある行動をとり、真摯な学びの姿勢で臨む。	II-4	[10回] 福岡市とアジア各国との交流の歴史と現状について調べる。	[10] 1.25

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
11	5/31	[11回] 原田・藤田	ユニット5 福岡博多の歴史と文化を探索する：現地見学（3）	福岡博多の伝統工芸や福岡におけるキリスト教文化について、現地見学で得た知識や体験にもとづいて理解する。	福岡博多の伝統工芸の伝来と洗練の歴史について学習する。	V-2	[11回] 福岡商工会議所および「博多町家」ふるさと館への交通（道順、利用交通機関、所要時間）を福岡市街地図、地理アプリなどを用いて調べる。	11] 0.8
12	5/31	[12回] 原田・藤田			福岡博多におけるキリスト教史について学習する。	V-2	[12回] 博多織協同組合のホームページなどにアクセスし、博多織の特徴や人気のある製品について調べてみる。	12] 0.5
13	5/31	[13回] 鬼束・藤田					[13回] 西南学院大学博物館への交通（道順、利用交通機関、所要時間）を福岡市街地図、地理アプリなどを用いて調べる。	13] 0.8
14	5/31	[14回] 鬼束・藤田			現地見学先で節度ある行動をとり、真摯な学びの姿勢で臨む。	II-4	[14回] 西南学院大学の建学史や元寇防塁の築造史を調べる。	14] 0.5
15	6/7	[15回] 平山・藤田	ユニット6 福岡博多の歴史と文化を探索する：現地見学（4）	紅葉八幡宮の歴史や国際交流の観点からの福岡博多の歴史や文化について、現地見学で得た知識や体験にもとづいて理解する。	紅葉八幡宮の歴史と福岡博多の文化について学ぶ。	V-2	[15回] 紅葉八幡宮への交通（道順、利用交通機関、所要時間）を福岡市街地図、地理アプリなどを用いて調べる。	15] 0.8
16	6/7	[16回] 平山・藤田			国際的交流の点から見た福岡博多の歴史と文化について説明できる。	V-2	[16回] 紅葉八幡宮の歴史を調べる。	16] 0.8
17	6/7	[17回] 藤田					[17回] 福岡国際会議場への交通（道順、利用交通機関、所要時間）を福岡市街地図、地理アプリなどを用いて調べる。	17] 0.8
18	6/7	[18回] 藤田			現地見学先で節度ある行動をとり、真摯な学びの姿勢で臨む。	II-4	[18回] 福岡市の国際交流の歴史と現状について調べる。	18] 1.0
19	6/9	志村・藤田	ユニット7 福岡博多の歴史と茶の文化（2）	福岡博多における「茶」によるおもてなしの文化を理解する。	福岡博多における「茶」によるおもてなしの文化を説明できる。	I-8	茶道のおもてなしの哲学について調べる。	1.25

後 期

assertiveness training 【演習】

科目番号 OD021013

後期：15コマ

評価責任者：学生部長・永嶋哲也

担当教員：芦谷将徳

（一般目標）

自他尊重的な対人関係を構築するためのアサーティブネスの基礎を学び、医療人にとって、また個人の生活にとって有用なコミュニケーションのあり方とスキルを習得する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅱ-1, Ⅱ-2, Ⅱ-3, Ⅱ-4

（教育方法）

講義（プリントによる講義）

体験学習（小グループディスカッション、ロールプレイ）

（ディスカッション・ディベート）（グループワーク）（実習・演習）（その他AL）

（学習方法）

講義と演習を組み合わせた授業を展開する。講義・演習内容を、自身の日常生活において実践できるよう理解し、意見や質問などを授業の場で積極的に表現するよう意識して臨む。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：15.0時間】

（評価）

記述試験（50%）

授業への取り組みおよびミニレポート（50%）

評価判定後、評価結果を呈示する。

（教科書）

なし。適宜プリント資料を配布する。

（参考書）

平木典子（2007）『図解自分の気持ちをきちんと伝える技術』、PHP研究所

平木典子（2013）『図解相手の気持ちをきちんと聞く技術』、PHP研究所

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/3	芦谷	ユニット1・授業の受け方について 対人関係におけるコミュニケーションのあり方	授業の意義を理解し、活用できるよう留意点を把握する。自分の対人行動・感情を振り返り、自身のコミュニケーションについて知る。	3つのコミュニケーションパターンにおけるアサーティブネスの基本的な意味を知る。	Ⅱ-4	これまでに経験した自分の対人行動・感情について振り返り、整理する。	1.0
2	9/10	芦谷	ユニット2・アサーティブネスの概念	アサーティブネスの概念およびコミュニケーションのズレが生じることを理解する。	1) アサーティブネスの意味を理解する。 2) コミュニケーションのズレについて考える。	Ⅱ-4	アサーティブネスについて調べる。	1.0
3	9/17	芦谷	ユニット3・医療におけるアサーティブネスの必要性	医療におけるアサーティブネスの意義を知る。傾聴の基本について触れる。	1) ワークシートを用いて、日常生活と医療場面を比較し、その共通点と相違点を考える。 2) 架空事例を通して、傾聴の基礎を理解する。	Ⅱ-3	日頃、自分が病院に受診した時のコミュニケーションのやり取りを記録する。	1.0
4	9/24	芦谷	ユニット4・アサーティブな表現をするために	アサーティブな自己表現のための知識を習得する。	ワークシートを用いて、自己表現しないことのメリットとデメリットを考える。	Ⅱ-1	アサーティブネス・トレーニングの方法について調べる。	1.0
5	10/1	芦谷	ユニット5・自分自身のアサーティブな行動	自身のアサーション行動について知る。	1) ワークシートを用いて自分のアサーション行動について振り返る。 2) ロールプレイの方法を学び、実習する。 3) シェアリング	Ⅱ-3	シェアリングした内容を整理する。	1.0
6	10/8	芦谷	ユニット6・アサーションにおける権利	アサーションにおける権利について理解する。	1) アサーションにおける権利について考える、 2) ワークを通して自己概念について振り返る。 3) ロールプレイを実習する 4) シェアリング	Ⅱ-3	シェアリングした内容を整理する。	1.0
7	10/15	芦谷	ユニット7・「非合理的な思い込み」とアサーションの関係について知る	「非合理的な思い込み」とアサーションの関係について理解する。	1) これまでに行ったロールプレイについてワークシートで振り返りを行う。 2) ワークシートを元にシェアリングを行う。 3) 全体でシェアリングを行う。	Ⅱ-2	シェアリングした内容を整理する。	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
8	10/22	芦谷	ユニット8・2つの状況から考えるアサーティブネス	言語表現における2つのアサーション場面について理解する。	1) ワークシートを活用して、アサーションのためのセリフづくりをする。 2) ロールプレイによる実践的トレーニング 3) 全体シェアリング	Ⅱ-2	自分のグループおよび他のグループの発表内容を整理する。	1.0
9	10/29	芦谷	ユニット9・言語表現のコツについて考える	言語表現におけるコツについて考える。	1) ワークシートを用いて、言語表現におけるコツについて記入する。 2) 全体シェアリング	Ⅱ-3	自分のグループおよび他のグループの発表内容を整理する。	1.0
10	11/5	芦谷	ユニット10・非言語的なアサーティブネスについて	非言語的なアサーティブネスについて理解する。	1) ワークシートを用いて、非言語的なアサーティブな表現方法について考える。 2) 全体シェアリング	Ⅱ-3	自分のグループおよび他のグループの発表内容を整理する。	1.0
11	11/12	芦谷	ユニット11・アサーティブネスにおける「怒り」の取り扱い	アサーティブな自己表現における「怒り」の取り扱いについて理解する。	1) ワークシートで自身の「怒り」について振り返る。 2) ワークシートを元にグループでシェアリングを行う。 3) 全体でシェアリングを行う。	Ⅱ-3	自分のグループおよび他のグループの発表内容を整理する。	1.0
12	11/19	芦谷	ユニット12・ロールプレイ（実践レベル）	対人場面について、アサーティブな自己表現によって対応する練習を行い、アサーティブネスを深く理解し体得する。	1) 想定される対人葛藤場面（レベル1）についてのワークシートの作成 2) ロールプレイ 3) シェアリング	Ⅱ-2	シェアリングした内容を整理する。	1.0
13	11/26	芦谷	ユニット13・ロールプレイ（実践レベル）	対人場面について、アサーティブな自己表現によって対応する練習を行い、アサーティブネスを深く理解し体得する。	1) 想定される対人葛藤場面（レベル1）についてのワークシートの作成 2) ロールプレイ 3) シェアリング	Ⅱ-4	シェアリングした内容を整理する。	1.0
14	12/3	芦谷	ユニット14・ロールプレイ（実践レベル）	対人場面について、アサーティブな自己表現によって対応する練習を行い、アサーティブネスを深く理解し体得する。	1) 想定される対人葛藤場面（レベル1）についてのワークシートの作成 2) ロールプレイ 3) シェアリング	Ⅱ-3	シェアリングした内容を整理する。	1.0
15	12/10	芦谷	ユニット15・自分らしい自己表現 医療人としての構え	生活のいかなる場面においても自己尊重的であり、自己選択のもと、自由でのびのびとした生き方をベースにもつことの意義を理解する。	1) 授業のふり返り。 2) 個人としての生き方から、対人職における接遇と職業人としての質へと発展させてアサーティブネスを理解する。 3) シェアリングを通して、自分にとってのアサーティブネスを確認する。	Ⅱ-2	自分にとっての自他を尊重した自己表現と生き方についてまとめる。	1.0

Scientific English II 【講義】

科目番号 OD021012

後期：15コマ

評価責任者：岡島 勇太

担当教員：岡島 勇太、壬生 正博

（一般目標）

本講義の目標は、コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができるよう英語力を向上させることにある。英語は既に国際語として定着しており、医学、歯学を志す者にとって、最新の情報を得るためには英語の学習は必要不可欠である。本授業では、将来的にEBM（Evidence-Based Medicine）に繋がる英語力を向上させるために、科学、健康、医療等に関する最新のトピックを取り上げる。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

VI-4

（教育方法）

基本的あるいは応用的な生命科学英文を教材としての読解練習
既習事項の理解度を確認する中間試験など

（学習方法）

テキストの情報を辞書等を利用して十分に理解し、その上で練習問題を解くこと。また、興味のある内容はインターネット等で事前に調べておくこと。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

出席、授業態度、中間試験、定期試験等により総合評価する：試験後に成績通知

（教科書）

The Hospital Team (Nan'un-do)

英語の基本事項を復習しつつ、基礎的な科学英語や医療英語を論理的に理解し、医療人としての国際力涵養に有益である

（参考書）

Japanese-English dictionary、

English-Japanese dictionary

英語力の向上のため、各自に合った辞書を選定し使用すること（選定は学習者に一任）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/2	岡島、壬生	Unit 1 The Human Body	1) 生命科学英語等の基本的あるいは応用的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的あるいは応用的な語彙を身につける。(Unit1)	使用テキストの科学英語や医学英語の語彙や構造について辞書等を用いて精確に理解し、意味内容を解釈する。	VI-4	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
2	9/9	岡島、壬生	Unit 2 Nutrition and Fitness	1) 生命科学英語等の基本的あるいは応用的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的あるいは応用的な語彙を身につける。(Unit2)	使用テキストの各ユニットの練習問題等を各自で解答し、授業中に発表することで授業に積極的に参加する。	VI-4	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
3	9/16	岡島、壬生	Unit 3 Communicable Diseases	1) 生命科学英語等の基本的あるいは応用的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的あるいは応用的な語彙を身につける。(Unit3)	本ユニットに関連する事項をインターネット等で調べる。	VI-4	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
4	9/30	岡島、壬生	Unit 4 Hygiene and Public Health	1) 生命科学英語等の基本的あるいは応用的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的あるいは応用的な語彙を身につける。(Unit4)	新たに出てきた語彙を辞書等で調べ整理する。	VI-4	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
5	10/7	岡島、壬生	Unit 5 Reforming Japanese Healthcare	1) 生命科学英語等の基本的あるいは応用的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的あるいは応用的な語彙を身につける。(Unit5)	使用テキストの科学英語や医学英語の語彙や構造について辞書等を用いて精確に理解し、意味内容を解釈する。	VI-4	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
6	10/14	岡島、壬生	Unit 6 Needlestick Injuries in Medicine	1) 生命科学英語等の基本的あるいは応用的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的あるいは応用的な語彙を身につける。(Unit6)	使用テキストの各ユニットの練習問題等を各自で解答し、授業中に発表することで授業に積極的に参加する。	VI-4	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
7	10/21	岡島、壬生	Unit 7 Dr. Kitasato and the Development of Medicine in Japan	1) 生命科学英語等の基本的あるいは応用的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的あるいは応用的な語彙を身につける。(Unit7)	本ユニットに関連する事項をインターネット等で調べる。	VI-4	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
8	10/28	岡島、壬生	Unit 8 The Medical Laboratory Technologist	1) 生命科学英語等の基本的あるいは応用的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的あるいは応用的な語彙を身につける。(Unit8)	新たに出てきた語彙を辞書等で調べ整理する。	VI-4	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
9	11/4	岡島、壬生	Unit 9 Clinical Engineering	1) 生命科学英語等の基本的あるいは応用的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的あるいは応用的な語彙を身につける。(Unit9)	使用テキストの科学英語や医学英語の語彙や構造について辞書等を用いて精確に理解し、意味内容を解釈する。	VI-4	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
10	11/11	岡島、壬生	Unit 10 Radiological Technology	1) 生命科学英語等の基本的あるいは応用的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的あるいは応用的な語彙を身につける。(Unit10)	本ユニットに関連する事項をインターネット等で調べる。	VI-4	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
11	11/18	岡島、壬生	Unit 11 Physical Therapy	1) 生命科学英語等の基本的あるいは応用的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的あるいは応用的な語彙を身につける。(Unit11)	新たに出てきた語彙を辞書等で調べ整理する。	VI-4	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
12	11/25	岡島、壬生	Unit 12 Working in Occupational Therapy	1) 生命科学英語等の基本的あるいは応用的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的あるいは応用的な語彙を身につける。(Unit12)	本ユニットに関連する事項をインターネット等で調べる。	VI-4	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
13	12/2	岡島、壬生	Unit 13 Speech- Language Therapy as a Vocation	1) 生命科学英語等の基本的あるいは応用的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的あるいは応用的な語彙を身につける。(Unit13)	使用テキストの科学英語や医学英語の語彙や構造について辞書等を用いて精確に理解し、意味内容を解釈する。	VI-4	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
14	12/9	岡島、壬生	Unit 14 Orthoptics and Visual Science	1) 生命科学英語等の基本的あるいは応用的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的あるいは応用的な語彙を身につける。(Unit14)	新たに出てきた語彙を辞書等で調べ整理する。	VI-4	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
15	12/16	岡島、壬生	Unit 15 Why Is Team Medical Treatment Necessary?	1) 生命科学英語等の基本的あるいは応用的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的あるいは応用的な語彙を身につける。(Unit15)	使用テキストの科学英語や医学英語の語彙や構造について辞書等を用いて精確に理解し、意味内容を解釈する。	VI-4	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0

系統解剖学Ⅲ 【講義】

科目番号 0D021120

後期：15コマ

評価責任者：児玉 淳

担当教員：児玉 淳

（一般目標）

人体の構造と機能を理解する上で最も基礎となる解剖学を、神経学、内臓学から修得し、口腔医学を学ぶための基礎を認識する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）

Ⅲ-2

（教育方法）

講義はシラバスに沿った板書・配布資料等を中心とした口述で行う。

（学習方法）

教科書や配布されるプリントを中心として解剖学の基本を理解する。

講義に欠かさず出席（4/5以上）し、予習は教科書の該当箇所を精読およびまとめること。また復習は配布されたプリントおよびノートを再度読み直しまとめること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 30.0 時間】

（評 価）

定期試験により成績評価をおこなう。評定はポータルサイトに掲示する。

（教 科 書）

森 於菟 他著「分担解剖学 1・2・3 第11版」金原出版 1992；口腔医学を学ぶために必要な人体の構造をまとめている（1年から6年まで使用します）

口腔解剖学 第2版 医歯薬出版： 臨床歯科学を踏まえた解剖学の知識をまとめているため。

（参 考 書）

1：イラスト解剖学 松村譲児 中外医学社

2：人体解剖学 改訂42版 藤田恒太郎 南江堂

3：口腔の機能と解剖 田畑純、角田佳折 南山堂 2021

4：ネッター頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖学アトラス 原著第2版 医歯薬出版

5：人体解剖カラーアトラス（電子書籍付）原書第8版 佐藤達夫/秋田恵一 南江堂

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/2	児玉	1. 内臓学各論 3) 消化器系： 口腔-咽頭-食道	消化器系（口腔、咽頭、食道）の構造と機能を知る。	口腔、咽頭、食道を説明できる。	Ⅲ-2	分担解剖学3「内臓学」130-181ページ、口腔解剖学第15章「頭頸部の内臓」170-187ページ	2.0
2	9/2	児玉	1. 内臓学各論 3) 消化器系： 胃-小腸-大腸-肛門 1. 内臓学各論 4) 呼吸器系： 鼻腔-咽頭-喉頭-気管-気管支-肺	消化器系（胃、小腸、大腸、肛門）の構造と機能を知る。 呼吸器系（鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺）について知る。	胃、小腸、大腸、肛門を説明できる。 鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺について説明できる。	Ⅲ-2 Ⅲ-2	分担解剖学3「内臓学」182-235ページ、口腔解剖学第15章「頭頸部の内臓」170-187ページ、分担解剖学3「内臓学」237-281ページ、口腔解剖学第15章「頭頸部の内臓」188-196ページ	2.0 2.0
3	9/5	児玉	2. 神経学各論 1) 中枢神経系：脳	中枢神経系（脳）の構造と機能を知る。	脳の構造と機能を説明できる。	Ⅲ-2	分担解剖学2「神経学」209-354ページ、口腔解剖学第14章「頭頸部の神経系」145-154ページ	2.0
4	9/5	児玉	2. 神経学各論 2) 中枢神経系：脊髄	中枢神経系（脊髄）の構造と機能を知る。	脊髄の構造と機能を説明できる。	Ⅲ-2	分担解剖学2「神経学」185-209ページ、口腔解剖学第14章「頭頸部の神経系」145-154ページ	2.0
5	9/9	児玉	1. 内臓学各論 3) 消化器系： 口腔の構造と機能（捕食・吸啜・咀嚼）	口腔の構造と機能を知る。	口腔の構造と機能について説明できる。	Ⅲ-2	分担解剖学3「内臓学」130-169ページ、口腔解剖学第15章「頭頸部の内臓」170-187ページ	2.0
6	9/9	児玉	1. 内臓学各論 3) 消化器系： 舌の構造と機能、大・小唾液腺	舌と唾液腺の構造と機能を知る。	舌と唾液腺の構造と機能について説明できる。	Ⅲ-2	分担解剖学3「内臓学」130-169ページ、口腔解剖学第15章「頭頸部の内臓」170-187ページ	2.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
7	9/12	児玉	3. 神経学各論 3) 末梢神経系：脳神経1	脳神経の構造と機能（神経成分）を知る。	嗅神経、視神経、内耳神経の構造と機能（神経成分）について説明できる。	Ⅲ-2	分担解剖学2「神経学」390-423ページ、口腔解剖学第14章「頭頸部の神経系」145-169ページ	2.0
8	9/12	児玉	3. 神経学各論 3) 末梢神経系：脊髄神経と脊髄神経叢	脊髄神経の構造と機能（神経成分）を知る。	脊髄神経（頸神経、胸神経、腰神経、仙骨神経、尾骨神経）と脊髄神経叢の構造と機能（神経成分）について説明できる。	Ⅲ-2	分担解剖学2「神経学」424-473ページ、口腔解剖学第14章「頭頸部の神経系」145-169ページ	2.0
9	9/16	児玉	3. 神経学各論 3) 末梢神経系：脳神経2	脳神経の構造と機能（神経成分）を知る。	動眼神経、滑車神経、外転神経、副神経、舌下神経の構造と機能（神経成分）について説明できる。	Ⅲ-2	分担解剖学2「神経学」390-423ページ、口腔解剖学第14章「頭頸部の神経系」145-169ページ	2.0
10	9/16	児玉	3. 神経学各論 3) 末梢神経系：自律神経系：頭仙系、胸腰系	自律神経系の構造と機能を知る。	交感神経と副交感神経の構造と機能（神経成分）について説明できる。	Ⅲ-2	分担解剖学2「神経学」473-495ページ、口腔解剖学第14章「頭頸部の神経系」169-170ページ	2.0
11	9/19	児玉	3. 神経学各論 3) 末梢神経系：三叉神経	三叉神経の構造と機能（神経成分）を知る。	三叉神経の構造と機能（神経成分）について説明できる。	Ⅲ-2	分担解剖学2「神経学」397-408ページ、口腔解剖学第14章「頭頸部の神経系」160-165ページ	2.0
12	9/26	児玉	3. 神経学各論 3) 末梢神経系：顔面神経	顔面神経の構造と機能（神経成分）を知る。	顔面神経の構造と機能（神経成分）について説明できる。	Ⅲ-2	分担解剖学2「神経学」408-410ページ、口腔解剖学第14章「頭頸部の神経系」165-166ページ	2.0
13	9/30	児玉	3. 神経学各論 3) 末梢神経系：舌咽神経、迷走神経	舌咽・迷走神経の構造と機能（神経成分）を知る。	舌咽神経、迷走神経の構造と機能（神経成分）について説明できる。	Ⅲ-2	分担解剖学2「神経学」412-422ページ、口腔解剖学第14章「頭頸部の神経系」166-169ページ	2.0
14	10/7	児玉	3. 神経学各論 4) 頭・頸部の神経系の機能と構造1	頭・頸部の神経分布（感覚）について知る。	頭・頸部の感覚を支配する神経について説明できる。	Ⅲ-2	分担解剖学2「神経学」390-419ページ、口腔解剖学第14章「頭頸部の神経系」145-169ページ	2.0
15	10/7	児玉	3. 神経学各論 4) 頭・頸部の神経系の機能と構造2	頭・頸部の神経分布（運動）について知る。	頭・頸部の運動を支配する神経について説明できる。	Ⅲ-2	分担解剖学2「神経学」390-419ページ、口腔解剖学第14章「頭頸部の神経系」145-169ページ	2.0

系統解剖学実習 【実習】

科目番号 OD021116

後期：66コマ

評価責任者：児玉 淳

担当教員：児玉 淳、林 慶和、大谷 崇仁、二階堂 美咲、小倉 綾乃

（一般目標）

人体の三次元構造と機能を理解し、臨床歯学を学習するための解剖学の基本的知識を身につける。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）

Ⅲ-2

（教育方法）

御遺体による解剖実習をおこなう。

（グループワーク）（実習・演習）

（学習方法）

解剖マニュアルプリントを予習し理解した後、実習に臨むこと。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 48.0 時間】

（評 価）

実習中に随時行われる実習試験、筆記試験、および口頭試問により評価する。総合評価をポータルサイトに掲示する。出席日数(4/5以上)が基準をみたない学生は受験できない。また実習態度が不良の学生は出席を認めないことがある。

（教 科 書）

分担 解剖学 1、2、3 第11版 金原出版 系統解剖学をまとめてある。

口腔解剖学 第2版 医歯薬出版 臨床歯科学を踏まえた解剖学の知識をまとめてあるため。

（参 考 書）

解剖学カラーアトラス第9版 医学書院

イラスト解剖学 中外医学社

日本人体解剖学 上・下巻 南山堂

ネッター頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖学アトラス 原著第2版 医歯薬出版

グレイ解剖学 原著第3版（電子書籍付） エルゼビアジャパン

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	10/3	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第1回】体表解剖、皮切および皮剥ぎ	体表観察、皮膚の構造を理解し、皮切、皮剥ぎにこの知識を適用する。	人体の区分を説明し触知と同定出来る。	Ⅲ-2	[1回] 配布する解剖実習帳参照 (Section1-2)	1] 2. 2
2					皮膚の構造を説明し同定できる。	Ⅲ-2		
3					皮静脈、皮神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2		
4	10/10	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第2回】体幹、上・下肢の浅層1	体幹、上・下肢の浅層第1層の構造を説明できる。	体幹、上・下肢の浅層第1層目の筋・脈管・神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	[4回] 配布する解剖実習帳参照 (Section1-3)	4] 2. 2
5					体幹、上・下肢の筋膜を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2		
6								
7	10/14	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第3回】体幹、上・下肢の浅層2	体幹、上・下肢の浅層第2層の構造を説明できる。	体幹、上・下肢の浅層第2層目の筋・脈管・神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	[7回] 配布する解剖実習帳参照 (Section4)	7] 2. 2
8								
9								
10	10/17	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第4回】頭、頭の浅層1	頭、頭の浅層第1層の構造を説明できる。	頭と頭の皮下の構造を説明出来る。	Ⅲ-2	[10回] 配布する解剖実習帳参照 (Section4-5)	10] 2. 2
11					頭と頭の表情筋と皮静脈、皮神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2		
12								
13	10/21	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第5回】体幹、上・下肢の深層1	体幹、上・下肢の深層第1層の構造を説明できる。	体幹、上・下肢の深層第1層目の筋・脈管・神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	[13回] 配布する解剖実習帳参照 (Section5)	13] 2. 2
14								
15								
16	10/24	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第6回】体幹、上・下肢の深層2	体幹、上・下肢の深層第2層の構造を説明できる。	体幹、上・下肢の深層第2層目の筋・脈管・神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	[16回] 配布する解剖実習帳参照 (Section5-6)	16] 2. 2
17								
18								

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
19 20 21	10/28	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第7回】胸、腹の内臓1	胸部内臓を説明できる。	肺、心臓、心膜、胸膜、胸腺、縦隔を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	[19回] 配布する解剖実習帳参照 (Section6)	19] 2.2
22 23 24	10/31	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第8回】胸、腹の内臓2	腹部内臓を説明できる。	腹膜、間膜、腸間膜、消化器系内臓、泌尿器系内臓の構造を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	[22回] 配布する解剖実習帳参照 (Section6-7)	22] 2.2
25 26 27	11/4	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第9回】頭の深層1	頭筋膜と周囲構造を説明できる。	頭筋膜と構造を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	[25回] 配布する解剖実習帳参照 (Section6-8)	25] 2.2
28 29 30	11/7	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第10回】頭、体幹、上・下肢まとめ（実習試験1）	第1回 実習試験（第1～第10回の剖出項目を説明できる）	第1～10回までの剖出項目を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	[28回] 配布する解剖実習帳参照 (Section6-9)	28] 2.2
31 32 33	11/11	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第11回】頭、頭、体幹の深層	頭、頭、体幹の深層第1層を説明できる。	頭、頭、体幹の深層の筋・脈管・神経・内臓を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	[31回] 配布する解剖実習帳参照 (Section6-9)	31] 2.2
34 35 36	11/14	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第12回】頭の深層2	頭の深層を説明できる。	頭の深層の筋・脈管・神経・内臓を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	[34回] 配布する解剖実習帳参照 (Section6-9)	34] 2.2
37 38 39	11/18	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第13回】頭の深層1	頭の深層を説明できる。1	頭の深層の筋・脈管・神経・内臓を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	[37回] 配布する解剖実習帳参照 (Section6-10)	37] 2.2
40 41 42	11/21	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第14回】頭の深層2	頭の深層を説明できる。2	頭の深層の筋・脈管・神経・内臓を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	[40回] 配布する解剖実習帳参照 (Section6-11)	40] 2.2
43 44 45	11/25	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第15回】頭の深層3	頭の深層を説明できる。3	頭の深層の筋・脈管・神経・内臓を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	[43回] 配布する解剖実習帳参照 (Section6-11)	43] 2.2
46 47 48	11/28	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第16回】頭の深層4	頭の深層を説明できる。4	頭の深層の筋・脈管・神経・内臓を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	[46回] 配布する解剖実習帳参照 (Section7-12)	46] 2.2
49 50 51	12/2	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第17回】頭の深層5	頭の深層を説明できる。5	頭、頭の深層の筋・脈管・神経・内臓を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	[49回] 配布する解剖実習帳参照 (Section7-12)	49] 2.2

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
52 53 54	12/5	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第18回】 頭、頸の深層1	頭、頸の深層を説明できる。1	頭、頸の深層の筋・脈管・神経・内臓を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	[52回] 配布する解剖実習帳参照 (Section7-12)	52] 2.2
55 56 57	12/9	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第19回】 頭、頸の深層2	頭、頸の深層を説明できる。2	頭、頸の深層の筋・脈管・神経・内臓を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	[55回] 配布する解剖実習帳参照 (Section7-12)	55] 2.2
58 59 60	12/12	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第20回】 頭、頸の深層3	頭、頸の深層を説明できる。3	頭、頸の深層の筋・脈管・神経・内臓を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	[58回] 配布する解剖実習帳参照 (Section7-12)	58] 2.2
61 62 63	12/16	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第21回】 頭、頸の深層4	頭、頸の深層を説明できる。4	頭、頸の深層の筋・脈管・神経・内臓を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	[61回] 配布する解剖実習帳参照 (Section1-12)	61] 2.0
64 65 66	12/19	児玉・林・大谷・二階堂・小倉	【第22回】人体解剖学まとめ（実習試験2）	第2回 実習試験（第1～第22回の剖出項目を説明できる）	第1～22回までの剖出項目を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	[64回] 配布する解剖実習帳参照 (Section1-12)	64] 2.0

発生学・組織学演習Ⅱ 【演習】

科目番号 OD021121

後期：17コマ

評価責任者：稲井哲一朗

担当教員：稲井哲一朗、児玉 淳、大谷崇仁、林 慶和、二階堂美咲、小倉綾乃

（一般目標）

人体の発生過程を学び、人体の構造、機能、発生異常との関連を理解する。また、全身の器官・器官系について、器官特有の組織構造と機能発現との関連を理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー〔DP〕）

Ⅲ-2, Ⅲ-3, Ⅲ-7

（教育方法）

講義は、教科書を中心に、板書、プリント、写真、スライド、e-learningシステム（Moodle）、人体組織学カラスライド・データベース（神戸大学）などを用いて行い、適宜Moodleでの小テストをPC受験させ正答率が低い問題について解説を行う。実習はPC, iPadまたはスマートフォンを使用して行う。実習が始まるまでに「各自のIDとパスワード」を確認してe-learningにアクセスできるように設定し、「実習のPDFファイル」をダウンロードしておくこと。専用のスケッチブック、色鉛筆、白衣を用意すること。「実習のPDFファイル」に従って各自実習を進めること。光学顕微鏡で組織切片を観察して、器官特有の細胞・組織構築を理解してスケッチするとともに、実習課題について解答する。スケッチブックは、後期の実習終了後に実習室で提出すること。

（グループワーク）（実習・演習）

（学習方法）

実習については、スケッチ、レポート課題を含めて実習テーブルごとのグループで理解を深めるためにお互いに討論してもよい（グループ学習）。ただし、自分の席を離れたり、実習と関係のない私語は態度点から減点する。実習時間を有効に活用し、教員への質問やグループ討論を通して組織構築を理解すること。講義ノート、e-learning(Moodle)の資料や問題、教科書、参考書などを参考に、試験に活用できるレベルにスケッチを完成すること。実習に欠かさず出席し、予習と特に復習に力を入れて学習すること。*実習中にe-learningの画像問題に必ずアクセスして、問題を解くこと。実習問題はこの問題を改変して出題する。総合学力試験の範囲は全授業の行動目標とする。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 11.0 時間】

（評 価）

定期試験および実習評価（実習試験、実習態度、スケッチ）を合わせて100%で判定し、総合判定を掲示する。14回以上の出席が受験資格として必要である。

（教 科 書）

①安田峯生訳、「ラングマン 人体発生学 第11版」、メディカル・サイエンス・インターナショナル

②牛木辰男、「入門組織学 改訂第2版」、南江堂（3年生でも使用する）

③人体組織学カラスライド・データベース（神戸大学）

※参考サイト参照（<https://onl.bz/FS3e9EE>）

人体組織の豊富な画像が閲覧できるので、予習・復習に活用できる。

（参 考 書）

山田英智ほか、「機能を中心とした 図説組織学（第5版）」、医学書院

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	10/24	稲井	泌尿器系	泌尿器系の組織構造を知る。	腎臓の組織構造を説明する。	Ⅲ-2	教科書②「第12章 泌尿器系」（211～226ページ）	1.0
					尿路（尿管、膀胱、尿道）の組織構造を説明する。	Ⅲ-2		
2	10/24	稲井	内分泌系	内分泌系の発生について知る。	内分泌系（下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎）の発生を説明する。	Ⅲ-2	教科書①「第17章 頭・頸部」（287～314ページ）、 「第18章 中枢神経系」（315～350ページ）教科書②「第15章 内分泌系」（267～293ページ）	1.0
					内分泌器（下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎）の組織構造を説明する。	Ⅲ-2		
3	10/31	稲井	感覚器（視覚、嗅覚）	感覚器の組織構造を知る。（視覚、嗅覚）	視覚器の組織構造を説明する。	Ⅲ-2	教科書②「第17章 感覚器系」（319～350ページ）	0.5
					嗅覚器の組織構造を説明する。	Ⅲ-2		
4	10/31	稲井	感覚器（聴覚、平衡感覚）	感覚器の組織構造を知る。（聴覚、平衡感覚）	聴覚器の組織構造を説明する。	Ⅲ-2	教科書②「第17章 感覚器系」（319～350ページ）	0.5
					平衡感覚器の組織構造を説明する。	Ⅲ-2		
5	11/7	稲井	軟骨、骨	軟骨の組織構造を知る。骨の組織構造を知る。	軟骨の種類と組織構造を説明する。	Ⅲ-2	教科書②「第4章 支持組織」（45～67ページ）	1.0
					骨の組織構造を説明する。	Ⅲ-2		
					膜内骨化と軟骨内骨化を説明する。	Ⅲ-2		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
6	11/7	稲井	骨、神経系、筋系の発生	骨の発生について知る。筋の発生について知る。中枢・末梢神経系の発生について知る。	頭蓋骨、椎骨の発生を説明する。 筋の発生を説明する。 脳胞を説明する。 脊髄の発生を説明する。 神経膠細胞の発生を説明する。	Ⅲ-7 Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	教科書①「第10章 軸骨格」(151～163ページ)、「第11章 筋系」(165～170ページ)、「第18章 中枢神経系」(315～350ページ)	1.0
7	11/14	稲井	鰓弓、鰓溝、咽頭嚢	鰓弓、鰓溝、咽頭嚢に由来する組織・器官の発生を知る。	鰓弓の形成過程を理解している。 鰓弓・鰓溝とそれに由来する構造を説明する。 咽頭嚢とそれに由来する構造を説明する。	Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	教科書①「第17章 頭・頸部」(287～314ページ)	1.0
8	11/14	稲井	顔面、口腔、舌、鼻腔の発生	顔面、口腔、舌、鼻腔の発生を知る。奇形と破格について知る。	顔面の発生を説明する。 口蓋の発生を説明する。 舌の発生を説明する。 鼻腔の発生を説明する。 顔面・口腔の発生と奇形を説明する。	Ⅲ-7 Ⅲ-7 Ⅲ-7 Ⅲ-7 Ⅲ-7	教科書①「第17章 頭・頸部」(287～314ページ)、「第2章 生殖形成」(17～36ページ)、「第9章 先天異常と出生前診断」(133～147ページ)、「第17章 頭・頸部」(287～314ページ)	1.0
9	11/21	稲井 児玉 大谷 林 二 階堂 小倉	組織学各論実習（軟骨、骨）	軟骨の形態学的分類による組織構造の違いを知る。骨の組織構築を知る。	硝子軟骨、弾性軟骨、線維軟骨を描き説明する。 緻密骨（皮質骨）を描き説明する。	Ⅲ-2 Ⅲ-2	教科書②「第4章 支持組織」(45～67ページ)	9] 0.5 10] 0.5
11	11/28	稲井 児玉 大谷 林 二 階堂 小倉	組織学各論実習（骨、内分泌系）	骨の発生様式を知る。内分泌系の組織構築を知る。	膜内骨化、軟骨内骨化を描き説明する。 甲状腺、上皮小体、副腎、睪嚢を描き説明する。	Ⅲ-2 Ⅲ-2	教科書①「第10章 軸骨格」(151～163ページ) 教科書②「第15章 内分泌系」(267～293ページ)	11] 0.5 12] 0.5
13	12/5	稲井 児玉 大谷 林 二 階堂 小倉	組織学各論実習（泌尿器系、感覚器）	泌尿器系、感覚器の組織構築を知る。	腎臓、膀胱を描き説明する。 眼球を描き説明する。 蝸牛、コルチ器を描き説明する。	Ⅲ-2 Ⅲ-2 Ⅲ-2	教科書②「第12章 泌尿器系」(211～226ページ)、「第17章 感覚器系」(319～350ページ)	13] 0.5 14] 0.5
15	12/12	稲井 児玉 大谷 林 二 階堂 小倉	組織学各論実習（生殖器官）	男性および女性生殖器官の組織構築を知る。	精巣を描き説明する。 卵巣を描き説明する。	Ⅲ-2 Ⅲ-2	教科書②「第13章 男性生殖器官」(227～243ページ)、「第14章 女性生殖器官」(245～265ページ)	15] 0.5 16] 0.5
17	12/19	稲井 児玉 大谷 林 二 階堂 小倉	【実習試験②】1～6回の授業 【点検・清掃②】	学習の理解度の評価 器具点検、清掃、スケッチ、レポートの仕上げ	実習で学習した内容（スケッチ、レポート課題）について実習試験を行う。 顕微鏡、標本を点検する。 実習で学習したことを復習し、スケッチ、レポートを完成する。	Ⅲ-2 Ⅲ-2 Ⅲ-2		0.5

生理学Ⅲ 【講義】

科目番号 OD021122

後期：15コマ

評価責任者：藤田亜美

担当教員：藤田亜美、鍛冶屋 浩、進 正史

（一般目標）

人体は細胞から構成され、組織、器官、器官系、個体レベルで構造的・機能的に統合されており、生理学では細胞から個体レベルにおける正常な機能とそれらの統合メカニズムを解き明かそうとしている。生理学Ⅲでは、人体の各器官の機能に関する基本的な知識を身につけることを目的として、ホメオスタシス、脳、泌尿系、内分泌系などの基本的機能について学習し、理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-2

（教育方法）

講義ユニット毎に配付する資料及び教科書に沿って行動目標に掲げた内容をスライドや板書等により解説する。

（学習方法）

授業前に教科書に目を通しておく。授業後は配布資料、講義ノート、教科書をもとに講義の内容を要約し、重要事項を理解する。理解が不十分な項目は教科書や参考書で復習すると共にチューデントアシスタントや教員への質疑を通じて確実に修得する。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：16.0 時間】

（評価）

中間試験30%、定期試験70%とする。中間試験および定期試験の成績は試験終了後、概ね2週間以内に通知する。

（教科書）

岩田幸一、井上富雄、船橋 誠、加藤隆史 編 「基礎歯科生理学 第7版」 医歯薬出版 2020

（全身から口腔領域にわたって生理学の基本的事項が簡潔かつ解りやすく記載されている。口腔医学を学ぶ上で有用なテキストである。1学年で履修する生理学Ⅰ、2学年前期の生理学Ⅱ、さらに3学年で履修する口腔生理学も本書を教科書として使用するため、1学年から3学年で学んだ知識の統合に有用である。）

（参考書）

岡田泰伸 監訳 「ギャノン生理学 原書26版」 丸善出版 2022

（基礎から臨床生理学まで最新の知見も含め簡潔にまとめられている。口腔医学の知識を深める上で有用なテキストである。実習や演習の参考書としても活用できる。電子書籍版は、図版説明も詳しくなり、生体機能への理解をさらに深める工夫がなされている。）

多久和 典子 他 著 「なるほどなっとく！解剖生理学 改訂3版」 南山堂 2023

（人体の正常構造（解剖学）と機能（生理学）を関連付けて理解するための基本的事項が多彩なイラストによって簡潔に解りやすく記載されている。予習・復習に適したテキストである。）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/3	藤田	ユニット6 中枢神経系の構成と機能	中枢神経系の機能を説明できる。	脳幹の機能を説明できる。	Ⅲ-2	教科書のp135～p138	1.0
					間脳の構成と機能を説明できる。	Ⅲ-2		
2	9/10	藤田	ユニット6 中枢神経系の構成と機能	中枢神経系の機能を説明できる。	大脳辺縁系の機能を説明できる。	Ⅲ-2	教科書のp246～p251	1.0
					小脳と大脳基底核の働きを説明できる。	Ⅲ-2		
					大脳の機能局在を説明できる。	Ⅲ-2		
3	9/17	藤田	ユニット6 中枢神経系の構成と機能	中枢神経系の機能を説明できる。	脊髄の機能を説明できる。	Ⅲ-2	教科書のp252～p270	1.0
					睡眠について説明できる。	Ⅲ-2		
					記憶と学習について説明できる。	Ⅲ-2		
4	9/24	進	ユニット7 腎臓の機能	腎臓の構造と機能及び尿の生成機序について理解する。	排尿機序を説明する。	Ⅲ-2	教科書のp59～p63	1.0
					腎臓の構成単位と尿の生成機序を説明する。	Ⅲ-2		
5	9/26	進	ユニット7 腎臓の機能	腎臓の構造と機能及び尿の生成機序について理解する。	腎クリアランスの意味を説明する。	Ⅲ-2	教科書のp57～p59、p59～p70	1.0
					水分代謝における腎の役割と体液量の調節機序を説明する。	Ⅲ-2		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
6	10/8	進	ユニット7 腎臓の機能	腎臓の構造と機能及び尿の生成機序について理解する。	電解質代謝における腎の役割を述べ、体液の量、pH調節機序を説明する。	Ⅲ-2	教科書のp70～p75	1.0
					アシドーシスとアルカローシス及びそれらの原因を説明する。	Ⅲ-2		
7	10/15	藤田、鍛冶屋、進	中間試験	－	－	Ⅲ-2	1回～6回までの講義で配付した資料とノート及び教科書	2.0
8	10/22	進	ユニット8 内分泌	各種ホルモンの性質と作用及び分泌調節機序を理解する。	内分泌と外分泌の違いを説明する。	Ⅲ-2	教科書のp132～p138	1.0
					内分泌器官を列挙し、分泌されるホルモンを述べる。	Ⅲ-2		
					ホルモンを分類し、作用機序を説明する。	Ⅲ-2		
9	10/29	進	ユニット8 内分泌	各種ホルモンの性質と作用及び分泌調節機序を理解する。	ホルモン分泌の階層的支配とフィードバック調節を説明する。	Ⅲ-2	教科書のp132～p138	1.0
					視床下部ホルモンによる下垂体前葉ホルモンの分泌調節を説明する。	Ⅲ-2		
10	11/5	鍛冶屋	ユニット8 内分泌	各種ホルモンの性質と作用及び分泌調節機序を理解する。	下垂体前葉と後葉ホルモンの作用を説明する。	Ⅲ-2	教科書のp135～p140	1.0
					松果体、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、膵臓ホルモン、副腎皮質・髄質ホルモン及び消化管ホルモンの分泌調節と作用を概説する。	Ⅲ-2		
11	11/12	鍛冶屋	ユニット8 内分泌	各種ホルモンの性質と作用及び分泌調節機序を理解する。	性周期と女性ホルモンの分泌との関係を説明し、性ホルモンの作用を説明する。	Ⅲ-2	教科書のp151～p156	1.0
					男性ホルモンの分泌調節と作用を説明する。	Ⅲ-2		
12	11/19	鍛冶屋	ユニット8 内分泌	各種ホルモンの性質と作用及び分泌調節機序を理解する。	血糖値調節に関わるホルモンを挙げ、それらの作用を説明する。	Ⅲ-2	教科書のp141～p143	1.0
					電解質調節に関わるホルモンを挙げ、それらの作用を説明する。	Ⅲ-2		
13	11/26	鍛冶屋	ユニット9 ホメオスタシス	自律神経系と内分泌系によるホメオスタシスについて理解する。	血清カルシウム濃度調節に係わるホルモンを挙げ、それらの作用を説明する。	Ⅲ-2	教科書のp144～p146	1.0
					循環調節に関わるホルモンを挙げ、それらの作用を説明する。	Ⅲ-2		
14	12/3	鍛冶屋	ユニット9 ホメオスタシス	自律神経系と内分泌系によるホメオスタシスについて理解する。	ストレスとホルモン分泌について説明する。	Ⅲ-2	教科書のp147～p150	1.0
					ホルモンの分泌過剰と不足による病態を説明する。	Ⅲ-2		
15	12/10	鍛冶屋	ユニット10 体温の調節	産熱と放熱及び体温の調節機序を理解する。	体温調節中枢を挙げ、産熱と放熱の機序を述べる。	Ⅲ-2	教科書のp123～p131	1.0
					体温変動と変動要因を説明する。	Ⅲ-2		
					発熱と解熱の機序を説明する。	Ⅲ-2		

口腔薬理学 【講義】

科目番号 OD021117

後期：20コマ

評価責任者：八田光世

担当教員：八田光世、長岡良礼

（一般目標）

医科および歯科疾患の治療に繁用される薬物の薬理作用・副作用、薬物動態、薬物相互作用を理解し、歯科臨床における薬物使用の際の基盤となる知識を修得する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-2, Ⅲ-5, Ⅲ-17, Ⅲ-20

（教育方法）

教科書、配布資料を利用したパワーポイントによる講義を行う。

（実習・演習）

（学習方法）

【予習方法】授業前に教科書の該当箇所を読むこと。

【復習方法】授業後に教科書、配布資料、学習ノートを用いて講義内容を復習する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：16.0時間】

（評価）

【評価方法】

中間試験（25%）：ユニット1-6を範囲とする。

定期試験（75%）：ユニット1-6を範囲とする。

各ユニットでの小テストやレポート（他提出物）に対しての配点は上記の試験点数に含める。また、授業態度や出欠状況についても考慮に入れる。

【学生へのフィードバックの時期と方法】

各試験終了後に成績を通知する。

（教科書）

鈴木 邦明監修 「現代歯科薬理学」第7版 医歯薬出版 2024年

（薬理学に関する基本的事項及び歯科医療における標準的な薬物治療に必要な知識についてわかりやすく解説している。）

（参考書）

大浦 清ら編 「ポイントがよくわかるシンプル歯科薬理学 第3版」 永末書店 2023年

（理解しやすいように内容が簡潔にまとめられている。覚えるべき重要事項や薬物が示されており、理解度を図るための練習問題も設けられている。）

田中 千賀子ら編 「NEW薬理学 改訂第7版」南江堂 2017年

（作用メカニズム、分子薬理学などを中心に充実している。）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/2	長岡	ユニット1 麻酔に用いる薬物	全身麻酔薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	全身麻酔に用いる薬物について理解する。 麻酔前投薬に用いる薬物を説明できる。 吸入麻酔薬の種類、特性（MAC、血液/ガス分配係数）、副作用（悪性高熱症）を説明できる。	Ⅲ-20 Ⅲ-20 Ⅲ-20	教科書 p.142-146を読む。	0.5
2	9/3	長岡	ユニット1 麻酔に用いる薬物	全身麻酔薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	静脈麻酔薬の種類、作用点・作用機序、副作用を説明できる。 筋弛緩薬（神経筋接合部遮断薬）の分類（競合性・脱分極性）、作用機序、薬理作用、副作用などを説明する。 精神鎮静法（吸入鎮静法、静脈内鎮静法）を説明できる。	Ⅲ-20 Ⅲ-20 Ⅲ-20	教科書 p.145-147, 1301-133を読む。	0.5
3	9/9	長岡	ユニット1 麻酔に用いる薬物	全身麻酔薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	局所麻酔薬の分類（アミド型・エステル型）、作用機序、薬物動態を説明できる。 局所麻酔薬の副作用、歯科臨床における使用上の注意を説明できる。	Ⅲ-20 Ⅲ-20	教科書 p.134-141を読む。	0.5

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
4	9/10	八田	ユニット2 止血薬・抗血栓薬	止血薬と抗血栓薬の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	止血の機序と出血傾向について理解する。	Ⅲ-2	教科書 p. 203-209を読む。	0.5
					止血薬の分類、作用機序および使用上の注意を説明できる。	Ⅲ-20		
5	9/16	八田	ユニット2 止血薬・抗血栓薬	止血薬と抗血栓薬の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	血栓形成の機序と血栓性疾患について理解する。	Ⅲ-17	教科書 p. 209-214を読む。	0.5
					抗血小板薬、抗凝固薬、血栓溶解薬のそれぞれを作用機序で分類し、薬理作用・副作用を説明できる。	Ⅲ-20		
6	9/17	八田	ユニット3 循環器・腎臓に作用する薬物	循環器疾患の治療に用いられる薬物および利尿薬の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	腎臓の機能と体液量調節について理解する。	Ⅲ-2	教科書 p. 185-190, 175-179を読む。	0.5
					利尿薬について作用機序、薬理作用、副作用を説明できる。	Ⅲ-20		
					血圧を調節する機構とその病態を理解する。	Ⅲ-2		
					高血圧治療薬について分類、作用機序、薬理作用、副作用を説明できる。	Ⅲ-20		
7	9/24	八田	ユニット3 循環器・腎臓に作用する薬物	循環器疾患の治療に用いられる薬物および利尿薬の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	心臓の機能とその病態を理解する。	Ⅲ-17	教科書 p. 181-184, 179-181を読む。	0.5
					抗不整脈薬について作用機序、薬理作用、副作用を説明できる。	Ⅲ-20		
					狭心症治療薬について作用機序、薬理作用、副作用を説明できる。	Ⅲ-20		
					強心薬について分類、作用機序、薬理作用、副作用を説明できる。	Ⅲ-20		
8	9/30	八田	ユニット4 抗炎症薬・解熱鎮痛薬	抗炎症薬と解熱鎮痛薬の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	炎症とケミカルメディエーター（オータコイド）の関係を理解する。	Ⅲ-5	教科書 p. 91-96, 254-260を読む。	0.5
					ステロイド性抗炎症薬の種類、作用機序、薬理作用・副作用を説明できる。	Ⅲ-20		
					ステロイド性抗炎症薬の臨床応用、使用上の注意を説明できる。	Ⅲ-20		
9	10/1	八田	ユニット4 抗炎症薬・解熱鎮痛薬	抗炎症薬と解熱鎮痛薬の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	酸性非ステロイド性抗炎症薬の種類、作用機序、薬理作用・副作用を説明できる。	Ⅲ-20	教科書 p. 260-266を読む。	0.5
					酸性非ステロイド性抗炎症薬の臨床応用、使用上の注意を説明できる。	Ⅲ-20		
10	10/7	八田	ユニット4 抗炎症薬・解熱鎮痛薬	抗炎症薬と解熱鎮痛薬の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	塩基性非ステロイド性抗炎症薬、解熱鎮痛薬、和漢薬の作用機序、薬理作用、副作用および使用上の注意を説明できる。	Ⅲ-20	教科書 p. 266-273を読む。	0.5
					神経障害性疼痛の治療に用いる薬物を説明できる。	Ⅲ-20		
11	10/8	武石	ユニット5 呼吸器・消化器に作用する薬物	呼吸器・消化器疾患の治療に用いられる薬物の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	呼吸器の機能とその病態を理解する。	Ⅲ-17	教科書 p. 191-196を読む。	0.5
					呼吸興奮薬、鎮咳薬、去痰薬、気管支喘息治療薬について作用機序、薬理作用、副作用を説明できる。	Ⅲ-20		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
12	10/15	武石	ユニット5 呼吸器・消化器に作用する薬物	呼吸器・消化器疾患の治療に用いられる薬物の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	消化器の機能とその病態を理解する。 消化性潰瘍治療薬、消化管の機能を調節する薬物について作用機序、薬理作用、副作用を説明できる。	Ⅲ-17 Ⅲ-20	教科書 p.197-202を読む。	0.5
13	10/22	長岡	ユニット6 う蝕予防薬・歯内療法薬	歯科臨床で用いられる薬物の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	う蝕予防に用いられる薬物（フッ化物）を説明できる。 象牙質知覚過敏症の治療に用いられる薬物を説明できる。	Ⅲ-20 Ⅲ-20	教科書 p.348-350, 338を読む。	0.5
14	10/29	長岡	ユニット6 う蝕予防薬・歯内療法薬	歯科臨床で用いられる薬物の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	う窩消毒、歯髄鎮静・鎮痛療法に用いられる薬物を説明できる。 間接覆髄法、直接覆髄法に用いられる薬物を説明できる。	Ⅲ-20 Ⅲ-20	教科書 p.337-370, 340を読む。	0.5
15	11/5	長岡	ユニット6 う蝕予防薬・歯内療法薬	歯科臨床で用いられる薬物の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	抜髄法、根管治療に用いられる薬物を説明できる。	Ⅲ-20	教科書 p.340-342を読む。	0.5
16	11/12	八田	まとめ授業1	ユニット1の内容について知識・理解を深める。	ユニット1について演習課題を達成する。	Ⅲ-20	ユニット1を復習する。	1.5
17	11/19	八田	まとめ授業2	ユニット2,3の内容について知識・理解を深める。	ユニット2,3について演習課題を達成する。	Ⅲ-20	ユニット2,3を復習する。	2.0
18	11/26	八田	まとめ授業3	ユニット4の内容について知識・理解を深める。	ユニット4について演習課題を達成する。	Ⅲ-20	ユニット4を復習する。	1.5
19	12/3	八田、長岡	まとめ授業4	ユニット5,6の内容について知識・理解を深める。	ユニット5,6について演習課題を達成する。	Ⅲ-20	ユニット5,6を復習する。	2.0
20	12/10	八田、長岡	中間試験	—	中間試験にて学習目標の達成度を評価する。	Ⅲ-20	口腔薬理学（ユニット1-6）を復習する。	1.5

生化学Ⅱ 【講義】

科目番号 OD021123

後期：16コマ

評価責任者：梅津桂子

担当教員：梅津桂子、林 道夫、橋口一成

（一般目標）

生体を構成する代表的な成分の構造や機能とともに、その代謝の仕組みや調節について理解する。細胞や器官の生化学的成り立ちを理解し、その異常と疾患の関係について認識する。

各ユニットで扱う生体構成分子の構造については、第1学年「細胞化学」の講義内容についても参照すること。ユニット8については、第1学年後期「細胞生物学Ⅰ」の講義内容についても参照すること。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-1, Ⅲ-2

（教育方法）

教科書の内容にそって講義を行う。講義方法はユニットによって若干異なるが、プリント・スライド・板書を中心に用いて進める。講義には必ず教科書を持参すること。

（ディスカッション・ディベート）（実習・演習）

（学習方法）

講義の前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。講義後は、講義中に指定した教科書の項目や図を中心に、講義内容を復習すること。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：13.0時間】

（評価）

中間試験（試験範囲：ユニット8）および定期試験（試験範囲：ユニット9、10）を実施する。各試験の点数は試験範囲のコマ数に応じて比例配分し、総合して最終的な評点とする。講義の出欠状況についても考慮に入れる。総合評価をポータルサイトに掲示する。

（教科書）

ユニット8：中村桂子・松原謙一 監訳 『Essential 細胞生物学』原書第5版 南江堂

ユニット9、10：林典夫・廣野治子 監修 『シンプル生化学』改訂第7版 南江堂

（参考書）

入村達郎・岡山博人・清水孝雄 監訳 『ストライヤー生化学』第8版 東京化学同人

川崎敏祐 監修 『レーニンジャーの新生化学』第7版 廣川書店

荒川俊哉、池尾隆 他編 『スタンダード生化学・口腔生化学』第4版 学建書院

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/1	梅津	ユニット8・核酸と遺伝情報（1）	[DNAと染色体1] ヒトのDNAを中心にDNAの機能と染色体構造との関係や細胞周期との関連を理解する	分子生物学と医療を関連づける	Ⅲ-2	『Essential細胞生物学』5章「DNAと染色体」	0.8
					ヒト細胞に存在するDNAの種類とその形状を述べる	Ⅲ-1		
					DNAの凝縮の意義を説明し、細胞周期や染色体領域の機能と関連づける	Ⅲ-1		
2	9/8	梅津	ユニット8・核酸と遺伝情報（2）	[DNAと染色体2] ヒトの染色体構造と発生との関係や性染色体性遺伝病との関連を理解する	X染色体の不活化を説明し、赤緑色覚異常などの伴性形質との関係を述べる	Ⅲ-1	『Essential細胞生物学』5章「DNAと染色体」 / 『Essential細胞生物学』6章「DNAの複製、修復、組換え」p197 - 209	0.8
			ユニット8・核酸と遺伝情報（3）	[DNAの複製1] ヒト染色体DNAを正確に複製する仕組みを理解する	ヒト染色体複製について細菌と比較した上で特徴を挙げる	Ⅲ-1		
					末端複製問題を説明する	Ⅲ-2		
3	9/19	梅津	ユニット8・核酸と遺伝情報（4）	[DNAの複製2] テロメアの複製について理解し、細胞寿命や疾患と関連づける	テロメラーゼの活性と役割について説明する	Ⅲ-1	『Essential細胞生物学』6章「DNAの複製、修復、組換え」p209 - 211	0.8
					細胞の種類によるテロメラーゼ活性の違いとその意義を説明する	Ⅲ-2		
4	9/22	梅津	ユニット8・核酸と遺伝情報（5）	[DNAの修復・組換え1] DNA複製の誤りやDNA損傷の発生を理解するとともに、それらを修復する仕組みを認識する	DNA損傷や複製エラーを説明する	Ⅲ-1	『Essential細胞生物学』6章「DNAの複製、修復、組換え」p211 - 219	0.8
					抗がん剤や放射線をDNA損傷と関連づける	Ⅲ-2		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
5	9/29	梅津	ユニット8・核酸と遺伝情報（6）	[DNAの修復・組換え2] DNAの修復・組換えと疾患との関連を認識する	ヒト細胞における主なDNA修復の機構を列挙し、それぞれ対応する損傷の種類や修復の仕組みの特徴を述べる	Ⅲ-1	『Essential細胞生物学』6章「DNAの複製、修復、組換え」p212 - 220	0.9
					各種DNA修復の欠損による疾患を列挙する	Ⅲ-2		
					がんとDNA損傷や変異との関係を説明する	Ⅲ-2		
6	10/6	梅津	ユニット8・核酸と遺伝情報（7）	[細胞周期チェックポイント] 細胞周期を制御して遺伝情報を正確に保存・伝達する仕組みを理解する	DNA損傷と細胞周期チェックポイントとを関係づけて説明する	Ⅲ-1	『Essential細胞生物学』18章「細胞周期」p615 - 618, p629/ 20章「細胞のつくる社会」：がん	0.9
					細胞周期チェックポイントによるアポトーシスを説明する	Ⅲ-1		
					がんと細胞周期チェックポイント欠損との関係を説明する	Ⅲ-1		
					p53遺伝子について説明する	Ⅲ-1		
7	10/20	梅津	ユニット8・核酸と遺伝情報（8）	[遺伝子発現の調節1] 多細胞真核生物における遺伝子発現の調節の役割を理解する	転写調節因子の作用を概説する	Ⅲ-1	『Essential細胞生物学』8章「遺伝子発現の調節」	0.9
					細胞の種類や分化と転写の組合せ調節を関連づけて説明する	Ⅲ-1		
					間葉系細胞の分化を説明し、由来する組織や細胞を列挙する	Ⅲ-1		
8	10/27	梅津	ユニット8・核酸と遺伝情報（9）	[遺伝子発現の調節2] 転写調節因子の制御や選択的スプライシングの意義を理解する	転写調節因子に対するコントロールの意義を概説する	Ⅲ-1	『Essential細胞生物学』8章「遺伝子発現の調節」	0.9
					脂溶性ホルモンによる転写調節の具体例を挙げる	Ⅲ-1		
					p53による転写調節を具体的に説明する	Ⅲ-1		
					選択的スプライシングについて、ヒトの場合を中心に説明する	Ⅲ-1		
9	11/10	梅津 林 橋口	中間試験					
10	11/10	林	ユニット9・脂質代謝（1）	[脂質の基本構造とエネルギー代謝] 生体エネルギー獲得の全体像を理解し、その中に脂質代謝を位置付ける	脂質の種類と基本構造を述べる	Ⅲ-1	『シンプル生化学』3「脂質」p33-42	0.8
					脂質の役割を挙げ、生体におけるそれぞれの重要性を述べる	Ⅲ-2		
11	11/17	林	ユニット9・脂質代謝（2）	[脂質の消化、吸収、輸送] 脂質の消化と吸収機構、血中リポタンパク質の動態を理解し、血中リポタンパク質の臨床的意義を考察する	脂質の消化と吸収機構を説明する	Ⅲ-1	『シンプル生化学』11「脂質の代謝」p161-165 / 3「脂質」p42, 45-47 / 9「消化と吸収」p127-131	0.9
					血中リポタンパク質を分類し、その動態を述べる	Ⅲ-1		
					血中リポタンパク質の臨床的意義を述べる	Ⅲ-2		
12	12/1	林	ユニット9・脂質代謝（3）	[中性脂肪の代謝1] 中性脂肪の分解とそれに続くケトン体の生成について理解し、それらの臨床的意義を考察する	中性脂肪の分解およびその調節を説明する	Ⅲ-1	『シンプル生化学』11「脂質の代謝」p165-171, 175	0.9
					脂肪酸の分解とATP産生を説明する	Ⅲ-1		
					ケトン体生成の過程を述べる	Ⅲ-1		
					ケトン体生成の臨床的意義を述べる	Ⅲ-2		
13	12/8	林	ユニット9・脂質代謝（4）	[中性脂肪の代謝2] 中性脂肪の合成を理解し、その臨床的意義を考察する	脂肪酸の合成とその調節を説明する	Ⅲ-1	『シンプル生化学』11「脂質の代謝」p171-175, 177-181	0.9
					中性脂肪の代謝系の全体像を述べる	Ⅲ-1		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
14	12/11	林	ユニット10・脂溶性生理活性物質（1）	〔ステロイドホルモン〕ステロイドホルモンの種類、化学構造、機能を理解し、栄養学的意義を考察する	ステロイドホルモンの種類と構造を述べる ホルモンと受容体による細胞内情報伝達機構を類別する ペプチドホルモン、アミノホルモンとの違いを構造・作用の面から述べる ステロイドホルモン合成の原料となるコレステロールの代謝を述べる	Ⅲ-1 Ⅲ-2 Ⅲ-1 Ⅲ-1	『シンブル生化学』11「脂質の代謝」p181-182, 184-185 / 3「脂質」p41-44	0.9
15	12/15	林	ユニット10・脂溶性生理活性物質（2）	〔脂溶性ビタミン〕脂溶性ビタミンの種類、化学構造、機能を理解し、栄養学的意義を考察する	脂溶性ビタミンの栄養学的意義を述べる ビタミンAとその代謝産物の化学構造、作用を述べる ビタミンDの化学構造、活性化、作用を述べる ビタミンEおよびKの化学構造と作用を述べる	Ⅲ-2 Ⅲ-1 Ⅲ-1 Ⅲ-1	『シンブル生化学』7「ビタミン」p89-97	0.9
16	12/18	林	ユニット10・脂溶性生理活性物質（3）	〔エイコサノイド〕エイコサノイドの種類、化学構造、生合成を理解する	エイコサノイドを列挙する プロスタグランジンの種類と構造の関係を述べる アラキドン酸カスケードによるエイコサノイドの生合成を述べる	Ⅲ-1 Ⅲ-1 Ⅲ-1	『シンブル生化学』3「脂質」p36-37 / 11「脂質の代謝」p176-177	0.9

機能生物化学実習Ⅰ（化学・生化系）【実習】

科目番号 0D021110

後期：27コマ

評価責任者：梅津桂子

担当教員：梅津桂子、林 道夫、橋口一成、谷口 卓、真木智子

（一般目標）

生体の構成成分の性質や機能について実験を通じて実際に確認し、結果の考察や試問を通して理解を深める。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

I-2, III-1, III-2, III-6

（教育方法）

3つのグループに分け、グループ毎に順次ローテーションしながら、ユニット2-4の計3つの課題実習を行う。下記のシラバスにはA班の日程を例示しているが、それぞれのグループの日程の詳細については実習第1回時に配布する実習書を参照すること。
（ディスカッション・ディベート）（グループワーク）（プレゼンテーション）（実習・演習）

（学習方法）

実習に参加する前に、実習書の該当箇所を読んで実習内容ならびに実験操作について理解しておくこと。また、実習内容に関する課題については、下記に指定した参考書の該当項目等を参考に、各自で調査してまとめること。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：7.0時間】

（評価）

レポート内容、実習に対する準備の状況、実習の取り組み方を評価対象とする。レポートの内容が不十分と判定された場合は書き直して再提出しなければならない。実習には個人で行なう内容が含まれており、単位の認定には原則として全ての実習に参加することが求められる。

（教科書）

福岡医科大学機能生物化学講座 実習書『機能生物化学実習Ⅰ（化学・生化学系）』

（参考書）

早川太郎 他著『口腔生化学』第6版 医歯薬出版
林典夫・廣野治子 監修『シンブル生化学』改訂第7版 南江堂
中村桂子・松原謙一監訳『Essential 細胞生物学』原書第5版 南江堂
入村達郎・岡山博人・清水孝雄 監訳『ストライヤー生化学』第8版 東京化学同人
川崎敏祐 監修『レーニンジャーの新生化学』第7版 廣川書店
荒川俊哉、池尾隆 他編『スタンダード生化学・口腔生化学』第4版 学建書院

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1 2 3	9/4	梅津 林 橋口 谷口	ユニット1・実習の内容説明	ユニット2-4の各実習について、目的や操作原理を理解する	（具体的にはユニット2-4の項参照）	I-2	[1回] （具体的にはユニット2-4の項参照）	[1] 1.0
4 5 6 7	9/11	橋口	ユニット2・酵素の反応速度論的考察	酵素トリプシンを用いて酵素反応速度を測定し、反応速度論的取り扱いを体験する	基質にL-BAPAを用い、酵素トリプシンの酵素活性を測定し、比活性を算出する 一定量の酵素に対して基質濃度を種々変化させて酵素活性を測定し、反応速度論的考察を行う	III-1 III-1	[4回] 『実習書』1章 / 『シンブル生化学』6「酵素」	[4] 1.0
8 9 10 11	9/18	橋口	ユニット2・酵素の反応速度論的考察	酵素トリプシンを用いて酵素反応速度を測定し、反応速度論的取り扱いを体験する	Lineweaver-Burk plotを作成し、Km, Vmaxを求める	III-1	[8回] 『実習書』1章 / 『シンブル生化学』6「酵素」	[8] 1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
12	9/25	谷口	ユニット3・ 歯の無機質と コラーゲンの 分析（1）	歯のカルシウムおよびリン 含量を知り、歯のアパタイト 構造を考察する	歯の脱灰液中のカルシウム量とリン 量を比色法にて測定し、数値化 する	Ⅲ-2	[12回] 『実習書』2章 / 『シン ブル生化学』24「器官の生 化学」 / 『口腔生化学』 6章「骨と歯の無機成分と 石灰化機構」	12] 1.0
13					カルシウムおよびリン含量から、 歯のアパタイト構造を推論する	Ⅲ-6		
14								
15								
16	10/2	谷口	ユニット3・ 歯の無機質と コラーゲンの 分析（2）	コラーゲンのアミノ酸組成 を知り、その特徴を考察す る	ペーパークロマトグラフィーにて アミノ酸を分離、分析する	Ⅲ-2	[16回] 『実習書』2章 / 『シン ブル生化学』24「器官の生 化学」 / 『口腔生化学』 4章「結合組織と上皮組織 の生化学」	16] 1.0
17					コラーゲンのアミノ酸組成の特徴 を他のタンパク質と比較し、指摘 する	Ⅲ-6		
18								
19								
20	10/16	林	ユニット4・ 遺伝子診断	生体の核酸の構造と機能を 理解し、その分析方法を体 験する：各自のDNA標品を 用いてAlu配列を調べ、ヒ トの遺伝子多型について考 察する	PCRの原理を説明する	Ⅲ-1	[20回] 『実習書』3章 / 『Essential細胞生物学』 10章「現在の組換えDNA技 術」： p335 - 340 19章 「有性生殖と遺伝学の力」	20] 1.0
21					ヒトAlu配列を例に、PCRを利用し た遺伝型解析について具体的に述 べる	Ⅲ-1		
22								
23								
24	10/23	林	ユニット4・ 遺伝子診断	生体の核酸の構造と機能を 理解し、その分析方法を体 験する：各自のDNA標品を 用いてAlu配列を調べ、ヒ トの遺伝子多型について考 察する	遺伝子多型について説明し、臨床 的な応用や進化的な意味について 検討する	Ⅲ-1	[24回] 『実習書』3章 / 『Essential細胞生物学』 10章「現在の組換えDNA技 術」： p335 - 340 19章 「有性生殖と遺伝学の力」	24] 1.0
25								
26								
27								

口腔細菌学 【講義】

科目番号 0D021118

後期：26コマ

評価責任者：田中芳彦

担当教員：田中芳彦、永尾潤一、岸川咲吏、豊永憲司

（一般目標）

2年生前期に学習した細菌学【講義】（微生物学総論）の理解に立脚して微生物学各論を身につける。また、口腔常在菌の一般性状を理解し、二大口腔感染症であるう蝕および歯周疾患が口腔常在菌によって起こることを理解する。さらに口腔および全身における主な感染症について、その病原微生物の病原性を理解し、感染症の成立や予防に関する知識を身につける。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

I-7, III-4

（教育方法）

講義は、教科書を中心に、板書、プリント、スライド、動画、インターネットなどを用いて行う。

（学習方法）

講義の前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、講義の前後に下記教科書や参考書の該当箇所を読むこと。講義中には使用するパワーポイント、ビデオ、インターネットなどの内容を理解することに努める。プリントを配布することがあるので、その内容を講義中に理解し、講義の後に復習すること。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：38.0時間】

（評価）

【評価の割合】中間試験および定期試験 95%、授業態度（質疑応答、出席等を含む）5%。

【フィードバックの時期と方法】フィードバックの時期：試験終了後、概ね二週間。フィードバックの方法：中間試験：e-valueに掲示。定期試験：総合判定をポータルサイトに提示。

（教科書）

石原和幸ほか 編集 『口腔微生物学－感染と免疫－』 第8版 学建書院、2024。

（参考書）

川端重忠ほか 編集 『口腔微生物学・免疫学』第5版 医歯薬出版、2021。

選定理由：簡潔に編集されており、復習時などの学習に使いやすい。

吉田眞一ほか 編集 『戸田新細菌学』改訂34版 南山堂、2013。

選定理由：非常に詳しい権威ある専門書で、参考書として利用しやすい。

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/1	田中	ユニット1 微生物学各論	微生物学各論、免疫学、口腔微生物学、口腔感染症の位置付けを身につける。	口腔微生物学、口腔感染症の位置付けを解釈する。	Ⅲ-4	教科書【口腔微生物学－感染と免疫－第8版_学建書院】p12. p278-p280. p315. p360.	1.5
2	9/4	田中	ユニット2 口腔の感染防御機構	口腔の感染防御機構を理解する。	口腔感染症を述べる。 口腔の感染防御機構を説明する。	Ⅲ-4 Ⅲ-4	教科書p315. p360-p364.	1.5
3	9/4	岸川	ユニット3 口腔エコロジー	口腔の生態系を理解する。	口腔環境の特殊性を述べる。 口腔環境の生理的因子を説明する。	Ⅲ-4 Ⅲ-4	教科書p280-p284.	1.5
4	9/8	岸川	ユニット4 プラーク形成機序	プラーク形成細菌と口腔感染症との関連を理解する。	プラーク形成過程における細菌の種類の変化を説明する。 主なプラーク形成細菌を列挙する。 口腔感染症の原因菌となるプラーク中の細菌の特徴を説明する。	Ⅲ-4 Ⅲ-4 Ⅲ-4	教科書p285-p289.	1.5
5	9/11	[5回] 永尾	ユニット5 歯周病原細菌	主な歯周病原細菌の種類と病原性、ならびに歯周病の発症メカニズムと宿主応答の関係を理解する。	特徴的な歯肉炎を列挙する。	Ⅲ-4	[5回] 教科書p328-p346.	[5] 1.5
6	9/18	[6回] 永尾			慢性および侵襲性歯周炎メカニズムを説明する。	Ⅲ-4	[6回] 教科書p328-p346.	[6] 1.5
7	9/22	[7回] 永尾			主な歯周病原細菌を列挙し、その歯周病原細菌の病原性を説明する。	Ⅲ-4	[7回] 教科書p328-p346.	[7] 1.5
					歯周病における宿主応答のメカニズムを説明する。	Ⅲ-4		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
8	9/25	[8回] 岸川	ユニット6 う蝕病原細菌	主なう蝕病原細菌の種類と病原性、ならびにう蝕発症と環境因子の関係を理解する。	う蝕発症における環境因子を説明する。	Ⅲ-4	[8回] 教科書p317-p327.	8] 1.5
9	9/29	[9回] 岸川			主なう蝕病原細菌を列挙する。	Ⅲ-4	[9回] 教科書p317-p327.	9] 1.5
10	10/2	[10回] 岸川			う蝕病原細菌の病原性を説明する。	Ⅲ-4	[10回] 教科書p317-p327.	10] 1.5
11	10/16	[11回] 永尾	ユニット7 う蝕、歯周病以外の口腔感染症	う蝕・歯周病以外の主な口腔感染症を理解する。	歯髄炎と根尖性歯周炎の原因菌を列挙し、原因菌の病原性を説明する。	Ⅲ-4	[11回] 教科書p347-p355.	11] 1.5
12	10/23	[12回] 永尾			口腔領域に症状が現れる細菌および真菌感染症を説明する。	Ⅲ-4	[12回] 教科書p347-p355.	12] 1.5
13	10/30	田中	中間試験	1～12回までの講義内容を復習し、学習理解度を試験により評価する。	学習内容を整理して系統立てる。 中間試験により理解の達成度を評価する。	I-7 I-7	1回～12回までの講義内容	1.5
14	10/30	豊永	ユニット7 う蝕、歯周病以外の口腔感染症	う蝕・歯周病以外の主な口腔感染症を理解する。	口腔領域に症状が現れるウイルス感染症を説明する。	Ⅲ-4	教科書p352-p359.	1.5
			ユニット8 口腔感染症と全身疾患	口腔感染症と全身疾患の関係を理解する。	口腔常在菌と全身疾患の関係を説明する。	Ⅲ-4		
15	11/6	豊永	ユニット9 気道・肺での細菌および真菌感染症	気道・肺での細菌および真菌感染症を理解する。	気道・肺における細菌および真菌感染症の原因菌を列挙し、原因菌の病原性を説明する。	Ⅲ-4	教科書p104-p106. p110. p88. p138-p140. p122-p123.	1.5
16	11/6	豊永	ユニット10 胃・腸での細菌感染症	胃・腸での細菌感染症を理解する。	胃・腸における細菌感染症の原因菌を列挙し、原因菌の病原性を説明する。	Ⅲ-4	教科書p127-p128. p111-p121.	1.5
17	11/13	豊永	ユニット11 微生物による食中毒	微生物による食中毒を理解する。	細菌性およびウイルス性食中毒の原因病原体を列挙する。	Ⅲ-4	教科書p63-p64.	1.5
					毒素型食中毒の特徴を説明する。	Ⅲ-4		
					感染型食中毒の特徴を説明する。	Ⅲ-4		
18	11/13	永尾	ユニット12 皮膚における細菌感染症	皮膚での細菌感染症を理解する。	皮膚における感染症の原因菌を列挙し、原因菌の病原性を説明する。	Ⅲ-4	教科書p82-p88. p94-p99.	1.5
			ユニット13 有芽胞細菌による感染症	有芽胞細菌による感染症を理解する。	有芽胞細菌による感染症の原因菌を列挙し、原因菌の病原性を説明する。	Ⅲ-4		
19	11/17	永尾	ユニット14 性器・泌尿器における細菌感染症	性器・泌尿器での細菌感染症を理解する。	性感染症の原因菌を列挙し、原因菌の病原性を説明する。	Ⅲ-4	教科書p91-p92. p131-p137. p144-146. p122. p141-p143. p118-119.	1.5
			ユニット15 節足動物媒介の細菌感染症	節足動物媒介の細菌感染症を理解する。	節足動物媒介感染症の原因菌を列挙し、原因菌の病原性を説明する。	Ⅲ-4		
20	11/20	田中	ユニット16 DNAウイルス感染症	DNAウイルス感染症を理解する。	ヘルペスウイルスの種類を列挙する。	Ⅲ-4	教科書p163-p168.	1.5
					ヘルペスウイルスの特徴と病原性を説明する。	Ⅲ-4		
					ヘルペスウイルス感染症の治療を説明する。	Ⅲ-4		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
21	11/20	田中	ユニット16 DNAウイルス感染症	DNAウイルス感染症を理解する。	アデノウイルスの特徴と病原性を説明する。	Ⅲ-4	教科書p168-p169. p173-178.	1.5
					ヒトパピローマウイルスの特徴と病原性を説明する。	Ⅲ-4		
			ユニット17 RNAウイルス感染症	RNAウイルス感染症を理解する。	パラミクソウイルスの特徴と病原性を説明する。	Ⅲ-4		
					ピコルナウイルスの特徴と病原性を説明する。	Ⅲ-4		
					コロナウイルスの特徴と病原性を説明する。	Ⅲ-4		
22	11/27	田中	ユニット17 RNAウイルス感染症	RNAウイルス感染症を理解する。	インフルエンザウイルスの特徴と病原性を説明する。	Ⅲ-4	教科書p170-p173.	1.5
					インフルエンザの治療と予防を説明する。	Ⅲ-4		
23	11/27	[23回] 田中	ユニット18 レトロウイルス感染症	レトロウイルスによる感染症を理解する。	レトロウイルスの種類を列挙する。	Ⅲ-4	[23回] 教科書p185-p191.	[23] 1.5
24	12/1	[24回] 田中			ヒトTリンパ球向性ウイルス1と成人T細胞白血病の特徴を説明する。	Ⅲ-4	[24回] 教科書p185-p191.	[24] 1.5
					ヒト免疫不全ウイルスとエイズの特徴を説明する。	Ⅲ-4		
					エイズの治療と予防を説明する。	Ⅲ-4		
25	12/4	[25回] 田中	ユニット19 肝炎ウイルスと肝炎	肝炎ウイルスとウイルス性肝炎を理解する。	肝炎ウイルスの種類を列挙する。	Ⅲ-4	[25回] 教科書p179-p185.	[25] 1.5
26	12/4	[26回] 田中			肝炎ウイルスの特徴と病原性を説明する。	Ⅲ-4	[26回] 教科書p179-p185.	[26] 1.5
					ウイルス性肝炎の治療と予防を説明する。	Ⅲ-4		

基礎免疫学 【講義】

科目番号 OD021119

後期：15コマ

評価責任者：田中芳彦

担当教員：田中芳彦、米田雅裕、岸川咲吏、豊永憲司

（一般目標）

免疫系を理解し、生体防御機構としての免疫反応、感染免疫、アレルギー、主な免疫不全・自己免疫疾患を理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）

I-7, III-4

（教育方法）

教科書を中心に、プリント、板書、パワーポイント、ビデオ、動画、インターネットなどを使用して講義を進める。講義には教科書を持参すること。

（学習方法）

講義の前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、講義の前後に下記教科書や参考書の該当箇所を読むこと。講義中には使用するパワーポイント、ビデオ、インターネットなどの内容を理解することに努める。プリントを配布することがあるので、その内容を講義中に理解し、講義の後に復習すること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：15.0時間】

（評価）

【評価の割合】中間試験および定期試験 95%、授業態度（質疑応答、出席等を含む）5%。

【フィードバックの時期と方法】フィードバックの時期：試験終了後、概ね二週間。フィードバックの方法：中間試験：e-valueに掲示。定期試験：総合判定をポータルサイトに提示。

（教科書）

石原和幸ほか 編集 『口腔微生物学－感染と免疫－』第8版 学建書院、2024.

（参考書）

川端重忠ほか 編集 『口腔微生物学・免疫学』 第5版 医歯薬出版、2021.

笹月健彦 監訳 『Janeway's 免疫生物学』 原書第9版 南江堂、2019.

（カラーの分かりやすいイラストで解説しており、上級者向けの免疫学を確実に理解できる）

河本 宏 著 『もっとよくわかる！免疫学』 羊土社、2011.

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/1	田中	ユニット1 免疫学の概要	免疫系の構成要素と生体防御における役割を理解する。	病原体の侵入からの防御を述べる。 自然免疫と獲得免疫の原理を類別する。 免疫担当細胞の種類を列挙し、機能を説明する。	III-4 III-4 III-4	教科書【口腔微生物学－感染と免疫－第8版_学建書院】p70-p74. p210-p218.	1.0
2	9/8	[2回] 豊永	ユニット2 自然免疫	感染に対する生体防御における自然免疫を理解する。	自然免疫を解釈する。	III-4	[2回] 教科書p70-p74. p210-p226.	2] 1.0
3	9/22	[3回] 豊永			自然免疫の体液性因子を説明する。 補体を説明し、活性化経路を比較・分類する。 自然免疫の細胞性因子を説明する。 Toll様レセプターを説明する。 NK細胞の働きを説明する。	III-4 III-4 III-4 III-4 III-4	[3回] 教科書p70-p74. p210-p226.	3] 1.0
4	9/29	田中	ユニット3 自然免疫から獲得免疫へ	自然免疫から獲得免疫への免疫応答の移行を理解する。	獲得免疫を解釈する。 抗原提示細胞の活性化を説明する。 T細胞の活性化を述べる。	III-4 III-4 III-4	教科書p70-p74. p227-p231. p246-251.	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
5	10/6	田中	ユニット4 T細胞の分化と抗原認識	自己と非自己の識別機構と免疫寛容を理解する。	T細胞レセプターの多様性を説明する。	Ⅲ-4	教科書p70-p74. p227-p231. p245-p249.	1.0
					胸腺内でのT細胞成熟を述べる。	Ⅲ-4		
					抗原の処理と提示を説明する。	Ⅲ-4		
					主要組織適合遺伝子複合体を述べる。	Ⅲ-4		
6	10/20	田中	ユニット5 T細胞を介する免疫系（細胞性免疫）	細胞性免疫を理解する。	プロフェッショナル抗原提示細胞を列記し、T細胞を活性化する機序を述べる。	Ⅲ-4	教科書p230-p231. p249-p251. p252-p255.	1.0
					Th1細胞を説明する。	Ⅲ-4		
					細胞傷害性T細胞を説明する。	Ⅲ-4		
7	10/27	田中	中間試験	1～6回までの講義内容を復習し、学習理解度を試験により評価する。	学習内容を整理して系統立てる。	I-7	1回から6回までの講義内容	1.0
					中間試験により理解の達成度を評価する。	I-7		
8	10/27	田中	ユニット6 抗体の構造と多様性	抗体の構造と多様性を理解する。	抗体の基本構造を述べる。	Ⅲ-4	教科書p70-p74. p232-p238. p241-244.	1.0
					抗体のクラスを列記し、性状を説明する。	Ⅲ-4		
					抗体の多様性を説明する。	Ⅲ-4		
9	11/10	田中	ユニット7 B細胞と抗体による免疫応答（体液性免疫）	体液性免疫を理解する。	B細胞の分化・成熟を解釈する。	Ⅲ-4	教科書p238-p240.	1.0
					B細胞による抗体産生とクラススイッチを説明する。	Ⅲ-4		
					Th2細胞を説明する。	Ⅲ-4		
					T細胞依存症と非依存症の抗体産生を述べる。	Ⅲ-4		
10	11/17	田中	ユニット9 移植免疫	移植免疫を理解する。	臓器移植の条件を説明する。	Ⅲ-4	教科書p255-p257. p227-p231.	1.0
					主要組織適合抗原を説明する。	Ⅲ-4		
					拒絶反応を説明する。	Ⅲ-4		
					GVHDを説明する。	Ⅲ-4		
			ユニット10 腫瘍免疫	腫瘍免疫を理解する。	免疫監視機構を説明する。	Ⅲ-4		
					腫瘍の免疫療法の種類を列挙し、機序を説明する。	Ⅲ-4		
11 12	12/1 12/8	[11回] 岸川 [12回] 岸川	ユニット11 粘膜免疫	粘膜免疫を理解する。	粘膜免疫を説明する。	Ⅲ-4	[11回] 教科書p258-p261. p271-p273. [12回] 教科書p258-p261. p271-p273.	[11] 1.0 [12] 1.0
			ユニット12 生体防御機構の破綻（自己免疫疾患、免疫不全症）	自己免疫疾患および免疫不全を理解する。	自己免疫疾患の発症を説明する。	Ⅲ-4		
					代表的な口腔自己免疫疾患を説明する。	Ⅲ-4		
13 14	12/11 12/11	[13回] 米田 [14回] 米田	ユニット8 免疫系における過剰反応（アレルギー）	アレルギーを理解する。	アレルギー分類を説明する。	Ⅲ-4	[13回] 教科書p265-p271. p274-p275. [14回] 教科書p265-p271. p274-p275.	[13] 1.0 [14] 1.0
					アレルギーに関わる細胞と化学物質を説明する。	Ⅲ-4		
					I～IV型アレルギーおよび関連疾患を説明する。	Ⅲ-4		
					歯科疾患とアレルギーとの関連を説明する。	Ⅲ-4		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
15	12/15	田中	ユニット12 生体防御機構の破綻（自己免疫疾患、免疫不全症）	自己免疫疾患および免疫不全を理解する。	免疫不全による疾患を説明する。	Ⅲ-4	教科書p262-p265. p276-p278.	1.0
			ユニット13 ワクチン	ワクチン接種による感染症の予防を理解する。	ワクチンの意義を説明する。	Ⅲ-4		
					ワクチンの種類を列挙し、特徴を述べる。	Ⅲ-4		
					ワクチンの問題点を説明する。	Ⅲ-4		

病理学 【講義】

科目番号 OD021106

後期：30コマ

評価責任者：病態構造学分野教授

担当教員：吉本尚平、和田裕子、嶋 香織（鹿児島大学）

（一般目標）

全身的疾患および口腔疾患に共通する基本的病態、すなわち疾病の原因、発生機序、経過、転帰および病変の病理組織学的特徴などを理論的に理解し、臨床歯科医学における診断、治療、予防との関わりを知る。

（獲得できるディプロマ・ポリシー〔DP〕）

Ⅲ-5

（教育方法）

口授、スライド、板書による講義。

資料（Moodleや配布）を予習、聴講、復習に併用する。

（学習方法）

授業前後に、指定教科書、配布サブノート、e-learning等による予習、復習、中間試験の復習を行なう。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：30.0時間】

（評価）

中間試験20%、定期試験80%

「学生へのフィードバックの時期と方法」

中間試験については、試験後、模範解答を掲示するとともに、成績を概ね2週間後に通知する。

定期試験の成績は試験終了後、概ね1週間後に通知する。

（教科書）

草間薫 編集『要説 病理学総論』第1版 医学情報社 2020

（歯学部で必要なレベルの病理学総論をまとめている。CBTのコアカリの項目と章の編成がきれいに対応している）

（参考書）

1. 坂本穆彦、北川昌伸、仁木利郎 編集『標準病理学』第6版 医学書院 2019

（教科書より深いレベルの知識を精細に解説している）

2. 下野正基、高田隆、田沼順一、豊澤悟 編集『新口腔病理学』第3版 医歯薬出版 2021

（口腔病理学について最新の内容で、情報量も最も充実した教科書である。隣接する3年生の講義へのつながりをもたせる）

3. 高木寛 監修 高田隆・豊澤悟 編『口腔病理アトラス』第3版 文光堂 2018

（口腔領域の主要疾患の病理組織像が網羅されている。3年生の実習での学習内容とのつながりをもたせる）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/5	吉本	病理学序論、病因論	歯科医学における口腔病理学および口腔病理学の位置づけ、意義および病気の原因を理解する。	1) 口腔病理学の歯科医学における位置づけや病理診断の重要性について述べ、病理検査の基本事項を説明する。	Ⅲ-5	教科書 p8～p17	1.0
					2) 病因と疾患の関連を説明する。	Ⅲ-5		
					3) 病因を分類し、全身および口腔病変の原因を述べる。	Ⅲ-5		
2	9/5	吉本	病理学序論、病因論	歯科医学における口腔病理学および口腔病理学の位置づけ、意義および病気の原因を理解する。	4) 内因（遺伝子・染色体異常、発生異常を含む）を説明する。	Ⅲ-5	教科書 p8～p17	1.0
3	9/12	吉本	病理学序論、病因論	歯科医学における口腔病理学および口腔病理学の位置づけ、意義および病気の原因を理解する。	5) 外因を説明する。	Ⅲ-5	教科書 p8～p17	1.0
4	9/12	吉本	細胞、組織の障害	細胞、組織障害の病因と形態学的変化を理解する。	1) 代謝障害（退行性病変）を分類する。	Ⅲ-5	教科書 p30～p47	1.5
					2) 萎縮および変性の定義を説明し、分類する。	Ⅲ-5		
5	9/19	吉本	細胞、組織の障害	細胞、組織障害の病因と形態学的変化を理解する。	3) 壊死および壊疽の定義を述べ分類し、形態学的変化を説明する。	Ⅲ-5	教科書 p22～p29	1.5
					4) アポトーシスの特徴を説明する。	Ⅲ-5		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
6	9/19	吉本	組織の再生・細胞成長の異常（1）	1) 組織の再生、萎縮、肥大、化生および細胞の増殖・分化の異常を理解する。	1) 肥大・過形成、化生、再生の定義・分類を述べ、病態を説明する。	Ⅲ-5	教科書 p48～p52	1.0
7	9/26	吉本	組織の再生・細胞成長の異常（2）	2) 創傷の治癒について理解する。	2) 肉芽組織の特徴を説明する。	Ⅲ-5	教科書 p53～p57	1.0
8	9/26	吉本	組織の再生・細胞成長の異常（2）	2) 創傷の治癒について理解する。	3) さまざまな創傷治癒過程を説明する。 4) 異物処理、器質化を説明する。	Ⅲ-5 Ⅲ-5	教科書 p53～p57	1.0
9	10/3	和田	循環障害	循環障害の概念および分類を知り、循環障害の定義、原因および病態を理解する。	1) 循環系の機能と構造ならびに虚血と貧血について説明する。	Ⅲ-5	教科書 p58～p61	1.0
10	10/3	和田	循環障害	循環障害の概念および分類を知り、循環障害の定義、原因および病態を理解する。	2) 充血、うっ血ならびに出血について説明する。	Ⅲ-5	教科書 p62～p65	1.0
11	10/10	和田	循環障害	循環障害の概念および分類を知り、循環障害の定義、原因および病態を理解する。	3) 止血機構と血栓症ならびに塞栓症について説明する。	Ⅲ-5	教科書 p66～p69	1.0
12	10/10	和田	循環障害	循環障害の概念および分類を知り、循環障害の定義、原因および病態を理解する。	4) 梗塞について虚血や血栓・梗塞と関連付けながら説明する。	Ⅲ-5	教科書 p70～p71	1.0
13	10/17	嶋	循環障害	循環障害の概念および分類を知り、循環障害の定義、原因および病態を理解する。	5) 側副循環、高血圧症およびショックについて説明する。	Ⅲ-5	教科書 p71～p74	1.0
14	10/17	嶋	循環障害	循環障害の概念および分類を知り、循環障害の定義、原因および病態を理解する。	6) 水腫について説明する。 7) 腔水症・脱水症について説明する。	Ⅲ-5 Ⅲ-5	教科書 p74～p75	1.0
15	10/20	吉本、和田	中間試験					
16	10/20	吉本、和田	中間試験					
17	10/27	吉本	炎症	炎症の概念および分類を知り、炎症の定義、病因、および病態を理解する。	1) 炎症の概念および臨床的な徴候について説明する。	Ⅲ-5	教科書 p76～p84	1.0
18	10/27	吉本	炎症	炎症の概念および分類を知り、炎症の定義、病因、および病態を理解する。	2) 炎症に関与する細胞、ケミカルメディエーターを挙げ、その働きを述べる。	Ⅲ-5	教科書 p76～p84	1.0
19	11/10	吉本	炎症	炎症の概念および分類を知り、炎症の定義、病因、および病態を理解する。	3) 急性炎症と慢性炎症について説明する。	Ⅲ-5	教科書 p85～p96	1.5
20	11/10	吉本	炎症	炎症の概念および分類を知り、炎症の定義、病因、および病態を理解する。	4) 各種炎症の形態像（炎症の分類）および炎症の全身への影響（感染症、敗血症、SIRS）について説明する。	Ⅲ-5	教科書 p85～p96	1.0
21	11/17	和田	免疫の病理	免疫異常のメカニズムと疾患の発症との関連を理解する。	1) 免疫異常の概念およびアレルギーを説明する。	Ⅲ-5	教科書 p101～p105	1.0
22	11/17	和田	免疫の病理	免疫異常のメカニズムと疾患の発症との関連を理解する。	2) 自己免疫疾患、免疫不全症、臓器移植に関連した免疫反応を説明する。	Ⅲ-5	教科書 p101～p105	1.0
23	12/1	和田	腫瘍	腫瘍の概念および分類を知り、病態を理解する。	1) 腫瘍の定義ならびに形態学（とくに異型性と分化度）について説明する。	Ⅲ-5	教科書 p108～p118	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
24	12/1	和田	腫瘍	腫瘍の概念および分類を知り、病態を理解する。	2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について説明する。	Ⅲ-5	教科書 p108～p118	1.0
25	12/8	和田	腫瘍	腫瘍の概念および分類を知り、病態を理解する。	3) 良性腫瘍と悪性腫瘍について説明する。	Ⅲ-5	教科書 p119～p126	1.5
26	12/8	和田	腫瘍	腫瘍の概念および分類を知り、病態を理解する。	4) 腫瘍の増殖・進展、再発や転移について説明する。	Ⅲ-5	教科書 p119～p126	1.0
27	12/15	嶋	腫瘍	腫瘍の概念および分類を知り、病態を理解する。	5) 細胞異型と構造異型、腫瘍の組織学的分化度及び用語(前癌病変、上皮内癌、早期癌等)、腫瘍の人体への影響、臨床的な病期分類について説明する。	Ⅲ-5	教科書 p127～p147	1.0
28	12/15	嶋	腫瘍	腫瘍の概念および分類を知り、病態を理解する。	6) 腫瘍の原因(とくに発癌理論)、腫瘍の分類について説明する。	Ⅲ-5	教科書 p127～p147	1.0
29	12/18	和田	病理学総論 総括	病理学総論全体の振り返り	—	Ⅲ-5	教科書全体	1.0
30	12/18	和田	病理学総論 総括	病理学総論全体の振り返り	—	Ⅲ-5	教科書全体	1.0

歯科理工学Ⅲ 【講義】

科目番号 OD021124

後期： 15コマ
評価責任者： 都留寛治
都留寛治
丸田道人
担当教員： 梶本 昇
佐藤 平
服部雅之（東京歯科大学）
今里 聡（大阪大学）

（一般目標）
歯科治療で使用される材料や器械の正しい選択と取扱いができるために、歯科材料の基本性質（物理的性質、化学的性質、生物学的性質）とその使用法に基づいて分類し、その組成、硬化反応、基本的な性質を理解し必要な特性を発現させるための基盤的知識を身につける。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）
Ⅲ-21

（教育方法）
指定教科書の解説を中心に、補助学習のプリントの配布とe-Learningを行う。
【資源】
講義には教科書「スタンダード歯科理工学」を持参すること。
（実習・演習）

（学習方法）
【予習方法】
授業前にスタンダード歯科理工学の該当箇所を通読し、理解できない語句を調べてノートにまとめておくこと。
【復習方法】
授業実施時に配布するプリントを用いて、スタンダード歯科理工学の該当箇所を復習する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）
【評価の割合】
定期試験による評価（100%）
【フィードバックの時期と方法】
フィードバックの時期：試験終了後
フィードバックの方法：試験結果に基づき、追加学習すべき項目を掲示する。
*試験に関する案内は、8F 歯科医療工学講座生体工学分野の掲示板を用いて行うので試験前には必ず確認すること。
*授業を欠席した場合は配布プリントを各自で受け取りに来ること。

（教科書）
中嶋 裕 他 監修『スタンダード歯科理工学第8版』：学建書院：2024

（参考書）
歯科理工学会編：歯科理工学教育用語集 第3版、医歯薬出版、2018。
（歯科理工学の専門用語を解説したもので、歯科理工学を学ぶ時の辞書として有用である。）
宮崎隆他編：臨床歯科理工学、医歯薬出版、2006。
（歯科における疾患別に利用される歯科材料が豊富なカラー写真や図とともに解説されており、臨床治療と歯科材料とも関わりが理解しやすい。）
日比野靖著：「歯科理工学サイドリーダー第6版、学建書院2008。
（歯科材料の特徴および物性を簡潔にまとめているので歯科材料全体の把握に便利である。後半部には演習形式の設問や歯科医師国家試験の過去問の解説があり知識の整理に役立つ。）
小倉英夫他編：コア歯科理工学、医歯薬出版、2008。
（臨床実習に必要な歯科理工学関連の知識について初学者を対象として多くの図表を用い平易に解説している。）
中村正明他編：目で見える歯科理工学、医歯薬出版、1992
（イラストを豊富に使用し、歯科臨床的視点からの記述が多いため、歯科臨床との関係を理解する一助となる。）
細井紀雄他編「コンプリートデンチャーテクニク第6版」、医歯薬出版、2011。
（本学の有床義歯補綴学の講義で使用されている。）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/2	[1回] 梶本	義歯用材料	義歯用材料を分類し、それぞれの用途、成分・組成、特性、操作方法を理解することにより必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	義歯用材料の所要性質を説明できる。	Ⅲ-21	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくこと。	1] 1.0
2	9/9	[2回] 梶本			義歯用材料の分類を列挙できる。	Ⅲ-21		2] 1.0
3	9/16				義歯用材料の成分・組成を列挙できる。	Ⅲ-21		3] 1.0
					義歯用材料の成形法を説明できる。	Ⅲ-21		
					義歯床用材料の特性を説明できる。	Ⅲ-21		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
4	9/30	[4回] 丸田	予防歯科材料	予防歯科で使用される材料を分類し、それぞれの組成・特性、操作方法を理解することにより必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	予防歯科の分類を列挙できる。	Ⅲ-21	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	4] 1.0
5	10/7	[5回] 丸田			歯質強化剤の種類、特性、操作方法を説明できる。	Ⅲ-21		5] 1.0
					予防填塞材の種類、特性、操作方法を説明できる。	Ⅲ-21		
6	10/14	梶本	矯正用材料	矯正治療で使用される材料を分類し、それぞれの用途、成分・組成、特性、操作方法を理解することにより必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	矯正用材料の分類と種類を列挙できる。	Ⅲ-21	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	1.0
					矯正用材料の所要性質を説明できる。	Ⅲ-21		
					矯正用金属ワイヤーの種類と特性を説明できる。	Ⅲ-21		
7	10/21	[7回] 服部	歯科用器械	歯科治療に使用する器具の種類と特徴を理解する。	診療用器械について説明できる。	Ⅲ-21	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	7] 1.0
8	10/28	[8回] 佐藤			レーザーの種類と特性を説明できる。	Ⅲ-21		8] 1.0
					画像診断装置の種類と用途を列挙できる。	Ⅲ-21		
					齲蝕、歯周疾患、歯内疾患の診断・治療機器の種類と用途を列挙できる。	Ⅲ-21		
					光照射装置の種類と波長を列挙できる。	Ⅲ-21		
					CAD/CAMシステムを説明できる。	Ⅲ-21		
9	11/4	[9回] 丸田	切削・研削・研磨材	歯牙切削ならびに修復物の研磨に使用される材料の種類と特徴を理解する。	切削・研磨に使用される器具の構造を説明できる。	Ⅲ-21	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	9] 1.0
10	11/11	[10回] 丸田			刃先（砥粒）に必要な性質を説明できる。	Ⅲ-21		10] 1.0
					切削、研削、研磨を説明できる。	Ⅲ-21		
					歯牙切削の特殊性について説明できる。	Ⅲ-21		
					切削工具の組成や研磨材の種類・用途を列挙できる。	Ⅲ-21		
11	11/18	都留	インプラント用材料	インプラント療法で使用される材料を分類し、それぞれの用途、成分・組成、特性、操作方法を理解することにより必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	インプラント用材料の所要性質を説明できる。	Ⅲ-21	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	1.0
					歯科用インプラントの構造を説明できる。	Ⅲ-21		
					インプラント材料の生体反応による分類ができる。	Ⅲ-21		
					オッセオインテグレーションとチタンインプラントの表面処理を説明できる。	Ⅲ-21		
12	11/25	都留	インプラント用材料	インプラント療法で使用される材料を分類し、それぞれの用途、成分・組成、特性、操作方法を理解することにより必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	骨移植（ボーングラフト）を説明できる。	Ⅲ-21	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	1.0
					自家骨、同種骨、他家骨、人工骨の違いを説明できる。	Ⅲ-21		
					人工骨補填材の生体反応による分類ができる。	Ⅲ-21		
13	12/2	都留	インプラント用材料	インプラント療法で使用される材料を分類し、それぞれの用途、成分・組成、特性、操作方法を理解することにより必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	組織誘導再生法（GTR）と骨誘導再生法（GBR）が説明できる。	Ⅲ-21	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	1.0
					細胞遮断膜の分類ができる。	Ⅲ-21		
					細胞遮断膜の所要性質を説明できる。	Ⅲ-21		
					縫合糸の構造、吸収性の有無、材料の由来に基づく分類ができる。	Ⅲ-21		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
14	12/9	今里	コンポジットレジン の応用と展開	コンポジットレジンに抗菌性を発現させるための材料設計と応用展開を修得する。	抗菌性コンポジットレジン を説明できる。	Ⅲ-21	スタンダード歯科理工学 の該当するページ（ユニ ット名に準じる）を事前 に読むこと。	1.0
15	12/16	都留	インプラント 適用人工骨の設計	インプラント治療に適用可能な人工骨補填材を理 解する。	インプラント治療に適用可能な人工骨補填材の組成と性質を説明できる。	Ⅲ-21	スタンダード歯科理工学 の該当するページ（ユニ ット名に準じる）を事前 に読むこと。	1.0

口腔保健学Ⅰ 【講義】

科目番号 OD021201

後期：20コマ

評価責任者：谷口奈央

担当教員：谷口奈央、島津 篤、藤本暁江、内藤麻利江、矢田部尚子

（一般目標）

疾病の自然史の概念を理解するとともに、健康増進や疾病予防の科学的根拠となる疫学、スクリーニング手法、および歯科指標についての知識を習得する。また、口腔が全身の一部であることを意識し、個人、臨床、社会の各側面から、口腔の健康増進や口腔疾患予防の重要性を理解する。さらに、健康と病気の関係を深く理解し、公衆衛生が果たす役割についての知識を深める。個人および集団に対して予防および健康増進の技術を適用し、全身の健康やQOLの向上を通じて、医療従事者の一員として口腔医学を実践するための基本的な知識を身につける。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-22、Ⅲ-23、Ⅳ-6、Ⅵ-2、Ⅵ-6

（教育方法）

教科書と配布資料を利用したパワーポイントに講義を中心に行う。

（学習方法）

授業前後に下記予習の項目にある教科書や参考書の該当箇所を読むこと 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：20.0 時間】 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：20.0 時間】

（評価）

各授業毎に受講態度および必要に応じたレポート評価のフィードバック（10%）ならびに定期試験（90%）による評価を行う。

（教科書）

1. 安井利一、山下喜久、廣瀬公治、小松崎明、山本龍生、弘中祥司編、「口腔保健・予防歯科学 第2版」、医歯薬出版、2023
2. 安井利一、尾崎哲則、埴岡 隆、森田 学、山下喜久、岸 光男、嶋崎義浩編、「新編衛生学・公衆衛生学」、医歯薬出版、2021

（参考書）

1. 日本口腔衛生学会編、「フッ化物応用の科学 第2版」、口腔保健協会 2018
（フッ化物の応用に必要な知識を解説している）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/1	藤本暁江	ユニット1 疫学	疫学の意義・方法、歯科検査、スクリーニング検査を理解する。	疫学の意義を説明できる。	Ⅲ-23	疫学の意義	1.0
2	9/8	藤本暁江	ユニット1 疫学	疫学の意義・方法、歯科検査、スクリーニング検査を理解する。	疫学研究の方法を説明できる。	Ⅲ-23	疫学研究の方法	1.0
3	9/12	矢田部尚子	ユニット1 疫学	疫学の意義・方法、歯科検査、スクリーニング検査を理解する。	疫学研究に必要な統計の基礎を説明できる。	Ⅲ-23	疫学に必要な統計	1.0
4	9/22	矢田部尚子	ユニット1 疫学	疫学の意義・方法、歯科検査、スクリーニング検査を理解する。	疫学研究に必要な検定法を説明できる。	Ⅲ-23	疫学に必要な検定	1.0
5	9/26	藤本暁江	ユニット1 疫学	疫学の意義・方法、歯科検査、スクリーニング検査を理解する。	疫学のリスク指標を説明できる。	Ⅲ-23	疫学のリスク指標	1.0
6	9/29	藤本暁江	ユニット2 疫学指標	疫学歯科指標を理解する。	口腔診査法を説明できる。 う蝕の指数を説明できる。	Ⅲ-23 Ⅲ-23	う蝕の指数	1.0
7	10/6	藤本暁江	ユニット2 疫学指標	疫学歯科指標を理解する。	歯周疾患の指数を説明できる。 口腔清掃の指数を説明できる。 その他の歯科疾患の指数を説明できる。	Ⅲ-23 Ⅲ-23 Ⅲ-23	歯周疾患、口腔清掃、その他の歯科疾患の指数	1.0
8	10/6	谷口奈央	ユニット3 保健活動	ライフステージ別保健活動を理解する。	健康および疾病予防の概念を説明できる。 地域保健活動、歯科保健活動を説明できる。	Ⅲ-22 Ⅲ-22	健康および疾病予防の概念、地域保健活動、歯科保健活動	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
9	10/30	島津 篤	ユニット1 疫学	疫学の意義・方法、歯科検査、スクリーニング検査を理解する。	スクリーニング検査の意義、役割を説明できる。	Ⅲ-23	スクリーニング検査の意義、役割	1.0
10	10/30	藤本暁江	ユニット2 疫学指標	疫学歯科指標を理解する。	臨床疫学とEBMならびに臨床研究倫理を説明できる。	Ⅲ-23	臨床疫学とEBMならびに臨床研究倫理	1.0
11	11/6	島津 篤	ユニット1 疫学	疫学の意義・方法、歯科検査、スクリーニング検査を理解する。	スクリーニング検査の誤差、指標を説明できる。	Ⅲ-23	スクリーニング検査の誤差、指標	1.0
12	11/13	谷口奈央	ユニット3 保健活動	ライフステージ別保健活動を理解する。	母子保健活動を説明できる。	Ⅲ-22	母子保健活動	1.0
13	11/13	谷口奈央	ユニット3 保健活動	ライフステージ別保健活動を理解する。	母子歯科保健活動を説明できる。	Ⅲ-22	母子歯科保健活動	1.0
14	11/20	谷口奈央	ユニット3 保健活動	ライフステージ別保健活動を理解する。	学校保健活動を説明できる。	Ⅲ-22	学校保健活動	1.0
15	11/20	谷口奈央	ユニット3 保健活動	ライフステージ別保健活動を理解する。	学校歯科保健活動を説明できる。	Ⅲ-22	学校歯科保健活動	1.0
16	12/4	谷口奈央	ユニット4 日本と世界の 歯科口腔保健 の現状	日本と世界の歯科口腔保健の現状と課題を理解する。	喫煙の口腔への影響と禁煙支援・指導を説明できる。	Ⅳ-6	禁煙指導・支援	1.0
17	12/11	島津 篤	ユニット4 日本と世界の 歯科口腔保健 の現状	日本と世界の歯科口腔保健の現状と課題を理解する。	地域歯科口腔保健活動を支える法律・制度を概説できる。	Ⅲ-22	地域予防歯科活動を支える法律・制度、統計	1.0
18	12/17	谷口奈央	ユニット3 保健活動	ライフステージ別保健活動を理解する。	成人保健活動、成人歯科保健活動を説明できる。	Ⅲ-22	成人保健活動、成人保健活動	1.0
19	12/17	谷口奈央	ユニット3 保健活動	ライフステージ別保健活動を理解する。	産業保健活動、産業歯科保健活動を説明できる。	Ⅳ-6	産業保健活動、産業歯科保健活動	1.0
20	12/17	島津 篤	ユニット4 日本と世界の 歯科口腔保健 の現状	日本と世界の歯科口腔保健の現状と課題を理解する。	国際歯科保健活動を説明できる。	Ⅵ-6	国際保健、国際歯科保健活動	1.0
					他国の文化と医療システムを説明できる。	Ⅵ-2		

生命倫理学 【講義】

科目番号 OD021302

後期：16コマ

評価責任者：永嶋哲也

担当教員：永嶋哲也

（一般目標）

教養ある歯科医師となるために、生命倫理学において問われているさまざまな倫理問題を学ぶことによって、医療者としての責任を自覚し、現代の医療が抱える倫理的問題について洞察を深める。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

I-2, I-3, I-4, I-5, I-6, II-1, II-2

（教育方法）

板書中心の講義形式。

毎回、授業内をまとめた復習プリントをMoodleにて配布する。期間は1週間で、その間に必ず復習しておくことを必須とする。

（学習方法）

授業を集中して聴く。

教科書は指定しないので、予習は指定のキーワードについて内容をネット等で調べ参照しておく。

総合評価をポータルサイトに掲示する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：13.0時間】

（評価）

定期試験（80%）

平常評価（20%）授業出席状況、受講態度および復習プリントの取り組み状況による。

総合評価をポータルサイトに掲示する。

（教科書）

使用せず。講義の中で、適宜プリントが詳細資料として配布される。

（参考書）

香川知晶『生命倫理の成立—人体実験・臓器移植・治療停止』勁草書房、2000（米国における生命倫理の形成史を扱うことで生命倫理とは何かについて説明されている）

ピーター・シンガー『実践の倫理』山内友三郎、塚崎智・訳、昭和堂、1999

ピーター・シンガー『生と死の倫理 伝説的倫理の崩壊』桎梏章・訳、昭和堂、1998（パーソン論に立つ倫理学者による基本的テスト）

そのほか講義の中で適宜紹介される。

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/3	永嶋哲也	1-1 医療倫理学と生命倫理学	生命倫理学について理解する	医療倫理学と生命倫理学との関係を理解する	I-2	キーワード「生命倫理学」	0.5
2	9/10	永嶋哲也	1-1 医療倫理学と生命倫理学	生命倫理学について理解する	医療倫理学と生命倫理学との関係を理解する	I-2	キーワード「生命科学の時代、Bioethicsの誕生」	0.5
3	9/17	永嶋哲也	2-1 誕生前後の生命倫理 ヒト生殖と避妊	ヒト生殖に関わる医療倫理問題について理解する	避妊と人口妊娠中絶に関わる倫理問題を理解する	II-2	キーワード「避妊、堕胎」	0.8
4	9/24	永嶋哲也	2-2 誕生前後の生命倫理 人工妊娠中絶	人工妊娠中絶に関わる医療倫理問題について理解する	人口妊娠中絶と母体保護に関わる倫理問題を説明できる	I-4	キーワード「人工妊娠中絶、Pro-life」	1.2
5	10/1	永嶋哲也	2-2 誕生前後の生命倫理 人工妊娠中絶	人工妊娠中絶に関わる医療倫理問題について理解する	出生前診断と選択的中絶に関わる倫理問題を説明できる	II-2	キーワード「出生前診断、選択的中絶、胎児条項」	1.2
6	10/8	永嶋哲也	2-3 誕生前後の生命倫理 出生後	重度障害児の治療中止に関わる医療倫理問題について理解する	重度障害児の治療中止に関わる倫理問題を説明できる	II-1	キーワード「重度障害新生児、トリソミー、仁志田のガイドライン」	1.0
7	10/15	永嶋哲也	2-4 誕生前後の生命倫理 生殖補助技術	生殖補助技術に関わる医療倫理問題について理解する	生殖補助医療に関わる倫理問題を説明できる	II-1	キーワード「生殖補助医療、人工授精、体外受精、代理出産」	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
8	10/22	永嶋哲也	3 医療倫理原則（四原則）	医療倫理の四原則について理解する	善行、無危害、正義、自律尊重の四原則を理解する	II-1	キーワード「医療倫理の四原則、正義原則、自律尊重原則」	1.4
			3-1 倫理原則 正義・公正の原則	正義・公正の原理について理解する	正義原則について医療資源の公正配分から説明できる	II-1		
9	10/29	永嶋哲也	3-1 倫理原則 正義・公正の原則	正義・公正の原理について理解する	正義原則についてトリアージを例に説明できる	I-6	キーワード「医療資源の公正配分、トリアージ」	1.2
10	11/5	永嶋哲也	3-2 倫理原則 自律尊重の原則	自律尊重の原理について理解する	自律尊重原則と患者の自己決定権の意味を説明できる	I-3	キーワード「インフォームドコンセント、パターナリズム」	1.0
			3-2a 倫理原則 自律尊重の原則 インフォームドコンセント	インフォームドコンセント取得について自律尊重の観点から説明できる	インフォームドコンセントから自律尊重原則を説明できる	I-5		
11	11/12	永嶋哲也	3-2a 倫理原則 自律尊重の原則 インフォームドコンセント	インフォームドコンセント取得について自律尊重の観点から説明できる	インフォームドアセント、パターナリズム、共同意思決定を説明できる	I-5	キーワード「インフォームドアセント、共同意思決定」	1.0
12	11/19	永嶋哲也	3-2b 倫理原則 自律尊重の原則 プライバシー	プライバシー尊重について自律尊重の観点から説明できる	プライバシーについて自律尊重原則との関連で説明できる	I-6	キーワード「私事権、自己情報コントロール権、個人情報保護法」	1.0
					個人情報保護についてプライバシーとの関連で説明できる	I-3		
13	11/26	永嶋哲也	4-1 動物解放・動物の権利 パーソン論	パーソン論について理解する	パーソン論における受苦能力と種差別について理解する	I-5	キーワード「パーソン論、受苦能力、種差別」	1.2
14	12/3	永嶋哲也	4-1 動物解放・動物の権利 パーソン論	パーソン論について理解する	ヒト種をパーソンとして説明できる	I-2	キーワード「パーソン、限界事例」	0.8
15	12/10	永嶋哲也	4-2 動物解放・動物の権利 食肉と実験	動物の権利について理解する	動物愛護運動と菜食主義について説明できる	I-2	キーワード「ヴィーガン、動物愛護、動物解放」	1.2
16	12/17	永嶋哲也	4-2 動物解放・動物の権利 食肉と実験	動物の権利について理解する	動物実験と3R原則について説明できる	I-3	キーワード「動物実験、3R」	1.0

医療・臨床心理学 【講義】

科目番号 OD021305

後期：15コマ
評価責任者：金光芳郎
担当教員：金光芳郎、田中 佑、足立友理、川口智也

(一般目標)
全人的医療の実践に向けて、人間（患者）の心理について学び、医療現場における患者の理解と支援に役立てる。

(獲得できるディプロマ・ポリシー [DP])
Ⅱ-3, Ⅱ-4, Ⅲ-16

(教育方法)
講義および演習
(実習・演習)

(学習方法)
講義前後に関連書籍の該当箇所を読み、講義内容を理解する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

(評 価)
定期試験、小テスト：試験後、模範解答を提示

(教 科 書)
指定なし

(参 考 書)
プラクティカル医療心理学 飯田紀彦編著 金芳堂
健康行動理論の基礎 松本千秋著 医歯薬出版
歯科医療人間科学へのいざない Kent G他著 新庄文明他訳 医歯薬出版
はじめての自律訓練法 松岡洋一他著 日本評論社

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/1	金光芳郎	ユニット1 コミュニケーション論概説	ヘルス・コミュニケーションについて理解する。	ヘルス・コミュニケーションにおける医師患者関係の重要性について述べる。	Ⅱ-4	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
2	9/8	金光芳郎	ユニット2 面接技法	医療面接技法の理論と方法を理解する。	言語的・非言語的コミュニケーションについて説明する。	Ⅱ-3	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
3	9/22	金光芳郎	ユニット2 面接技法	医療面接技法の理論と方法を理解する。	面接技法の理論と方法を説明する。	Ⅱ-3	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
4	9/29	金光芳郎	ユニット3 インフォームドコンセント	インフォームドコンセントの重要性とその方法を理解する。	インフォームドコンセントの要件について述べる。 インフォームドコンセントを阻害する要因について述べる。	Ⅲ-16 Ⅲ-16	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
5	10/6	金光芳郎	ユニット4 交流分析	交流分析の理論と自己理解・他者理解の重要性を理解する。	自我状態の構造について理解し、エゴグラムに基く解析をする。 交流分析により、他者との交流パターンを理解する。	Ⅲ-16 Ⅲ-16	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
6	10/30	金光芳郎	ユニット5 コーチングとカウンセリング	コーチングとカウンセリングの理論と方法を理解する。	医療におけるコーチングとカウンセリングの意義について述べる。	Ⅲ-16	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
7	11/6	金光芳郎	ユニット6 心と脳	感情や行動をコントロールする脳の機能を理解する。	行動や性格、感情などの働きと、脳神経との関連を説明する。 大脳皮質、辺縁系、視床下部、下垂体、副腎の機能を説明する。 心身相関における自律神経系、内分泌系、免疫系の関与を説明する。	Ⅲ-16 Ⅲ-16 Ⅲ-16	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
8	11/13	田中 佑	ユニット7 痛みの心理	痛みの評価法・治療法について理解する。	痛みの機序について説明する。 痛みの評価法、治療法について説明する。	Ⅲ-16 Ⅲ-16	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
9	11/20	金光芳郎	ユニット8 心理アセスメント	心理面の評価方法や心理テストについて理解する。	心理テスト、心理面接による心理面の評価法について述べる。	Ⅲ-16	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
					性格、うつ、不安、ストレス反応を評価する心理テストを説明する。	Ⅲ-16		
10	11/27	金光芳郎	ユニット8 心理アセスメント	心理面の評価方法や心理テストについて理解する。	面接法による心理アセスメントの技法と手順を述べる。	Ⅲ-16	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
11	12/4	足立友理	ユニット9 芸術療法	芸術療法について理解する。	芸術療法の概念について述べる。	Ⅲ-16	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
					芸術療法の実際について説明する。	Ⅲ-16		
12	12/4	金光芳郎	ユニット10 ストレスモデルと危機介入	ストレス理論と、問題解決のための危機介入の方法を理解する。	ライフステージをもとに成長段階と成長過程に伴うストレスと代表的な障害、病態を述べる。	Ⅲ-16	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
					ストレスモデル、適応、対処機制（行動・コーピング）、防衛機制、自己効力感、社会的支援について説明する。	Ⅲ-16		
					危機、悲哀、喪失のプロセスについて述べる。	Ⅲ-16		
					危機介入の問題解決の条件と過程を説明する。	Ⅲ-16		
13	12/11	川口智也	ユニット11 心理療法、依存症	ロジャーズの心理療法、依存症について理解する。	ロジャーズの心理療法について説明する。	Ⅲ-16	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
					依存症について説明する。	Ⅲ-16		
14	12/17	金光芳郎	ユニット12 不安の心理	不安の心理、不安の整理と行動への影響を理解する。	不安の脳生理学的機序を述べる。	Ⅲ-16	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
					不安の評価法と対処法について説明する。	Ⅲ-16		
15	12/18	金光芳郎	ユニット13 リラクゼーション法とストレス管理	リラクゼーションの技法について理解し、ストレスマネジメントの方法について学ぶ。	リラクゼーション法の意義、目的、方法について知る。	Ⅲ-16	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
					自己のストレスを評価し、ストレス管理を考える。	Ⅲ-16		

美学 【講義】

科目番号 0D022003

後期：15コマ

評価責任者：学生部長、永嶋哲也

担当教員：武 夢茹

（一般目標）

私たちは、日々の生活においてスマホをはじめとする様々な媒体を通して膨大なイメージを目にするが、一定の時間をかけてそのイメージとじっくり向き合い、イメージがもつ意味を考えたことはあるだろうか。あるイメージが誰によって何の目的のもとに作られたのか、そして私たちの意識にどのように働きかけているのかを批判的に考察することは、医療従事者として患者を診る上での観察力を高めることにつながる。

本講義では、対話型鑑賞という手法を用い、毎回の授業で1800～1900年代に制作された絵画作品を一点取り上げ、学生のディスカッションを中心に授業を進める。作品の中で何が起きているのか、作者が何を表現しようとしているのかについて、学生が考え、意見を交換する。授業を通して一つの作品に対して多様な解釈があることを知り、自らの思考を深め、人間の認知の構造について考える習慣を養うことができる。

本授業を通して、学生がイメージを観察する集中力、コミュニケーション能力、傾聴力、感性、批判的思考力を身に付けることが目標である。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）

Ⅱ-2, Ⅱ-3, VI-1

（教育方法）

・プロジェクターに絵画作品の画像を投影し、数分間観察してもらう。その後、作品について教員が問いを投げかけ、学生が順番に意見を言う方式で授業を進める。学生同士が互いの意見について建設的なフィードバックや質問をすることで、作品に対する理解を深めることを促す。

・授業は教員のパワーポイント及び配布資料をもとに進める。授業の中で出た意見については、各自ノートに記録をしておくこと。

・授業で取り上げる絵画作品は、学生の関心や能力を考慮して選定する。

（その他AL）

（学習方法）

各授業の「予習の項目」に記載した内容に取り組むこと。授業の中で配布した資料を読み、考えを深めること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評 価）

授業中の参加意欲（60％）コメントペーパーの提出（28％）、課題レポート（12％）

総合評価をポータルサイトに掲示する。

（教 科 書）

特に指定しない。

（参 考 書）

参考文献は、講義の中で適宜配布する。

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/3	武 夢茹	【ユニット1】イントロダクション	本講義のねらいと進め方を理解する。	絵画作品をじっくりと観察し、何が描かれているのか、作者は何を表現しようとしたのかについて議論する。	Ⅱ-3		1.0
2	9/10	武 夢茹	【ユニット2】イメージを言語化する	目に見えるイメージを的確な言葉で伝える練習をする。	絵画作品をじっくりと観察し、何が描かれているのか、作者は何を表現しようとしたのかについて議論する。医療従事者として必要な観察力について考える。	Ⅱ-3	教員の問いに対してコメントペーパーを書き、次の講義に提出すること。	1.0
3	9/17	武 夢茹	【ユニット2】イメージを言語化する	目に見えるイメージを的確な言葉で伝える練習をする。	絵画作品をじっくりと観察し、何が描かれているのか、作者は何を表現しようとしたのかについて議論する。医療従事者として必要な観察力について考える。	Ⅱ-3		1.0
4	9/24	武 夢茹	【ユニット2】イメージを言語化する	目に見えるイメージを的確な言葉で伝える練習をする。	絵画作品をじっくりと観察し、何が描かれているのか、作者は何を表現しようとしたのかについて議論する。医療従事者として必要な観察力について考える。	Ⅱ-3		1.0
5	10/1	武 夢茹	【ユニット3】芸術作品には多様な解釈があることを知る	他の学生との意見交換によって、自分の解釈を批判的に検証する。	絵画作品をじっくりと観察し、何が描かれているのか、作者は何を表現しようとしたのかについて議論する。医療従事者として必要な観察力について考える。	Ⅱ-3		1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
6	10/8	武 夢茹	【ユニット3】芸術作品には多様な解釈があることを知る	他の学生との意見交換によって、自分の解釈を批判的に検証する。	絵画作品をじっくりと観察し、何が描かれているのか、作者は何を表現しようとしたのかについて議論する。患者との理想的なコミュニケーションについて考える。	II-2	教員の問いに対してコメントペーパーを書き、次の講義に提出すること。	1.0
7	10/15	武 夢茹	【ユニット3】芸術作品には多様な解釈があることを知る	他の学生との意見交換によって、自分の解釈を批判的に検証する。	絵画作品をじっくりと観察し、何が描かれているのか、作者は何を表現しようとしたのかについて議論する。患者との理想的なコミュニケーションについて考える。	II-2		1.0
8	10/22	武 夢茹	【ユニット3】芸術作品には多様な解釈があることを知る	他の学生との意見交換によって、自分の解釈を批判的に検証する。	絵画作品をじっくりと観察し、何が描かれているのか、作者は何を表現しようとしたのかについて議論する。患者との理想的なコミュニケーションについて考える。	II-2		1.0
9	10/29	武 夢茹	【ユニット3】芸術作品には多様な解釈があることを知る	他の学生との意見交換によって、自分の解釈を批判的に検証する。	絵画作品をじっくりと観察し、何が描かれているのか、作者は何を表現しようとしたのかについて議論する。作品の解釈と認知の関係について考える。	II-2		1.0
10	11/5	武 夢茹	【ユニット4】物事を根拠づけて深く追求する	他の学生の意見に対して建設的なフィードバックをする。芸術作品が照射する社会的問題や認知の構造について考える。	絵画作品をじっくりと観察し、何が描かれているのか、作者は何を表現しようとしたのかについて議論する。作品の解釈と認知の関係について考える。	II-2	教員の問いに対してコメントペーパーを書き、次の講義に提出すること。	1.0
11	11/12	武 夢茹	【ユニット4】物事を根拠づけて深く追求する	他の学生の意見に対して建設的なフィードバックをする。芸術作品が照射する社会的問題や認知の構造について考える。	絵画作品をじっくりと観察し、何が描かれているのか、作者は何を表現しようとしたのかについて議論する。作品の解釈と認知の関係について考える。	II-2		1.0
12	11/19	武 夢茹	【ユニット4】物事を根拠づけて深く追求する	他の学生の意見に対して建設的なフィードバックをする。芸術作品が照射する社会的問題や認知の構造について考える。	絵画作品をじっくりと観察し、何が描かれているのか、作者は何を表現しようとしたのかについて議論する。学期末課題レポートについて説明する。	VI-1		1.0
13	11/26	武 夢茹	【ユニット4】物事を根拠づけて深く追求する	他の学生の意見に対して建設的なフィードバックをする。芸術作品が照射する社会的問題や認知の構造について考える。	絵画作品をじっくりと観察し、何が描かれているのか、作者は何を表現しようとしたのかについて議論する。説得力のある論を組み立てる練習をする。	VI-1		1.0
14	12/3	武 夢茹	【ユニット4】物事を根拠づけて深く追求する	他の学生の意見に対して建設的なフィードバックをする。芸術作品が照射する社会的問題や認知の構造について考える。	絵画作品をじっくりと観察し、何が描かれているのか、作者は何を表現しようとしたのかについて議論する。説得力のある論を組み立てる練習をする。	VI-1	学期末課題レポートに取り組み、講義の最終日に提出すること。	1.0
15	12/10	武 夢茹	【ユニット4】物事を根拠づけて深く追求する	他の学生の意見に対して建設的なフィードバックをする。芸術作品が照射する社会的問題や認知の構造について考える。	課題レポートで取り組んだ内容について各自プレゼンテーションをする。互いにフィードバックを行う。	VI-1		1.0

成績評価方法、GPA（Grade Point Average）の活用について

GPA（Grade Point Average）

各授業科目の評点を5段階評価し（A・B・C・C-・D）、それを4から0の点数（GP: Grade Point）に置き換えて、その点数と単位数を掛け、その総和（GPT: Grade Point Total）を履修単位数の合計で割った平均点

評点	評語	Grade Point (GP)
100点～80点	A	4
79点～70点	B	3
69点～60点	C	2
再試60点	C-	1
59点～0点	D	0

GPAの算出方法

$GPA = GPT \div \text{履修単位数の合計}$

($GPT = [GP \times \text{単位数}] \text{の総和}$)

実際の計算例

科目名	単位数 (a)	評点	評語	GP(b)	(a × b)
〇〇学講義	1	86	A	4	4
〇〇学講義	2	再試60	C-	1	2
〇〇学演習	2	60	C	2	4
〇〇学実習	3	72	B	3	9
計	8 ^{*1}				19 ^{*2}

$GPA = 19(GPT^{*2}) \div 8 (\text{単位数の合計}^{*1}) = 2.38$ （小数第3位四捨五入）

対象教科

原則として、進級あるいは卒業により認定された全ての授業科目を対象とする。

ただし、次の授業科目や修得単位等は計算に含めない。

- 1) 基礎教養科目で必要単位数を超えて取得した科目
- 2) 編入学または転入学した際の単位認定科目
- 3) 本学入学前に修得した単位認定科目
- 4) その他教授会で認めた GPA 算出除外科目

GPAの活用目的

- 1) 学生の個別の学習指導に活用

前年度 GPA が2.00未満の学生は、進級するのにかなりの努力が必要な状況にあります。

- 2) 特待生等の選考の参考資料に活用

授 業 要 綱

編集
発行 福岡歯科大学

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号
電話 092 (801) 0447番
Fax 092 (801) 0427番